



文部科学省 研究拠点形成費等補助金(先進的医療イノベーション人材養成事業)
「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」

九州がんプロ養成基盤推進プラン 報告書 平成25年度内部評価・外部評価

九州がんプロ養成基盤推進協議会連携大学

九州大学・久留米大学・産業医科大学・福岡大学・福岡県立大学・佐賀大学
長崎大学・熊本大学・大分大学・宮崎大学・鹿児島大学・琉球大学

目次

ご挨拶	1
九州がんプロ養成基盤推進プラン内部評価及び外部評価について	2
九州がんプロ養成基盤推進プラン事業概要	3
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン達成目標・評価指標	8
1. 「がん対策基本法」 「がん対策推進基本計画」 に従い全グループに共通する達成目標 ..8	
1.1 達成目標 1	8
1.2 達成目標 2	8
2. 個性や特色、得意分野等に応じた「九州がんプロ養成基盤推進プラン」固有の達成目標	9
2.1 がん教育改革	9
2.2 地域がん医療貢献	10
2.3 がん研究	11
「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン達成目標・評価指標」に対する「九州がんプロ養成基盤推進プラン」の取組状況	12
1. 「がん対策基本法」 「がん対策推進基本計画」 に従い全グループに共通する達成目標に対する取組	12
1.1 達成目標 1	12
1.2 達成目標 2	15
2. 個性や特色、得意分野等に応じた「九州がんプロ養成基盤推進プラン」固有の達成目標に対する取組	22
2.1 がん教育改革	22
2.2 地域がん医療貢献	37
2.3 がん研究	47
3. その他	57
(資料1) 「九州がんプロ養成基盤推進プラン」 各コース受入実績	59
(資料2) 「九州がんプロ養成基盤推進プラン」 がんに関する専門資格の取得者数	62

(資料 3) 「九州がんプロ養成基盤推進プラン」 学生アンケート結果	63
(資料 4) 「九州がんプロ養成基盤推進プラン」におけるがんの特化した講座の設置状況	88
九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価結果.....	89
1. 「がん対策基本法」 「がん対策推進基本計画」 に従い全グループに共通する達成目標に対する達成度	89
1.1 「達成目標 1」 について	89
1.2 「達成目標 2」 について	93
2. 個性や特色、得意分野等に応じた「九州がんプロ養成基盤推進プラン」固有の達成目標に対する達成度.....	97
2.1 「がん教育改革」 について.....	97
2.2 「地域がん医療貢献」 について	102
2.3 「がん研究」 について.....	107
3. 本年度の目標に対する達成度	110
4. 総括	111
九州がんプロ養成基盤推進プラン 外部評価結果.....	113
1. 「がん対策基本法」 「がん対策推進基本計画」 に従い全グループに共通する達成目標に対する達成度	113
1.1 「達成目標 1」 について	113
1.2 「達成目標 2」 について	114
2. 個性や特色、得意分野等に応じた「九州がんプロ養成基盤推進プラン」固有の達成目標に対する達成度.....	115
2.1 「がん教育改革」 について.....	115
2.2 「地域がん医療貢献」 について	116
2.3 「がん研究」 について.....	118
3. 総合評価	118
4. 総括	119
(参考資料) 教育コースの特色等.....	122

ご挨拶

平成24年度に文部科学省補助事業「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」に採択された「九州がんプロ養成基盤推進プラン」は、九州内の医療系大学院を持つ12大学が相互に連携・補完して、継続的ながん専門医療人養成のための教育・研究基盤を構築し、国際的な視野を持った指導者や優れたがん専門医療人を養成することを目指しています。また、九州大学大学院に新設した「九州連携臨床腫瘍学講座」では、多職種連携教育の構築・発信を行い、九州における「がん専門医療人養成」のための支援を行っています。さらに、地域貢献を目的とした拠点を九州北部に1拠点（長崎大学大学院臨床腫瘍学分野）、南部に1拠点（鹿児島大学大学院臨床腫瘍学講座）設置し、医師不足地域での研修やがん在宅医療研修等を行い、九州において継続的にがん専門医療人が養成できる基盤の構築を進めています。

平成25年度は、本プランに設置された多くのコースが開始された実質的なスタートの年であり、「第1回九州がんプロ全体研修会」、「アサン医療センター・がんセンター（ソウル）訪問研修」、「離島・僻地病院実習」等の新たな取組みを開始し、各大学との連携を深めると共に、本プランが掲げる人材育成に努めています。今後も本プランを継続的に発展・向上させるため、この度、書面による内部評価及び外部評価を実施し、その評価結果をこの報告書にまとめましたので、ご高覧いただければ幸いです。

なお、今回の内部評価及び外部評価にご尽力いただきました外部評価委員、各大学の教員及び事務担当の皆様には心より御礼申し上げます。

九州がんプロ養成基盤推進協議会長

九州大学大学院医学研究院長 片野光男

九州がんプロ養成基盤推進プラン内部評価及び外部評価について

「九州がんプロ養成基盤推進プラン」のPDCAサイクルを確立するため、「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン事業評価ガイドライン」を参考に、内部評価及び外部評価を実施する。

1. 実施方法

内部評価及び外部評価は書面にて実施するものとし、実施の手順は以下の通りとする。

- (1) 「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン達成目標・評価指標」(P.8-11)に対する各大学の取組状況(P.12-88)について、各大学のコーディネーターが内部評価(P.89-112)を実施する。
- (2) 各大学の「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン達成目標・評価指標」に対する取組状況及び内部評価結果から、以下の講座が分担して、「九州がんプロ養成基盤推進協議会」として内部評価(P.89-112)を行う。
 - ・九州大学大学院医学研究院 九州連携臨床腫瘍学講座
 - ・長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 展開医療科学講座臨床腫瘍学分野
 - ・鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 臨床腫瘍学講座
- (3) 「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン達成目標・評価指標」に対する「九州がんプロ養成基盤推進プラン」の取組状況及び内部評価結果等を参考に、外部評価委員が外部評価(P.113-121)を行う。

2. 実施期間

- (1) 九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価の確定期限
平成26年3月7日(金)まで
- (2) 外部評価の実施期間
平成26年3月10日(月)～平成26年3月31日(月)

3. 外部評価委員

- ・南 博信 教授(神戸大学大学院医学研究科 腫瘍内科学分野)
- ・千堂 年昭 教授(岡山大学病院 薬剤部)
- ・鈴木 志津枝 教授(神戸市看護大学 学長)

九州がんプロ養成基盤推進プラン事業概要

1. 事業の概要・特徴

九州がんプロ養成基盤推進プランでは、九州大学大学院に「九州連携臨床腫瘍学講座」を新設し、九州の全医療系大学院や関連病院、九州地方知事会等と連携を行い、継続的ながん専門医療人養成のための教育・研究基盤として、海外医療機関等とも連携を行いながら、国際的な視野を持った指導者や優れたがん専門医療人を養成する。がんプロフェッショナル養成プランの発展形として、上記の講座を中心に研究指導とがんプロ全国e-learningクラウド等を用いての大学院教育を実施する。

また、「九州連携臨床腫瘍学講座」には医師以外の医療職の教員を配置し、多職種連携教育の構築、発信を行い、九州における「がん専門医療人養成」のための支援を行う。

一方、九州内に地域貢献を目的とした拠点を九州北部に1拠点（長崎県）、南部に1拠点（鹿児島県）を設置し、医師不足地域での研修、がん在宅医療研修等を行う。

2. 事業実施の必要性

<課題>

①【指導者養成に係る課題】：がん専門医療人やがん医療研究者を養成する指導者の不足

がん専門医療人やがん研究者を指導する指導者が不足しているため、継続的に専門医等を養成していく仕組みを整備することができない。優秀な指導者に負荷がかかっている状況に加えて、今後も増加するがん患者数に応じた専門医等を輩出していくことが難しい。

②【国際連携に係る課題】：がん医療に関する海外医療機関等との連携体制の未整備

がん医療に関する海外医療機関との体系的な連携体制が未整備であるため、海外の最先端のがん治療方法を即座に取り入れることが難しい。また、がん専門医療人やがん研究者ががん医療に関する国際的な視野を持つための研修先が未開拓であり、体系的な海外実習ができていない。

③【がん医療の均てん化に係る課題】：九州内におけるがん専門医療人の偏在

がん医療はチーム医療である。チーム医療は、施設内で完結するものではなく、大学病院や周辺あるいは遠方の医療機関と連携して、がん患者の診断・治療を行うことにより、患者のQOLを維持しながら高度ながん医療を展開することができる。しかし、現状は、連携してがん患者をケアするには、地域の医療機関等ががんの専門医や医師以外のがんに精通する医療人が不足しており、安全で効果的ながん医療を実施する障壁となっている。

④【教育改革に係る課題】：eラーニングシステムや多職種連携教育における体制の継続

九州がんプロフェッショナル養成プランにおいて、九州全域一律で高度な教育を受講することができるeラーニングシステムを開発し、多職種合同による研究課題発表の実施や医療現場における連携能力を培う取り組みなどがん教育改革を進めながら、がん専門医療人の養成をしてきたが、その仕組みを定着させ、継続的な、がんに関する臨床現場におけるリーダー養成基盤へと発展させるため、更なるがん教育改革が必要である。

<対応策>

【①関係】九州大学に高度先端臨床腫瘍学コースを設けることをはじめ、各大学院コースでがん専門医療人やがん研究者を指導する指導者・リーダーとなる人材を養成し、継続的に専門医等を輩出する仕組みを構築する。

【①②③関係】九州大学に「九州連携臨床腫瘍学講座」を設置し、指導者の養成を行う。併せて、当該講座で海外医療機関等との連携体制を構築することで、連携大学のコース生に対して国際的な視野を持つための教育を行うことができるとともに、海外の最先端の事例を取り入れた新たな治療方法を開発することができる。また、がん医療の均てん化は日本のみが享受するものではなく、アジアを中心とした発展途上国の医療機関との連携を通じて共同事業を展開、指導的な役割を担うことにより、優れたがん医療・研究者を育成することができる。

【③関係】九州大学に置く「九州連携臨床腫瘍学講座」及び長崎大学、鹿児島大学に置く「地域がん医療に貢献する講座」が中心となり、関連病院、各県の医師会、九州地方知事会等と連携して九州におけるがん専門医療人の均てん化のための基盤を構築する。

【④関係】九州大学大学院の講座内に医師以外の医療職の教員を配置し、各大学院コースに多職種合同カンファレンス等をカリキュラムとして取り入れるとともに、テレビ会議システムにより九州全域のがん専門医療人に対してリアルタイムで多職種連携教育を行う。

3. 事業の成果及び効果（達成目標）

・「九州連携臨床腫瘍学講座」を設置し、がん専門医療人やがん研究者を指導する指導者が養成され、継続的に専門医等が養成できる基盤が構築される。

・がん医療に関する海外医療機関等との連携体制が確立される。

・「地域がん医療に貢献する講座」を設置し、九州地方知事会等とともにがん医療の均てん化のための研究が行われ、がん医療の過疎地域の実態が理解でき、僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備えた医療人が養成される。

・九州全域一律で高度な教育、多職種連携教育等を受けることができる、eラーニングシステム、テレビ会議システムによる講義配信の基盤が構築される。

4. 大学間連携の考え方（大学ごとの役割分担や連携のメリット等）（4行程度以内）

九州大学の新講座で実施する講義を連携大学に全国e-learningクラウド等を使い配信することで、九州内の限られた教育リソースを効果的に各大学院コースに分配することができる。また、長崎大学、鹿児島大学の新講座がそれぞれ九州北部、南部の中心となり、がんにおける地域医療について研究、指導者養成を行い、がん医療の均てん化に寄与する。

5. 事業の運営体制

連携大学の医学研究科等の長が、各大学におけるプログラムの責任者となり、九州大学大学院医学研究院長が統括する。各大学には、コーディネーター1名を置く。九州大学に幹事コーディネーター及びプログラムの実務運営担当者(新講座教授)を配置した九州がんプロ養成基盤推進事務局を設け、プログラム全体の円滑な運営を図る。

6. 事業の評価体制

九州大学大学院医学研究院長が議長となり、連携大学のコーディネーターや連携医療機関等代表者を招集し九州がんプロ養成基盤推進協議会を1年に2回開催し、プログラムの進捗状況評価を行う。

また、外部の有識者を評価委員とする評価委員会を設置し、外部評価を実施する。

7. 補助期間終了後の事業継続に関する検討状況

補助期間終了後は、自大学において予算を確保し、企業や地方公共団体からの寄付を募り、補助金を確保するなどして、新設する講座やコースを維持し、事業を継続することを検討している。

また、補助期間中に、**事業継続のための検討委員会**を設け、検討を行う。

8. 実績及び計画

< 24年度 >

①②③④ 4月：新しい教育コースを開始、九州がんプロ養成基盤推進事務局、eラーニング支援室の設立、ホームページを開設

①③④ 4月：**全国e-learningクラウド・バックアップシステム構築の検討**を開始

①②③④ 5月：事業推進のための九州がんプロ養成基盤推進協議会を開催（以後、毎年5月、2月に開催）、連携大学との協定締結

①②③④ 10月：九州大学、長崎大学、鹿児島大学に講座を設置

①③④ 12月：連携大学間におけるテレビ会議システムを整備

② 2月：連携体制構築のための海外医療機関等調査

< 25年度 >

①②③④ 4月：新しい教育コースを開始

①③④ 7月：多職種・連携大学合同全体研修会の開催（以後、毎年定期開催）

② 11月：研究者等養成のための海外医療機関等との交流事業を開始

①②③④ 3月：プログラムの評価のための書面による内部評価及び外部評価

< 26年度 >

①②③④ 2月：プログラムの評価のための中間外部評価シンポジウムの開催

< 27年度 >

①②③④ 4月：事業継続のための検討委員会を設け、検討を開始

①②③④ 12月：患者団体や一般参加者を交えた、キャンサーボードカンファレンスの実施（国民に対する成果発表・報告）

< 28年度 >

①②③④ 4月：事業継続のための検討委員会による継続案の報告、継続体制整備開始

①②③④ 10月：プログラムの評価のための最終外部評価・シンポジウムの開催

<各大学の役割分担等>

大学名	コーディネーター職・氏名	設置するコースの名称	重点
九州大学	教授・片野 光男	高度先端臨床腫瘍学コース	教育
		高度先端がん放射線治療医師養成コース	研究
		がん研究薬剤師コース博士課程	研究
		がん看護研究者養成コース博士後期課程	研究
		医学物理士養成コース博士後期課程	教育
		がん専門臨床検査技師コース博士後期課程	教育
久留米大学	教授・藤井 輝彦	博士課程先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット	教育
		①「化学薬物療法専門医養成コース」	
		②「放射線療法専門医養成コース」	
		③「緩和医療専門医養成コース」	
		修士課程「がん看護専門看護師教育課程」	地域
		先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット	教育
①「化学薬物療法専門医養成コース (インテンシブ)」			
②「放射線療法専門医養成コース (インテンシブ)」			
③「緩和医療専門医養成コース (インテンシブ)」			
	修士課程「科目等履修制度」(インテンシブ)	地域	
産業医科大学	教授・興梠 征典	臨床腫瘍医養成コース	教育
		放射線腫瘍医養成コース	教育
福岡大学	教授・田村 和夫	がん専門医療人指導者コース	教育
		地域がん医療専門医療人養成コース	地域
		がん医療専門職業人コース (インテンシブ)	地域
福岡県立大学	教授・村田 節子	地域がん看護人材養成コース	教育
佐賀大学	准教授・林 真一郎	がん地域診療医師養成特別コース	地域
		がん地域医療人養成コース	地域
		がん地域診療医師養成特別コース (インテンシブ)	地域
		がん地域医療人養成コース (インテンシブ)	地域
長崎大学	教授・芦澤 和人	がん専門医師・薬剤師養成コース	教育
		がん専門看護師養成コース	教育
		がん地域貢献医師・薬剤師養成コース	地域
		がん地域貢献看護師養成コース	地域
熊本大学	教授・馬場 秀夫	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	教育
		がん看護専門看護師コース	地域
		医学物理士養成コース 博士前期課程	教育

大分大学	教授・宮崎 英士	地域貢献がん看護専門看護師コース	地域
		地域貢献がん専門医療人養成コース	地域
		地域がん医療専門医療人養成コース (インテンシブ)	地域
		多職種連携教育コース (インテンシブ)	教育
		がん研究者養成コース (インテンシブ)	研究
宮崎大学	教授・下田 和哉	地域がん治療専門医育成コース	地域
		地域医療に貢献するがん看護専門看護師養成コース	地域
		地域がん総合治療医育成コース (インテンシブ)	地域
		成人 T 細胞白血病専門医療人養成コース (インテンシブ)	地域
鹿児島大学	特任教授・上野 真一	僻地・離島医療専門医療人養成コース	地域
		がん専門薬剤師養成コース (インテンシブ)	地域
		消化器がん集学的治療専門医療人養成コース (インテンシブ)	地域
		緩和ケア専門医療人養成コース (インテンシブ)	地域
		成人 T 細胞白血病専門医療人養成コース (インテンシブ)	地域
琉球大学	准教授・戸板 孝文	腫瘍疼痛制御緩和ケアプログラム	教育
		放射線腫瘍専門医養成プログラム	地域
		がん薬物療法専門医プログラム	地域
		医学物理学プログラム	地域
		がん看護専門看護師養成プログラム	地域
		地域がん専門薬剤師養成コース (インテンシブ)	地域
		がん看護エキスパートナース養成コース (インテンシブ)	地域

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン達成目標・評価指標

1.「がん対策基本法」「がん対策推進基本計画」に従い全グループに共通する達成目標

1.1 達成目標1

放射線療法、化学療法、手術療法、緩和ケア、小児がん、がん研究等のがん医療に携わる専門的な医療従事者の育成

達成目標に対する評価指標
1) 各コースの受入状況
2) コース履修者のがんに関する専門資格の取得者数
3) コース履修者、修了者の満足度
4) がんに特化した臓器横断的な講座の活動状況
5) 教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの実施状況（開催数、参加人数等）

1.2 達成目標2

チーム医療、がん登録、がんの普及啓発等の推進

達成目標に対する評価指標
1) 医療チーム（放射線チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等）の整備数
2) キャンサーボードの新たな導入数
3) 医療チーム、キャンサーボードの質の向上のための取組状況
4) コース履修者の医療チーム、キャンサーボードへの参加状況（参加人数、期間）
5) 院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績
6) 社会への情報発信の取組実績（一般向け講演会開催回数・参加者数、本事業ホームページ更新頻度・アクセス数等）

2.個性や特色、得意分野等に応じた「九州がんプロ養成基盤推進プラン」固有の達成目標

2.1 がん教育改革

九州全域一律で高度な教育、多職種連携教育等を受けることができるシステムを整備し、がん専門医療人を指導する指導者を養成することで、継続的に専門医等を養成できる基盤を構築する。

達成目標に対する評価指標		
	定性的評価指標	定量的評価指標
1) 多職種連携に関するセミナーの取組	多職種連携に関するセミナーの内容、及び、参加大学院生の多職種連携に対する意識の向上度合。	多職種連携に関するセミナーの開催回数(年間 20 回)、参加者数(年間 890 人)、参加大学院生数(年間 90 人)。
2) 院内合同カンファレンスの取組	院内合同カンファレンスの質の向上。	院内合同カンファレンスの開催回数(年間 580 回)、参加者数(年間 3470 人)、参加大学院生数(年間 440 人)。
3) 病理部実習の取組	病理部実習の内容、及び、参加大学院生のがん診療における病理診断の重要性の意識の向上度合。	病理部実習の実施回数(年間 60 回)、参加者数(年間 150 人)。
4) e-learning 講義の受講回数		e-learning 講義の受講回数(年間 540 回)。
5) 単位互換制度利用した大学院生数		単位互換制度利用した大学院生数(年間 10 人)。
6) がん診療拠点、緩和ケア専門病院との合同セミナーの取組	がん診療連携拠点病院、緩和ケア専門病院との合同のセミナーの内容	がん診療連携拠点病院との合同のセミナーの開催回数(年間 20 回)、参加者数(年間 680 人)、参加大学院生数(年間 70 人)。 緩和ケア専門病院との合同のセミナーの開催回数(年間 20 回)、参加者数(年間 650 人)、参加大学院生数(年間 30 人)。
7) 大学院生をがん診療連携病院、緩和ケア専門病院でのリーダー的役割を担える人材として養成できたか	大学院生をがん診療連携病院、緩和ケア専門病院でのリーダー的役割を担える人材として養成できたか。	
8) 大学院生に対して将来の指導者としての教育が実施できたか	大学院生に対して将来の指導者としての教育が実施できたか。	

2.2 地域がん医療貢献

がん医療の均てん化のための研究を行い、がん医療の過疎地域の実態が理解でき、僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備えた医療人を養成する。

	達成目標に対する評価指標	
	定性的評価指標	定量的評価指標
1) 地域医療機関へのがんプロ大学院生の派遣	地域医療機関へのがんプロ大学院生の派遣期間。	地域医療機関へのがんプロ大学院生の派遣人数(年間 20 人)。
2) 地域がん医療に関する研究論文発表数		地域がん医療に関する研究論文発表数(年間 10 件)。
3) 地域医療機関、医師会、調剤薬局、薬剤師会、看護団体、患者団体等と連携した取組		地域医療機関、医師会、調剤薬局、薬剤師会、看護団体、患者団体等と連携した取組実績(年間 30 件)。
4) 地域医療機関又は患者から、がんプロ大学院生に対して、高い満足度、評価を得ることができたか	地域医療機関又は患者から、がんプロ大学院生に対して、高い満足度、評価を得ることができたか。	地域医療機関との合同のセミナーの開催回数(年間 40 回)、参加者数(年間 1030 人)、参加大学院生数(年間 90 人)。
5) 地域医療機関との合同のセミナーの取組	地域医療機関との合同のセミナーの内容。	
6) 大学院生を僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備えた医療人として養成できたか	大学院生を僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備えた医療人として養成できたか。	
7) 地域医療機関との合同のカンファレンスの取組	地域医療機関との合同のカンファレンスの内容。	地域卒業生のがんプロ大学院入学(入学生数 年間 10 人)。
8) 地域卒業生のがんプロ大学院入学生数		地域医療機関との合同のカンファレンスの開催回数(年間 40 回)、参加者数(年間 140 人)、参加大学院生数(年間 30 人)。

2.3 がん研究

がん研究者を指導する指導者を養成し、がん医療に関する海外医療機関等との連携体制を確立して、継続的にがん研究におけるリーダーを養成できる基盤を構築する。

達成目標に対する評価指標		
	定性的評価指標	定量的評価指標
1) 大学院生の臨床研究、臨床試験の取組	大学院生の臨床研究、臨床試験の内容。	臨床研究、臨床試験を実施した回数(年間 20 回)、及び、研究や試験治療などへの大学院生の参加件数(年間 20 件)。臨床研究、臨床試験を立案した件数(年間 10 件)、プロトコール作成、倫理委員会審査などへの大学院生の参加件数(年間 10 件)。
2) 大学院生による国際学会での発表	大学院生による国際学会への発表について国際的な評価を得ることができたか。	大学院生による国際学会での発表件数(年間 20 件)。
3) 海外の研究機関への研修派遣	大学院生を海外の研究機関へ派遣し、国際的な評価を得ることができたか。	海外の研究機関への研修派遣件数(年間 10 件)。
4) 大学院生を英語で議論できるまでに指導できたか	大学院生を英語で議論できるまでに指導できたか。	

「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン達成目標・評価指標」に対する

「九州がんプロ養成基盤推進プラン」の取組状況

平成 26 年 3 月末時点見込み

1. 「がん対策基本法」「がん対策推進基本計画」に従い全グループに共通する達成目標に対する取組

1.1 達成目標1

放射線療法、化学療法、手術療法、緩和ケア、小児がん、がん研究等のがん医療に携わる専門的な医療従事者の育成

1) 各コースの受入状況

取組状況
(資料 1) 「九州がんプロ養成基盤推進プラン」各コース受入実績参照

2) コース履修者のがんに関する専門資格の取得者数

取組状況
(資料 2) 「九州がんプロ養成基盤推進プラン」がんに関する専門資格の取得者数参照

3) コース履修者、修了者の満足度

取組状況
九州がんプロ養成基盤推進協議会にて学生アンケートを実施した。 ※ (資料 3) 「九州がんプロ養成基盤推進プラン」学生アンケート結果参照
その他に、宮崎大学において、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの目的で開催されている宮崎大学がんセミナーへの参加者へアンケートを実施したところ、約 9 割の参加者は講義の内容に満足していた。

4) がんの特化した臓器横断的な講座の活動状況

取組状況	
九州大学	<p>①九州がんプロ養成基盤推進プランの運営を中心的に担う九州連携臨床腫瘍学講座により、本プランの目的に沿ってがんの特化した臓器横断的な教育科目（講義、実習）を立案、設置して実施した。特に緩和医療、支持療法、国際連携、地域連携など臓器横断的な視点を要する分野を重点的に行った。</p> <p>②医師、看護師、薬剤師、医学物理士など個別の職種を対象とした講演会、研究会にも、講座教員が積極的に参加し、運営や議論に加わった。</p> <p>③講座教員が大学病院でのがんセンターボードのほぼ全てに出席し、臓器横断的な立場から議論に参加した。</p> <p>④毎週2回の講座カンファレンスにおいて多臓器のがんの診断法、治療法（手術療法、放射線療法、薬物療法、緩和医療など）について最新情報を交換し、大学院生の教育に反映した。</p> <p>⑤多臓器の癌を対象とした講演会、研修会、市民公開講座を企画立案し、実施した。</p> <p>⑥臓器横断的ながん医療の専門家として、支持療法を含む複数の学会のがん診療ガイドライン作成に携わった。</p>
長崎大学	<p>がん診療に関する講演会・研修会の立案を行い開催。e-learningを用いた臨床腫瘍学の講義および輪読会、リサーチセミナーの開催。地域貢献のための大学院の実習として離島・僻地実習を開始。がんセンターボードの準備および開催等。</p>
鹿児島大学	<p>①九州大学との連携により、教員・大学院生の研修合宿を施行。</p> <p>②アサン医療センター（韓国）の医療事情ならびに臨床研究体制を見学し、国際的視野を広げる。</p> <p>③院内の化学療法レジメン審査と臓器横断的患者検討会を行うべく毎週外来化学療法カンファレンス開催を運営する。大学院生にもミニレクチュアとレジメン審査に携わってもらう。</p> <p>④院内がんセンターボードを運営し、大学院生や多職種の参加を図る。</p> <p>⑤県内拠点病院との合同研修会を年2回主催する。とくにがん診療企画（化学療法と放射線療法）、がん登録、がん相談支援の3部門に関しては企画立案にも携わる。またこの活動を基盤にして、九州各県医師、他の職種、ならびに国立がんセンターなどとのフォーラムへも協力体制を取る。</p> <p>⑥多職種連携とその教育を図るべく、緩和ケアチームとの連携、医学部教育との連携（がん患者のチーム医療に関して責任者として協力）、また薬剤師教育に関わる。</p> <p>⑦がん診療地域連携を促進すべく、行政、すべてのがん診療拠点病院、県医師会、県薬剤師会等の包括的活動の推進を図る。またセミナー・講演等を通じて、多職種に地域連携の啓発活動を行う。もちろん、この活動は大学院生やインテンシブコース受講者にも還元している。</p>

※（資料4）「九州がんプロ養成基盤推進プラン」におけるがんの特化した講座の設置状況参照

5) 教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの実施状況（開催数、参加人数等）

取組状況	
九州大学	<p>教員の指導能力向上のため、以下の取組を行った。</p> <p>①九州連携臨床腫瘍学講座において、所属する教員 5 名によるカンファレンスを週 2 回の頻度で開催した。</p> <p>②九州がんプロに参加する各大学の教員及び学生が参加する九州がんプロ全体研修会を開催し、九州大学から教員 6 名が参加した。</p> <p>③韓国アサン医療センター訪問研修を開催し、九州大学から教員 3 名が参加し、施設見学を行った。</p> <p>④がん看護研究者コース教員 1 名が、2013 年 9 月 1 日～12 日に MD アンダーソンがんセンターおよびメモリアルスローンケタリングがんセンターにて施設見学および意見交換を行い、最先端のがん看護研究、教育に関する有意義な情報収集を行うことができた。</p>
久留米大学	<p>教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントは実施しておらず、今後の課題と考える。</p>
産業医科大学	<p>定期的に、頭頸部癌キヤンサーボード（隔週開催、平均 22 名参加）、肺癌キヤンサーボード（毎週開催、平均 22 名参加）、乳癌キヤンサーボード（毎月開催、平均 31 名参加）、胃癌・大腸癌キヤンサーボード（毎月開催、平均 32 名参加）、肝細胞癌キヤンサーボード（毎月開催、平均 28 名参加）、婦人科癌キヤンサーボード（毎週開催、平均 21 名参加）、緩和ケアキヤンサーボード（毎週開催、平均 11 名参加）、泌尿器癌キヤンサーボード（毎月開催、平均 15 名参加）を開催した。さらにすべての部署による合同キヤンサーボードを、7 月(68 名参加)と 11 月（76 名参加）と 3 月（72 名参加）に開催し、癌に特化した FD に取り組んだ。</p> <p>また、8 月に医学部教員研修会（59 名参加）、1 月に大学院教員研修会（75 名参加）を開催した。</p>
福岡大学	<p>第 1 回九州がんプロ全体研修会に教員 1 名が参加。</p>
福岡県立大学	<p>実績なし。</p>
佐賀大学	<p>実績なし。</p>
長崎大学	<p>①第 1 回九州がんプロ全体研修会 （平成 25 年 7 月 13～14 日、参加人数 38 名、うち長崎大より 8 名参加）</p> <p>②韓国アサンメディカルセンター訪問 （平成 25 年 11 月 4～5 日、参加人数 9 名、うち長崎大より 2 名参加）</p>
熊本大学	<p>平成 24 年度は 23 回、参加者合計 782 名 平成 25 年度は 22 回、参加者合計 621 名(見込)</p>
大分大学	<p>実績なし。</p>
宮崎大学	<p>実績なし。</p>

鹿児島大学	①九州がんプロ合宿（計4名参加）※事例検討 ②外来化学療法室カンファレンス時に講義を担当※講座ホームページで閲覧可能 ③市民公開講座（1回、一般市民参加人数120名） ④アサンメデイカルセンター（AMC）における臨床研究体制見学（2名参加）
琉球大学	第1回九州がんプロ全体研修会に教員1名が参加。

1.2 達成目標2

チーム医療、がん登録、がんの普及啓発等の推進

1) 医療チーム（放射線チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等）の整備数

取組状況	
九州大学	緩和ケアチームのみ整備されている。
久留米大学	医療チームとしては緩和ケアチームが整備されている。
産業医科大学	消化管内科・肝胆膵内科、呼吸器内科、神経・精神科、消化器・内分泌外科、呼吸器・胸部外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、産婦人科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、歯科・口腔外科、化学療法センター・血液科、病理診断科、内視鏡部、放射線部、薬剤部、臨床検査・輸血部、病理部、看護部の20部署による頭頸部癌カンサーボード、肺癌カンサーボード、乳癌カンサーボード、胃癌・大腸癌カンサーボード、肝細胞癌カンサーボード、婦人科癌カンサーボード、緩和ケアカンサーボード、泌尿器癌カンサーボードの8チームを整備している。
福岡大学	造血器診断チームを整備。
福岡県立大学	※臨床がないので該当せず
佐賀大学	化学療法チーム、緩和ケアチームは既に整備済み。
長崎大学	緩和ケアチームは旧がんプロ時代から既に整備されており、放射線チームも今年度放射線認定看護師が誕生し、チームとして稼働を始めた。化学療法に関しては、外来化学療法は既に整備されているが、入院患者に対するチーム医療が行われていない。
熊本大学	現在のところ緩和ケアチームのみ。 化学療法チームとしては無いが、外来化学療法運営委員会、レジメン審査委員会を設置している。
大分大学	緩和ケアチーム、化学療法チーム（腫瘍・血液内科）、放射線チーム（放射線内科）のグループが整備されている。
宮崎大学	当院では、放射線チーム、化学療法チーム、緩和ケアチームの3チームを整備している。
鹿児島大学	放射線チーム、化学療法チーム、緩和ケアチームともに整備されており、鹿児島大学病院鹿児島県がん診療連携拠点病院ホームページ（腫瘍センター） http://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~can/ に掲載。
琉球大学	緩和ケアチーム・・・1

2) キャンサーボードの新たな導入数

取組状況	
九州大学	現在 16 のキャンサーボード（脳腫瘍、口腔、頭頸部、気管支・肺・縦膜・胸膜、消化管、肝臓、胆嚢・膵臓、乳腺・甲状腺・副甲状腺、腎・副腎・泌尿生殖器、婦人科がん、血液がん、皮膚がん、骨軟部腫瘍、小児がん、眼部腫瘍、原発不明がん）が既に導入されており、キャンサーボードの新たな導入はない。症例検討会の実施件数は、平成 25 年 4 月から 11 月までで 2369 件である。
久留米大学	臓器別キャンサーボード数は 16 であり、定期的開催されている。また、組織横断的な緊急キャンサーボードも必要時に開催されている。
産業医科大学	耳鼻咽喉科・頭頸部外科と放射線科で構成していた頭頸部癌キャンサーボードに、口腔癌キャンサーボードを統合し、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、放射線科、歯科・口腔外科の 3 部署による新たな頭頸部癌キャンサーボードを整備した。
福岡大学	新たな導入はない。
福岡県立大学	※臨床がないので該当せず
佐賀大学	新たな導入はない。
長崎大学	キャンサーボードは旧がんプロ時代から既に整備されている。小児に特化したキャンサーボードの導入を、今年 1 月より開始した。
熊本大学	新たな導入はない。
大分大学	すでに 14 部門で活動中であり、新たな導入はない。
宮崎大学	平成 25 年度 レジメンの登録 20 件
鹿児島大学	計 12 回／年 施行
琉球大学	新たな導入はない。

3) 医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組状況

取組状況	
九州大学	<p>①毎月1回開催される大学病院の緩和ケアチーム運営委員会に、九州連携臨床腫瘍学講座の教員が出席して質の向上に取り組んでいる。特に毎回、緩和ケアチームへの病院内各診療科からの相談件数や内容の確認を行い、チームの活動の質を向上するための大学内外で実施される研修会の情報の周知を行っている。</p> <p>②大学病院のがんセンターにより運営されている各臓器のカンサーボードを毎月実施し、その質の向上のため討議内容を院内全体に周知している。院内で実施する抗癌剤治療レジメンはカンサーボードの合意の上で申請することとし、治療の質を担保することを目指している。</p>
久留米大学	組織横断的な緊急カンサーボードでは、各臓器の専門医や薬剤師、看護師などが積極的に参加しており、事例の問題点を多角的にとらえ、診療の幅と質を向上させている。
産業医科大学	臓器別カンサーボードを定期的な開催とすることで、参加を促し、多職種による包括的な議論ができる環境とした。さらにすべての部署による合同カンサーボードを開催し、多くの参加者に議論の進み方等を示すことで、横断的な情報の共有及び診療の質の向上に取り組んだ。
福岡大学	学内のメディカルセミナー、医学会で講演を聴講。
福岡県立大学	※臨床がないので該当せず
佐賀大学	緩和ケアチームの内容充実のため、研修会を開催。がんリハビリチームの普及に向けた講習会を2月22-23日に実施予定。
長崎大学	医療チームに関して、緩和ケアは、拠点病院の整備指針に基づき緩和ケアセンターの設立の準備を始めた。化学療法は、入院患者に対するチーム医療の実践を検討している。カンサーボードに関して、年度最終回に、1年間の症例のレビューを行い、参加へのフィードバックを行う。
熊本大学	緩和ケアチームでは2ヶ月に1度、院内の緩和ケア協力医師、看護師、薬剤師を対象とした勉強会を開催しています。 また、化学療法セミナーなども開催しております。
大分大学	各部門同士の交流合同会議を行っている。
宮崎大学	定期的に症例検討会等を開催し、質の向上に取り組んでいる。 ①みやざきホスピス・緩和ケアネットワーク学術集会を年2回開催した(参加:190名) ②宮崎大学がんセミナーを年11回開催した(参加:延121名) ③宮崎大学がん診療部医療連携講演会を開催した(参加:100名)
鹿児島大学	化学療法医療チーム向上のために、国立がん研究センターがん対策情報センター主催の「がん化学療法医療チーム養成にかかる指導者研修」に参加。 また、毎週の外来化学療法室カンファレンス中にミニレクチャーを開催。
琉球大学	カンサーボードへの症例提出の際に、ご意見伺いたい診療科や職種を伺い、その対象者が確実に参加できるように調整している。その他、カンサーボード開催時に参加者から問題点などを伺い、改善に努めている。

4) コース履修者の医療チーム、カンサーボードへの参加状況（参加人数、期間）

取組状況	
九州大学	消化器部会に 24 人（2 名×12 回）、呼吸器部会に 12 人（1 名×12 回）、乳腺部会に 12 人（1 名×12 回）の頻度で参加している。この他に、呼吸器腫瘍の多職種連携共同のカンファレンスに 160 人（4 人×40 回）、消化器腫瘍の多職種連携共同のカンファレンスに 200 人（5 人×40 回）が参加している。
久留米大学	臓器別カンサーボードや緊急カンサーボードに積極的に参加している。
産業医科大学	コース履修者 2 名には、年間を通じて所属講座に関連するカンサーボードへの参加を勧めている。
福岡大学	①医療チーム（1 名／月 2,3 回） ②カンサーボード（1 名／月 4 回）
福岡県立大学	※臨床がないので該当せず
佐賀大学	履修者 1 名は佐賀県医療センターの肺癌カンサーボード、緩和ケアチームに参加。
長崎大学	大学院生は、緩和ケアチームおよび外来化学療法室での実習を必修としている（両方で 4 5 時間）、カンサーボードは月 1 回開催しており、大学院生が平均 5 名程度参加している。
熊本大学	なし
大分大学	各コース受講者の延べ参加人数は、約 100 人/年。インテンシブコース受講者の参加人数の方が多い。チーム医療セミナーなどへの参加者は学外を含め約 40 人/年。
宮崎大学	①医療チーム ・化学療法チーム（3 名） ・緩和ケアチーム（1 名） ②カンサーボード ・大腸癌カンサーボード（1 名） ・頭頸部治療カンファレンス（0 名） ・肝細胞癌カンファレンス（2 名） ・肝胆膵院内合同カンファ（2 名） ・肺癌、乳癌、縦隔腫瘍カンファレンス 3 科合同（1 名） ・造血器腫瘍カンファレンス（1 名） ・消化器カンファ（1 名）
鹿児島大学	外来化学療法室カンファレンス（毎週）とカンサーボード（1 回／月）には必ずコース履修者 3 名が参加。
琉球大学	平成 25 年度は、カンサーボードを 4 月 17 日、5 月 15 日、6 月 19 日、10 月 16 日、12 月 18 日、12 月 25 日の合計 6 回開催した。参加人数が合計 136 名であった。

5) 院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績

取組状況	
九州大学	院内がん登録件数は平成 19 年から平成 24 年の間で総計 20869 件であり、平成 22 年の全国集計では西日本で第 2 位であった。平成 25 年度の登録件数は前年度の平成 24 年度の 3831 件と同程度の見込である。また、地域がん登録との連携を行うために、福岡県の担当者と現在調整中である。
久留米大学	2012 年度の院内がん登録数は 2997 件であり、地域がん登録と積極的に連携している。
産業医科大学	院内がん登録件数は 1,894 件で、カンサーボードに 130 件/月を活用している。また、福岡県地域がん登録へも提供している。
福岡大学	登録件数：1920 件（平成 24 年度） 活用実績：病院年報、院内 Web への掲載 地域がん登録との連携実績：福岡県 1672 件、長崎県 62 件(平成 23 年度症例を提出)
福岡県立大学	※臨床がないので該当せず
佐賀大学	特にありません。
長崎大学	2012 年の院内がん登録件数は 2397 件で、過去の院内がん登録により、3 年生存率などを院内で公表した。院内がん登録のデータは、県がん登録室に提供し、地域がん登録に貢献している。
熊本大学	平成 25 年度 院内がん登録件数 2,744 件（見込み） 活用実績① 国立がん研究センター全国集計への参加 提出件数 2,805 件（2012 年診断症例） 活用実績② 熊本県がん診療連携協議会幹事会 がん登録部会統計事業への参加 提出件数 2,867 件（2011 年診断症例） 地域がん登録への届出票 提出件数 2,726 件（見込み）
大分大学	院内がん登録件数は、約 1,600 件。情報提供件数は 7 件。地域がん登録との連携（情報交換会）は 2 回/年。
宮崎大学	院内がん登録件数： 約 1600 件 現在、主要 5 部位におけるステージ毎の治療の割合等を集計しており、これまでに集計した他のデータも含めて、患者の治療や研究発表等に活用してもらえるようなデータベース作りを進めている。
鹿児島大学	地域がん登録、院内がん登録を推進するために、年 2 回研修会とセミナーを整備（大学院コース履修者も参加）。
琉球大学	院内がん登録 2012 年症例(平成 25 年 12 月に国立がん研究センターへ提出)は 1056 例であった。当院では院内がん登録情報の利用細則を作成しており、データ活用についても広報している。平成 25 年度は 3 件の活用実績があった。活用事例としては、各学会がん登録への利用、各診療科のがん罹患数の把握、予後情報の利用でした。平成 25 年 1 月に地域がん登録へ 2011 年症例の 1115 件の提出を行った。

6) 社会への情報発信の取組実績（一般向け講演会開催回数・参加者数、本事業ホームページ更新頻度・アクセス数等）

取組状況	
九州大学	<p>①10月19日（土）に青少年・市民公開講座「がん研究の最前線」を共催し、343名が参加した。</p> <p>②12月7日（土）に九州がんプロ養成基盤推進プラン市民公開講座「がん治療を考える」を開催し、55名が参加した。</p> <p>③1月28日（火）九州がんプロ講演会一次世代医学物理の将来展望一を開催し、学生を中心に約30名が参加した。</p> <p>④九州がんプロ養成基盤推進プランのHPを平成24年7月より開設し、九州がんプロ養成基盤推進プランに参加する各大学のセミナー、研修、各種会議や活動状況について情報発信を行っており、今年度は18回の更新を行った。 (http://www.k-ganpro.com/)</p> <p>⑤九州がんプロ養成基盤推進プランの運営を中心的に担う九州連携臨床腫瘍学講座のHPを平成24年8月より開設し、九州連携臨床腫瘍学講座のがんプロへの取組に関する情報発信を行っている。今年度は173回の更新を行った。 (http://www.c-oncology.med.kyushu-u.ac.jp/)</p>
久留米大学	情報発信の取組に関しては実績はなく、今後の課題と考える。
産業医科大学	9月に市民公開講座として、専門医による各がんに対する検診や治療法等についての講演を行い、100名以上の参加者があった。また、定期的（年4回）に血液疾患患者を対象にスライドによる講演を開催し、社会への情報提供を行った。
福岡大学	<p>①がんセミナー開催8回、参加者460名</p> <p>②健康セミナー開催12回</p> <p>③HP更新10回</p>
福岡県立大学	がん看護セミナー・1回開催・参加者数99名。がん看護勉強会・5回開催・参加者数：第1回26名・第2回20名・第3回25名・第4回29名・第5回22名。HP更新8回。
佐賀大学	実績なし。
長崎大学	長崎大学病院との共催で、平成25年9月22日（日）に県民公開講座「がんについてよく考えよう」を開催、約160名の参加があった。本事業の長崎大学ホームページを公開し、活動報告を中心に頻回に更新を行っている。
熊本大学	<p>①一般向け講演会開催回数：8回 参加者数：1000名</p> <p>②本事業ホームページ更新頻度：3回</p>

大分大学	市民公開講座などの形で、社会への情報発信を積極的に行っている。ホームページに関して、「がん診療（がん拠点病院）の取り組み」として内容の改訂を行った。
宮崎大学	①子宮頸がんの予防・診断・治療などについての一般向け講演会を開催し、約 100 名が参加された。 ②小児がん活動の現状と未来についての一般向け講演会を開催し、約 60 名が参加された。
鹿児島大学	市民公開講座 1 回 参加人数 120 名
琉球大学	①平成 25 年度は地域関連病院に勤務する診療放射線技師、看護師向けに 6 回開催した。 【物理学講演会 6 月 29 日参加者数 20 名、11 月 2 日参加者数 13 名、11 月 30 日参加者数：25 名】 【がん看護教育セミナー12 月 19 日参加者数 7 名、12 月 14 日参加者数 20 名、1 月 9 日参加者数 7 名】 ②ホームページ更新頻度 4 回

2. 個性や特色、得意分野等に応じた「九州がんプロ養成基盤推進プラン」固有の達成目標に対する取組

2.1 がん教育改革

九州全域一律で高度な教育、多職種連携教育等を受けることができるシステムを整備し、がん専門医療人を指導する指導者を養成することで、継続的に専門医等を養成できる基盤を構築する。

1) 多職種連携に関するセミナーの取組

【定性的評価指標】

- ・多職種連携に関するセミナーの内容及び参加大学院生の多職種連携に対する意識の向上度合

取組状況	
九州大学	<p>以下の内容にて、多職種連携に関するがんセミナーを5回開催した。</p> <p>①「本邦における膵内分泌腫瘍の現況と新たな治療戦略」「胃 GIST の診断と治療」「Community Based Palliative Care ～まずは緩和ケアの基礎知識を共有しましょう」</p> <p>②「口腔がんの病態と治療」「口腔がん治療後の摂食訓練と歯科的工夫、および他科との連携」「甲状腺がん外科治療について」「がん化学療法看護～血管炎・血管外漏出の対応と対策～」</p> <p>③「悪性腫瘍の放射線治療」「肺がんの薬物療法」「九州がんプロ養成基盤推進プランのめざすところ」</p> <p>④「子宮頸がんの診断・治療」「骨髄増殖性腫瘍の病態と治療」「緩和ケアにおける心理的サポートについて－1症例を通しての考察－」</p> <p>⑤「精巣癌の診断と治療」「頭頸部癌治療に対する化学療法の位置づけ」「安全な化学療法の実践」</p>
久留米大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
産業医科大学	内視鏡部、放射線部、薬剤部、臨床検査・輸血部、病理部に所属の医療技術者や看護部所属の看護師もキャンサーボードへ参加し、多職種による連携を推進している。医師だけでなく複数の看護師、医療技術者の発言や討議もあり、多職種の連携の必要性を感じることができ、大学院生の意識向上に繋がった。
福岡大学	中皮腫細胞診セミナーで講演、検鏡実習を実施。
福岡県立大学	<p>セミナー・勉強会を開催して取り組んだ。</p> <p>セミナーは「がん患者さんの口腔ケアのコツとポイント」/講師：白田千代子氏（東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 教授）の講義および演習。</p> <p>勉強会は年間5回実施。テーマを設定しての学習と事例検討を実施。看護師だけでなく、介護士・施設経営者等の参加有。</p>
佐賀大学	2014年2月22-23日にがんリハビリテーションセミナーを開催予定。

長崎大学	医師のみならず、看護師、薬剤師を含めた多職種連携に関連する研修会を実施、大学院生の多職種連携に対する意識が向上していると考えられる。
熊本大学	①県と合同でがん化学療法セミナーの開催（年1回）。 ②手術の症例をもとに看護師と合同でセミナーを開催（年5回） ③学外から講師を招聘して医師・看護合同セミナーの開催。
大分大学	チーム医療，臨床試験などを題材にセミナーを行っている。大学院生の出席が少なく，多くはインテンシブ受講生である。
宮崎大学	①放射線治療の副作用対策に関するセミナーを開催した。 ②化学療法の適応とその内容・対策についてセミナーを開催した。 ③Miyazaki Oncology Conference を開催した。 ④宮崎大学がん診療部医療連携講演会を開催した。 ⑤がん手術後合併症に苦しむ患者の経過と今後についてセミナーを開催した。 ⑥宮崎県小児保健学会を開催した。 セミナーへ参加することで多職種での連携に対しての必要性を強く認識することが出来た。
鹿児島大学	地域がん診療における地域連携（多職種連携）セミナー キャンサーボード内1回、院内4回
琉球大学	放射線治療に関する医学物理セミナーを3回、がん看護学プロフェッショナルセミナーを3回実施した。

【定量的評価指標】

- ・多職種連携に関するセミナーの開催回数

九州がんプロ 取組目標 実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児島 大 学	琉球 大学
目標	20	3	0	3	1	1	4	1	1	4	1	3	1
実績	51	5	0	3	1	6	1	1	13	4	6	5	6

- ・多職種連携に関するセミナーの参加者数

九州がんプロ 取組目標 実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児島 大 学	琉球 大学
目標	890	120	0	300	10	0	300	50	30	8	10	35	30
実績	1908	200	0	216	135	221	-	59	530	15	310	130	92

- ・多職種連携に関するセミナーの参加大学院生数

九州がんプロ 取組目標 実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児島 大 学	琉球 大学
目標	90	30	0	10	1	0	4	20	15	2	3	4	2
実績	90	20	0	6	1	8	-	18	30	0	2	3	2

※佐賀大学は、実績記載時点ではセミナーが完了していないため、参加者数は不明。

2) 院内合同カンファレンスの取組

【定性的評価指標】

- ・院内合同カンファレンスの質の向上

取組状況	
九州大学	大学病院のがんセンターにより運営されている各臓器のキャンサーボードを毎月実施し、その質の向上のため討議内容を院内全体に周知している。院内で実施する抗癌剤治療レジメンはキャンサーボードの合意の上で申請することとし、治療の質を担保することを目指している。
久留米大学	事例の問題点を多角的にとらえ、診療の幅と質を向上させる。
産業医科大学	各診療科によるカンファレンス以外に、合同カンファレンスとして、膠原病リウマチ内科・内分泌代謝糖尿病内科、循環器内科・腎臓内科、消化管内科・肝胆膵内科、呼吸器内科、神経内科・心療内科合同による内科合同クリニカルカンファレンス（毎月）、神経内科・心療内科、脳神経外科、放射線科、リハビリテーション科合同による神経放射線カンファレンス（毎週）、神経内科・心療内科、脳神経外科合同による北九州神経カンファレンス（年2回）、消化器・内分泌外科、呼吸器・胸部外科、心臓血管外科、救急部合同外科合同カンファレンス（毎月）、泌尿器科、放射線科合同による術前・術後・画像カンファレンス（毎週）、産婦人科、放射線科合同による放射線合同カンファレンス（毎週）、耳鼻咽喉科、放射線科合同による耳咽・放射合同治療カンファレンス（隔週）、呼吸器・胸部外科、呼吸器内科合同による呼吸器腫瘍カンファレンス（毎週）、呼吸器内科、呼吸器・胸部外科、放射線科、病理部合同による呼吸器疾患合同カンファレンス（毎月）、呼吸器・胸部外科、消化器・内分泌外科、放射線科、病理部、臨床検査・輸血部、放射線部合同による乳腺カンファレンス（毎月）、歯科口腔外科、放射線科合同による歯科・放射線合同治療カンファレンス（隔週）を開催しているが、さらに、定期的に複数の部署による臓器別キャンサーボードを開催し、癌に関する横断的な情報の共有及び診療の質の向上に取り組んだ。
福岡大学	毎月4回開催し、質の向上に努めている。
福岡県立大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
佐賀大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
長崎大学	各臓器別カンファレンスと別に月1回のキャンサーボードを実施。
熊本大学	消化器内科、消化器外科、画像診断学での合同カンファレンス（週1回） 上記科+病理部合同のカンファレンス実施（月1回） これ以外にも多数の科がそれぞれ集まり、多職種合同でカンファレンスを頻繁に開催。

大分大学	各部門がんセンターボード、その他の合同カンファレンスが行われているが、質の向上を目指した取り組みは行っていない。
宮崎大学	①大腸がんセンターボード(開催回数：年 12 回、参加者数 11 人、合計 132 人) ②頭頸部治療カンファレンス(開催回数:年 24 回、参加者数 15 人、合計 360 人) ③肝細胞がんカンファレンス(開催回数：年 12 回、参加者数 12 人、合計 144 人) ④肝胆膵院内合同カンファ(開催回数：年 6 回、参加者数 20 人、合計 120 人) ⑤肺癌、乳がん、縦隔腫瘍カンファレンス 3 科合同 (開催回数：年 24 回、参加者数 15 人、合計 360 人) ⑥造血器腫瘍カンファレンス(開催回数:年 48 回、参加者数 8 人、合計 384 人) ⑦消化器カンファ (開催回数：年 48 回、参加者数 10 人、合計 480 人)
鹿児島大学	①がんセンターボード ②外来化学療法室カンファレンス
琉球大学	院内がんセンター主催のがんセンターボードの他、週 1 回の放射線治療カンファレンスを各診療科（脳腫瘍、頭頸部腫瘍、泌尿器腫瘍、血液腫瘍、婦人科腫瘍）と継続実施した。

【定量的評価指標】

・院内合同カンファレンスの開催回数

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	580	180	6	120	30	0	0	12	0	200	10	16	5
実績	1,001	170	7	150	48	0	0	11	144	200	174	46	51

・院内合同カンファレンスの参加者数

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績												
		九州大 学	久留 米大 学	産業医 科大学	福岡大 学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎大 学	熊本 大学	大分 大学	宮崎大 学	鹿児島 大学	琉球大 学	
目標	3,470	900	120	500	600	0	0	600	0	200	200	245	100	
実績	14,502	2,677	217	2,800	1,146	0	0	724	3480	100	1,980	900	496	

・院内合同カンファレンスの参加大学院生数

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	440	180	18	15	30	0	0	120	0	30	10	24	10
実績	510	48	0	80	48	0	0	71	0	30	90	138	5

3) 病理部実習の取組

【定性的評価指標】

- ・病理部実習の内容及び参加大学院生のがん診療における病理診断の重要性の意識の向上度合

取組状況	
九州大学	病理部実習では、採取された臨床検体を用いた適切な標本作製方法と検査、診断の方法を少人数グループで指導した。面談を実施することにより、多くの履修生が上の意識が向上していることを確認できた。
久留米大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
産業医科大学	病理部は、乳癌がんセンターボード、肝細胞癌がんセンターボード、泌尿器癌がんセンターボードの構成部署であり、また、病理診断科は、乳癌がんセンターボード、胃癌・大腸癌がんセンターボード、泌尿器癌がんセンターボードの構成部署となっていることから、大学院生が病理診断に接する機会は多数あり、重要性を肌で感じることができる。
福岡大学	月 2,3 回骨髄標本の見方の実習指導、月 1 回 CPC を受けている
福岡県立大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
佐賀大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
長崎大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
熊本大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
大分大学	学生から研修医を中心に熱心に実習・実験に取り組んでいる。
宮崎大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
鹿児島大学	手術後カンファレンスならびに CPC に参加し、病理診断を学ぶ。
琉球大学	実施できなかった。

【定量的評価指標】

・病理部実習の実施回数

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	60	2	0	3	5	0	0	0	0	50	0	2	2
実績	139	6	0	43	38	0	0	0	0	50	0	2	0

・病理部実習の参加者数

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	150	10	0	25	5	0	0	0	0	100	0	2	4
実績	1,609	10	0	633	760	0	0	0	0	200	0	6	0

4) e-learning 講義の受講回数

【定量的評価指標】

・e-learning 講義の受講回数

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	540	35	150	10	30	2	40	200	30	5	2	18	20
実績	870	310	31	0	18	10	0	352	0	9	0	125	15

5) 単位互換制度利用した大学院生数

【定量的評価指標】

・単位互換制度利用した大学院生数

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	10	0	3	0	0	0	2	2	0	1	0	0	2
実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

6) がん診療拠点、緩和ケア専門病院との合同セミナーの取組

【定性的評価指標】

- ・がん診療連携拠点病院、緩和ケア専門病院との合同のセミナーの内容

取組状況	
九州大学	大学病院がんセンターと共同で合同セミナーを実施し、九州連携臨床腫瘍学講座の教員が、「肺がんの薬物療法」及び「九州がんプロ養成基盤推進プランのめざすところ」を演題に講演を行った。
久留米大学	緩和ケアを行っている地域医療機関とともに、実際の症例で問題になったポイントをテーマとしてセミナーを行う。
産業医科大学	拠点病院の医療スタッフを対象に、「主に肺癌の胸部レントゲン写真、CTの読影についての講義」、「頭頸部腫瘍の集学的治療について、頭頸部腫瘍に対するセツキシマブの使用、がん化学療法と皮膚障害の看護ケア」、「放射線治療後の頭頸部癌に対する治療の検討」、「緩和的放射線治療とがん化学療法の最近の副作用対策」、「九州国際重粒子線がん治療センター（サガハイマツ）における頭頸部癌に対する重粒子線治療」、「主に肺癌の胸部レントゲン写真、CTの読影についての講義」を開催した。
福岡大学	がん診療連携拠点病院と、医師、看護師、薬剤師で症例を検討している。 緩和ケア専門病院とリハビリ部、腫瘍内科医師で症例について検討している。
福岡県立大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
佐賀大学	がん診療に関するセミナーを唐津赤十字病院との開催を企画中、佐賀県内緩和ケアセミナーを合同で実施。
長崎大学	第1回：第2期がん対策推進基本計画策定後のがん対策の動向について 第2回：重粒子線がん治療の現状と将来 第3回：非小細胞肺癌化学療法の最新情報
熊本大学	がん診療拠点病院と合同で下記のセミナーを開催した。 ①熊本がん化学療法セミナー（年1回） ②一般市民向け講演会（放射線治療科） ③肝がん撲滅運動・市民公開講座、医療従事者向け講座 ④県民／市民公開講座「私のカルテ」
大分大学	当プロジェクトおよび、がん拠点病院が主催、共催するカンファレンス、セミナーを年に3回程行っている。
宮崎大学	宮崎ホスピス・緩和ケアネットワーク学術集会（がん性疼痛に関する専門医による講演）を行った。
鹿児島大学	①クリニカルパスセミナー 3回 ・6/1 がん診療における地域連携促進のための講演会 ・12/20 新規がん診療連携パス合同説明会 ・12/22 市民公開講座

	<p>②緩和ケア病院（病棟）との合同セミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南九州病院 ・サザンリージョン病院
琉球大学	<p>①緩和ケア研修会 参加者 35 名 （対象者：緩和医療に関わる医師）</p> <p>②早期診断研究会 参加者 6 名（対象者：早期診断に関わる医師）</p> <p>③化学療法の副作用対策研修会 参加者 26 名 （対象者：化学療法に関わる医療従事者）</p> <p>④放射線療法の副作用対策研修会 参加者 27 名 （対象；放射線治療に関わる医療従事者）</p> <p>⑤院内がん登録研修会 開催回数 4 回 （参加者数 233 名）</p>

【定量的評価指標】

- ・がん診療連携拠点病院との合同のセミナーの開催回数

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	20	4	0	0	2	0	2	4	2	1	5	2	2
実績	43	5	0	6	3	0	0	3	13	3	0	3	7

- ・がん診療連携拠点病院との合同のセミナーの参加者数

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	680	300	0	0	10	0	50	200	30	1	30	21	40
実績	2,561	200	0	243	90	0	0	369	977	100	0	290	292

- ・がん診療連携拠点病院との合同のセミナーの参加大学院生数

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	70	12	0	0	2	0	4	40	5	1	2	3	4
実績	52	20	0	3	2	0	0	22	2	0	0	3	0

・緩和ケア専門病院との合同のセミナーの開催回数

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	20	1	4	1	2	0	2	1	1	1	1	2	1
実績	14	0	3	0	3	0	2	0	1	1	1	2	1

・緩和ケア専門病院との合同のセミナーの参加者数

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	650	30	400	20	10	0	40	50	50	1	10	15	20
実績	675	0	240	0	60	0	30	0	30	40	190	50	35

・緩和ケア専門病院との合同のセミナーの参加大学院生数

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	30	5	4	3	2	0	2	10	2	1	1	2	2
実績	6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4	0

7) 大学院生をがん診療連携病院、緩和ケア専門病院でのリーダー的役割を担える人材として養成できたか

【定性的評価指標】

・大学院生をがん診療連携病院、緩和ケア専門病院でのリーダー的役割を担える人材として養成できたか

取組状況	
九州大学	大学院生には、がん医療における将来の指導者となれるよう、臨床実習や基礎研究の場では、常に幅広くかつ深い知識や技術を身につけることを求めている。九州連携臨床腫瘍学講座の教員が大学院生と個別に面談を行い、教育課程の進捗状況を確認するとともに、上の指導を行っている。
久留米大学	現時点ではリーダー的役割を担える人材として養成できておらず、今後の課題と考える。
産業医科大学	コース履修者は、1年目であり、リーダー的役割を担えるように指導しているところである。
福岡大学	専門医に合格した学生もおり、養成できていると考える。
福岡県立大学	がん看護CNSの役割を担える人材として養成できた。
佐賀大学	唐津赤十字病院に肺癌診療を中心にがん診療にあたる大学院生を派遣し、大学から指導を継続している。佐賀県医療センターにてがんリハビリを担当する人材を養成している。
長崎大学	セミナーやカンファレンスに参加することで、多くの知識を習得し、がん診療連携病院でのリーダー的役割を担える人材育成の足がかりとなったと思われる。
熊本大学	履修生なし。
大分大学	現在養成中である。
宮崎大学	緩和ケアチーム、がん診療部（外来化学療法室）内等で中心的役割を担っており養成の目的は達していると思われる。
鹿児島大学	1年目であり講義と実習で養成中
琉球大学	実施できなかった。

8) 大学院生に対して将来の指導者としての教育が実施できたか

【定性的評価指標】

- ・大学院生に対して将来の指導者としての教育が実施できたか

取組状況	
九州大学	大学院生には、本プランで養成を目的としているがん医療における国際的な視野を持った指導者となれるよう、知識や技術を身につけることに加え、海外の学会発表や海外の医療機関への研修に積極的に参加するよう促し、国際的な経験を積ませることができた。
久留米大学	現時点ではリーダー的役割を担える人材として養成できておらず、今後の課題と考える。
産業医科大学	コース履修者は、1年目であり、将来の指導者としての教育を行っているところである。
福岡大学	専門医に合格した学生もおり、教育できていると考える。
福岡県立大学	組織や地域で指導的役割を担える人材として教育を実施できた。
佐賀大学	少人数ではあるがそれぞれの分野の地域におけるパイオニアとしての人材を育成できている。
長崎大学	がん診療の各専門分野の講義やカンファレンス、セミナーでの指導者の発言を聞くことで、指導者の役割をある程度認識できたと考える。
熊本大学	実施なし。
大分大学	現在養成中である。
宮崎大学	現在でも院内で多くの相談を受け、一部においては中心的役割を果たしている。目的にかなって養成ができたと思われる。
鹿児島大学	1年目であり講義と実習で養成中。
琉球大学	実施できなかった。

2.2 地域がん医療貢献

がん医療の均てん化のための研究を行い、がん医療の過疎地域の実態が理解でき、僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備えた医療人を養成する。

1) 地域医療機関へのがんプロ大学院生の派遣

【定性的評価指標】

- ・地域医療機関へのがんプロ大学院生の派遣期間

取組状況	
九州大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
久留米大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
産業医科大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
福岡大学	長崎大学離島・僻地実習に参加(1か月)。
福岡県立大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
佐賀大学	唐津赤十字病院に肺癌診療を中心にがん診療にあたる大学院生を派遣し、大学から指導を継続している。
長崎大学	離島・僻地実習を開始しており、1学生が1ヶ月間派遣される。これとは別に、社会人大学院生を医局人事で派遣している場合もある。
熊本大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
大分大学	実績なし。
宮崎大学	がん看護 CNS コースを修了した2名が、その後、宮崎県内の医療機関で勤務を行っている。
鹿児島大学	新規大学院生(3名)は1年目の臨床研究期間に入っており、長期の地域医療機関への派遣が困難なため、月に4日程度の短期派遣を行っている。
琉球大学	週3回平成25年4月～平成26年3月

【定量的評価指標】

・地域医療機関へのがんプロ大学院生の派遣人数

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	20	0	0	0	1	0	1	6	0	2	1	2	2
実績	13	0	0	0	1	0	1	4	0	0	2	3	2

2) 地域がん医療に関する研究論文発表数

【定量的評価指標】

・地域がん医療に関する研究論文発表数

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	10	0	1	1	0	0	1	1	0	1	1	1	1
実績	9	8	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

3) 地域医療機関、医師会、調剤薬局、薬剤師会、看護団体、患者団体等と連携した取組

【定量的評価指標】

・地域医療機関、医師会、調剤薬局、薬剤師会、看護団体、患者団体等と連携した取組実績

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	30	0	2	0	1	0	1	1	10	1	10	0	2
実績	30	0	0	0	0	0	1	2	12	14	1	0	0

4) 地域医療機関又は患者から、がんプロ大学院生に対して、高い満足度、評価を得ることができたか

【定性的評価指標】

・地域医療機関又は患者から、がんプロ大学院生に対して、高い満足度、評価を得ることができたか

取組状況	
九州大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
久留米大学	地域医療機関又は患者から、がんプロ大学院生に対して、高い満足度、評価を得ることができておらず、今後の課題と考える。
産業医科大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
福岡大学	アンケート等はとっていないので不明。
福岡県立大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
佐賀大学	医師、理学療法士ともがん診療に中心的役割を果たすものとして、高い評価を得ている。
長崎大学	離島・僻地実習で、歯科医師、歯科衛生士を派遣し、院内外での口腔ケアを含めた歯科系の診療援助で高い評価を受けている。
熊本大学	履修生なし。
大分大学	実績なし。
宮崎大学	院外からの電話相談、研修会への講師依頼等、複数の要請があり、地域医療機関からも評価されているものとする。
鹿児島大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
琉球大学	本プログラム学生（2名、放射線腫瘍専門医養成プログラム）が地域がん拠点病院の放射線治療外来に従事し（兼業）専門性を活かした貢献を認められている。

5) 地域医療機関との合同のセミナーの取組

【定性的評価指標】

・地域医療機関との合同のセミナーの内容

取組状況	
九州大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
久留米大学	地域医療機関とともに終末期医療についてのセミナーを企画・運営している。
産業医科大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
福岡大学	セミナーにてがん診療拠点病院とクリティカルパスについて、放射線治療について討論。
福岡県立大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
佐賀大学	実績なし。
長崎大学	がん地域連携パスに関する合同のセミナーを2回開催した。
熊本大学	<p>医師会と合同でセミナーを開催。また、薬局協会と合同で薬剤師向けの研修会なども開催した。</p> <p>看護コースでは年に1回、九州県内の病院にて勤務する看護師を対象にがん看護専門の講師を招聘し講演会を開催した。</p> <p>医学物理士養成コースでは年2回、PHITS講習会を開催した。こちらでは本学だけでなく、全国から参加があった。</p>
大分大学	地域から参加している看護師のレベルアップを中心にした。
宮崎大学	<p>①宮崎県泌尿器科医会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん性疼痛の治療～基本からペインクリニック的アプローチまで がん地域連携の落とし穴 ・前立腺癌のLHRH療法におけるホルモン動態 ・前立腺癌に対する新規薬剤 ・当科における腎癌に対する分子標的薬の現状 <p>腎癌の最新情報</p> <p>②宮崎県放射線科医会学術講演会（がん診療の画像検査（技術・診断）の勉強会）</p> <p>③宮崎大学がん診療部医療連携講演会（骨転移：薬物療法、放射線治療、外科的治療、がんの骨転移・骨病変のマネジメント）</p> <p>④宮崎血管内治療IVR研究会（がん診療の画像検査（技術・診断）の勉強会）</p> <p>⑤断層映像研究会（がん診療の画像検査（技術・診断）の勉強会）</p>

	<p>⑥宮崎MRI研究会（がん診療の画像検査（技術・診断）の勉強会）</p> <p>⑦宮崎県消化器癌治療研究会（食道癌治療に関する最新のトピックス）</p> <p>⑧宮崎MRI研究会（がん診療の画像検査（技術・診断）の勉強会）</p> <p>⑨第184回宮崎県泌尿器科医会 「当科における腎癌に対する分子標的薬の現状」「腎癌の最新情報」</p> <p>⑩第11回宮崎県消化器癌治療研究会（食道癌治療に関する最新のトピックス）</p> <p>【がん看護専門看護師養成コース】</p> <p>①公開事例検討会を年6回開催し、延べ45人予定(25人+(これから2回開催)) 大学院修了生（CNS）・地域医療機関のNsも参加して開催した。 うち1回は県外で活動中CNSによる事例検討会を開催。</p> <p>②講演会3回72名(内、演習1回9名)うち1回は県外CNSによる講演会開催 講演会テーマ「寄り添うとは」・「リンパ浮腫のケア」・「遺伝性腫瘍の患者さんやご家族への看護を考える」</p> <p>③公開授業1回120名（対象は地域医療施設のNs）「リンパ浮腫と複合的療法」</p>
鹿児島大学	<p>鹿児島県の全拠点病院、県指定病院とがん相談連携、化学療法およびがん登録のセミナーをそれぞれ2回開催</p> <p>①がん化学療法研修会（30名参加）</p> <p>②がん相談連携研修会（25名参加）</p> <p>③がん登録研修会（30名参加）</p>
琉球大学	<p>①県内の放射線治療施設に従事する診療放射線技師、治療医向け講演会を医学物理セミナーとして3回開催した。</p> <p>②IMRTの高精度性の確保：臨床からQA/QCまで他（H25.6.29）</p> <p>③治療用線量の標準とその供給体制について（H25.11.2）</p> <p>④放射線治療の照射線量計算について他（H25.11.30）</p>

【定量的評価指標】

- ・地域医療機関との合同のセミナーの開催回数

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	40	0	2	0	2	0	2	1	19	3	4	4	3
実績	53	0	1	0	1	0	0	2	18	2	20	6	3

- ・地域医療機関との合同のセミナーの参加者数

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	1,030	0	20	0	10	0	30	50	530	3	180	110	100
実績	3,935	0	31	0	95	0	0	136	2603	70	772	170	58

- ・地域医療機関との合同のセミナーの参加大学院生数

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	90	0	2	0	2	0	2	10	70	3	1	2	2
実績	37	0	0	0	1	0	0	6	6	6	6	10	2

6) 大学院生を僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備えた医療人として養成できたか

【定性的評価指標】

・大学院生を僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備えた医療人として養成できたか

取組状況	
九州大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
久留米大学	大学院生を僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備えた医療人として養成できておらず、今後の課題と考える。
産業医科大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
福岡大学	養成しつつあると考える。
福岡県立大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
佐賀大学	専門的な取り組みをそれぞれの地域の医療施設において展開し得ている
長崎大学	離島・僻地実習を開始したが、期間が1ヶ月であるため人材育成としては十分でないが、参加者からは貴重は体験ができたとの感想が聞かれた。
熊本大学	履修生なし。
大分大学	実績なし。
宮崎大学	項目に沿った教育を行っていない。
鹿児島大学	大学院1年目(7月開始)であり、養成中。
琉球大学	実施できなかった。

7) 地域医療機関との合同のカンファレンスの取組

【定性的評価指標】

・地域医療機関との合同のカンファレンスの内容

取組状況	
九州大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
久留米大学	緩和ケアを行っている地域医療機関があつまり、事例検討会を行っている。
産業医科大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
福岡大学	症例を持ち寄り検討、討論。
福岡県立大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
佐賀大学	唐津赤十字病院と合同のカンファレンスを行っている。
長崎大学	院内の入院患者で在宅への移行症例に関して、院内での合同カンファレンスが週1回行われている。
熊本大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
大分大学	各施設での困難事例や新しい取り組みについて報告し、カンファレンスを行った。
宮崎大学	①肺癌合同カンファレンス（方針決定が困難な症例の相談、紹介したまたは紹介された症例の経過報告、治療方針決定に関するカンファレンス） ②宮崎肺癌井戸端会議（方針決定が困難な症例の相談、紹介したまたは紹介された症例の経過報告、治療方針決定に関するカンファレンス） ③肺癌化学療法勉強会（方針決定が困難な症例の相談、紹介したまたは紹介された症例の経過報告、治療方針決定に関するカンファレンス） ④HTLV-1 関連療法カンファレンス（医師間での意見交換） ⑤宮崎呼吸器乳腺懇話会（カンファレンス、一般演題、講演） ⑥宮崎泌尿器科医療連携（Miu-NET）カンファレンス（「MIUNET」現状報告、腎癌登録のアナウンス） ⑦宮崎脳腫瘍研究会（症例報告を通じての意見交換） ⑧宮崎甲状腺疾患研修会（カンファレンス、一般演題、講演） ⑨宮崎大学婦人科癌症例報告会（産婦人科癌に関する紹介患者の治療・予後を通じて二次医療機関との連携について討論） ⑩宮崎R I カンファレンス（がん診療の画像検査（技術・診断）の勉強会）
鹿児島大学	鹿児島県の全拠点病院、県指定病院と合同カンファレンス：がん相談連携、化学療法およびがん登録のカンファレンスをそれぞれ2回開催 ①がん化学療法研修会（のべ60名参加） ②がん相談連携研修会（のべ50名参加） ③がん登録研修会（のべ60名参加）
琉球大学	実施できなかった。

【定量的評価指標】

- ・地域医療機関との合同のカンファレンスの開催回数

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	40	0	5	0	10	0	10	1	0	1	4	4	5
実績	111	0	6	0	1	0	12	40	0	10	36	6	0

- ・地域医療機関との合同のカンファレンスの参加者数

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	140	0	5	0	10	0	40	30	0	3	20	25	5
実績	1,510	0	300	0	20	0	20	320	0	80	600	170	0

- ・地域医療機関との合同のカンファレンスの参加大学院生数

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	30	0	2	0	10	0	10	5	0	1	1	1	2
実績	72	0	0	0	1	0	12	18	0	15	16	10	0

8) 地域卒業生のがんプロ大学院入学生数

【定量的評価指標】

- ・地域卒業生のがんプロ大学院入学（入学生数）

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	10	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	2
実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2.3 がん研究

がん研究者を指導する指導者を養成し、がん医療に関する海外医療機関等との連携体制を確立して、継続的にがん研究におけるリーダーを養成できる基盤を構築する。

1) 大学院生の臨床研究、臨床試験の取組

【定性的評価指標】

- ・大学院生の臨床研究、臨床試験の内容

取組状況	
九州大学	<p>【高度先端臨床腫瘍学コース】</p> <p>以下、臨床研究発表論文</p> <p>① Michitaka Nakano, et al. Pemetrexed Combined with Platinum-based Chemotherapy for Advanced Malignant Mesothelioma: Retrospective Analysis of Six Cases. <i>Anticancer Res</i> 34:215-220, 2014.</p> <p>② Yuta Okumura, et al. Anti-HER2 combination chemotherapy for advanced gastric cancer associated with the Peutz-Jeghers syndrome: a case report and literature review. <i>Int Cancer Conf J</i> DOI 10.1007/s13691-013-0139-1 (2014)</p> <p>③ 中野倫孝他 最新がん薬物療法学：がん幹細胞における治療抵抗性克服 日本臨床 p51-55, 2014</p> <p>④ Tamura S, Kusaba H, Kubo N, Ijichi K, Tsuchihashi K, Komoda M, Uchino K, Ariyama H, Akashi K, Baba E Interstitial pneumonia during bevacizumab-based chemotherapy for colorectal cancer. <i>Med Oncol</i>, 2014 in press</p> <p>⑤ Diagnostic value of CEA and CYFRA 21-1 tumor markers in primary lung cancer. Okamura K, Takayama K, Izumi M, Harada T, Furuyama K, Nakanishi Y. <i>Lung Cancer</i>. 2013 Apr;80(1):45-9. doi: 10.1016/j.lungcan.2013.01.002. Epub 2013 Jan 23.</p> <p>⑥ Hypoalbuminemia and lymphocytopenia are predictive risk factors for in-hospital mortality in patients with tuberculosis. Okamura K, Nagata N, Wakamatsu K, Yonemoto K, Ikegame S, Kajiki A, Takayama K, Nakanishi Y. <i>Intern Med</i>. 2013;52(4):439-44. Epub 2013 Feb 15.</p> <p>【高度先端がん放射線治療医師養成コース】</p> <p>以下、臨床研究発表論文</p> <p>① Matsumoto K, Imai R, Kamada T, Maruyama K, Tsuji H, Tsujii H, Shioyama Y, Honda H, Isu K, Working Group for Bone and Soft Tissue Sarcoma. Impact of Carbon Ion Radiotherapy for Primary Spinal Sarcoma. <i>Cancer</i> 2013; 119: 3496-3503.</p>

	<p>②Matsumoto K, Sasaki T, Shioyama Y, Nakamura K, Atsumi K, Nonoshita T, Ooga S, Yoshitake T, Uehara S, Hirata H, Honda H. Treatment outcome of high-dose-rate interstitial radiation therapy for patients with stage I and II mobile tongue cancer. Jpn J Clin Oncol 2013; 43: 1012-1017.</p> <p>【がん看護研究者養成コース】</p> <p>学生 2 名はそれぞれ、胃がん患者のセルフケア、経口抗がん剤使用患者の自己効力感について研究を開始している。2 名とも文献レビュー、基礎調査を行うとともに、CUNY(NY 市立大学)の Dr.Nokes にアドバイスを受けながら、研究の理論構築に取り組み、1 名はテーマが確定(“Does use of smartphone application to provide health-related information impact on gastric cancer patients' self-care agency?”)。テーマが確定した学生は、2 月に CUNY(NY 市立大学)の大学院センターにてテーマおよび研究計画を発表し、がん看護の専門家をはじめとする多くの看護教育の専門家から指導を受けた。帰国後、研究計画書を作成し倫理申請をする予定である。</p>
久留米大学	<p>①テーマ「治療継続か中止の選択を行っていく壮年期がん患者と家族に対する看護介入」</p> <p>壮年期がん患者は、経済的社会的に中心となる存在として生活しながら闘病生活の中で様々な選択を行っている。その選択の中でも困難である治療継続か中止かの選択を行っていく場面に焦点を当て、壮年期がん患者家族に対する看護師の介入を明らかにした。</p> <p>②テーマ「中年期乳がん患者の療養生活におけるソーシャルサポート」</p> <p>患者会に参加している中年期乳がん患者はどのような周囲のサポートを認知し、療養生活をどのように過ごしているのかを明らかにするために、初発乳がんを告知を受け、治療を行い、現在は患者会の会員となっている患者にインタビューを行い、質的帰納的な分析を行った。</p>
産業医科大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
福岡大学	<p>①化学療法に関する臨床試験</p> <p>②支持療法に関する臨床試験</p>
福岡県立大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
佐賀大学	修士課程学生が肺癌手術前後のリハビリについての研究を行っている。
長崎大学	肺癌の化学療法に関する臨床試験に参加。
熊本大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
大分大学	実績なし

宮崎大学	膵癌、胆道癌の化学療法におけるバイオマーカーの臨床研究を行い、学会等で発表済。現在論文作成中である。
鹿児島大学	①微小癌細胞の意義と生物学的特性： 胃癌の血中遊離癌細胞での HER2 評価、血中遊離癌細胞のマウスでの生着実験 ②上部消化管悪性腫瘍における化学/化学放射線療法前後での遺伝子変化： CRT 前、後での悪性腫瘍組織における、幹細胞、EMT マーカの変化を調べる ③食道癌における DLL4 発現： 食道癌の科学放射線療法の感受性因子について
琉球大学	臨床研究（子宮頸癌に対する画像誘導小線源治療の最適化、子宮頸部線癌に対する同時化学放射線療法の臨床成績、他）。他施設共同臨床試験（JCOG0701, JROSG10-4, その他）の症例登録に協力した。

【定量的評価指標】

- ・研究や試験治療などへの大学院生の参加件数

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	20	8	2	0	1	0	2	1	0	2	1	2	2
実績	20	3	2	0	5	0	1	1	0	1	2	3	2

- ・臨床研究、臨床試験を実施した回数

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	20	8	2	0	1	0	2	1	0	2	1	1	1
実績	32	5	2	0	15	0	1	1	0	1	2	3	2

・臨床研究、臨床試験を立案した件数

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	10	3	1	0	1	0	2	1	0	1	1	1	0
実績	16	3	2	0	4	0	1	0	0	1	2	3	0

・プロトコール作成、倫理委員会審査などへの大学院生の参加件数

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	20	5	1	0	0	0	0	2	7	1	1	1	1
実績	15	3	2	0	4	0	1	0	0	0	2	3	0

2) 大学院生による国際学会での発表

【定性的評価指標】

- ・大学院生による国際学会への発表について国際的な評価を得ることができたか

取組状況	
九州大学	<p>【高度先端臨床腫瘍学コース】 大学院生が以下の内容にて国際学会で発表を実施した。</p> <p>① Nakano, et al. Plasticity of CD44+ colorectal cancer stem cells depend on TGF-beta-induced epithelial mesenchymal transition : evidences from an ex vivo culture. International Symposium between Kyushu University Post-Global Centers of Excellence Program and School of Biomedical Sciences, Monash University, Melbourne, Australia. February 7, 2014</p> <p>② 18th Congress of the Asian Pacific Society of Respirology (APSR) Oral presentation Bone metastases are more frequent and multiple in EGFR mutation positive NSCLC patients</p> <p>③ 18th Congress of the Asian Pacific Society of Respirology (APSR) Poster presentation Retrospective Analysis Of The Effect Of Chemotherapy In Patients With Recurrent NSCLC After The First Line Chemo-radiotherapy Or Curative Radiotherapy</p> <p>また、2014年4月米国癌学会にて以下の内容にて発表を予定している。</p> <p>④ Nakano, et al. Plasticity of CD44+ colorectal cancer stem cells depends on TGF-beta-induced epithelial mesenchymal transition (EMT): evidences from an ex vivo culture system. American Association for Cancer Research (AACR) Annual Meeting, April 5-9, 2014, San Diego, CA</p> <p>【がん研究薬剤師コース】 2014年4月米国癌学会にて演題名 「Y-box 結合タンパク(YB-1) はヒト胃癌の HER2/ErbB2 発現とラパチニブの感受性を制御する」 の発表の準備を進めている。</p> <p>【がん看護研究者養成コース】 履修生2名が次の内容で国際学会での発表を実施した。</p> <p>① (発表者) Kayo Toyofuku、(タイトル) Clinical Nurses' Perceptions of the Usage of the Electronic Medical Record and the Significance of the Overall Nursing Record、(学会名、場所、時期) 3rd World Academy of Nursing Science, Seoul, Korea, 2013/10/8</p> <p>② (発表者) Yuki Nagamatsu、(タイトル) The role of employment status in changes in quality of life of laryngectomized patients before surgery and 3months after discharge、(学会名、場所、時期) 24th International Nursing research congress 学会 Horner Society of Nursing、2013/7/22-26</p>

久留米大学	現時点では研究の途中であり、今後、データがまとまれば国際学会での発表は可能と考える。
産業医科大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
福岡大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
福岡県立大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
佐賀大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
長崎大学	国際学会でも特に権威のある European Cancer Congress 2013 および 99th RSNA (北米放射線学会) に演題が採択され、発表が行われた。
熊本大学	発表実績なし
大分大学	発表実績なし
宮崎大学	現在、国際学会への発表に向けて準備中である。
鹿児島大学	以下のような国際学会発表を行い、国際的な評価を得た。 ①Keishi Ohkubo, Takaaki Arigami, Sumiya Ishigami, Yoshikazu Uenosono, Daisuke Matsushita, Shoji Natsugoe : Outcome of multidisciplinary treatment for type 4 gastric cancer 10th International Gastric Cancer Congress, Verona June 19th-22nd, 2013 ②Keishi Okubo, Hiroshi Okumura, Yoshiaki Kita, Yasuto Uchikado, Itaru Omoto, Tetsuhiro Owaki, Takaaki Arigami, Yoshikazu Uenosono, Sumiya Ishigami, Shoji Natsugoe : The expression of 14-3-3 sigma is a prognostic factor in patients with esophageal squamous-cell carcinoma, The 1st International Conference of Federation of Asian Clinical Oncology(FACO),XiaMen,China, September 26,2013 ③2013年9月に中国の厦門で FACO のポスター発表
琉球大学	米国放射線腫瘍学会にて学術発表を行った。

【定量的評価指標】

・大学院生による国際学会での発表件数

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	20	5	1	0	0	0	0	2	7	1	1	1	1
実績	9	3	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3	1

3) 海外の研究機関への研修派遣

【定性的評価指標】

- ・大学院生を海外の研究機関へ派遣し、国際的な評価を得ることができたか

取組状況	
九州大学	<p>【高度先端臨床腫瘍学コース】</p> <p>H25.11.4-5 に韓国アサン医療センターへの訪問研修を実施した。2 日間にわたりがん医療、臨床研究の実際について、同センタースタッフによる講義、カンファレンス参加、施設見学などを通じて理解を深めた。参加した大学院生は、研修内容について、日本臨床腫瘍学会（2014 年 7 月）にて発表を予定している。</p> <p>【がん看護研究者養成コース】</p> <p>大学院生を 2014 年 2 月 NY に派遣し研修を行った。主な内容は、CUNY（NY 市立大学）の看護学部にて、上部消化器がん看護専門研究者との面接、研究の動向や方法についてのディスカッション、CUNY 大学院センターでの講義参加およびがん看護研究に関するディスカッションであった。日本と海外のがん看護に対する捉え方の相違を学び、独自のがん看護研究を進めるにあたって有意義な研修となった。</p>
久留米大学	今後、積極的に留学を検討したい。
産業医科大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
福岡大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
福岡県立大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
佐賀大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
長崎大学	韓国アサンメディカルセンター訪問 (平成 25 年 11 月 4～5 日、参加人数 9 名、うち長崎大より 2 名参加)
熊本大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
大分大学	派遣実績なし。
宮崎大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず
鹿児島大学	派遣実績なし。
琉球大学	※当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず

【定量的評価指標】

・海外の研究機関への研修派遣件数

九州がんプロ 取組目標・実績		各大学取組目標・実績											
		九州 大学	久留 米大 学	産業 医科 大学	福岡 大学	福岡 県立 大学	佐賀 大学	長崎 大学	熊本 大学	大分 大学	宮崎 大学	鹿児 島大 学	琉球 大学
目標	10	1	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0
実績	5	3	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0

4) 大学院生を英語で議論できるまでに指導できたか

【定性的評価指標】

- ・大学院生を英語で議論できるまでに指導できたか

取組状況	
九州大学	<p>【高度先端臨床腫瘍学コース】</p> <p>アサン医療センター訪問研修におけるセンター医師らとの会議にて、大学院生は英語で質疑応答を行い、主に消化器癌、呼吸器癌についての韓国での標準治療内容、医療環境や臨床試験推進のための仕組みについて理解を深めることができた。</p> <p>【がん看護研究者養成コース】</p> <p>CUNY (NY 市立大学) の Dr.Nokes と英語でメールのやりとり、および Skype でのディスカッションを繰り返し行いながら、理論構築から現在のテーマ選定まで進めることができている。がん看護研究者コース教員は、常に学生の進捗を確認しながら双方のニュアンスの違いや意見の取りまとめなど調整を行った。</p>
久留米大学	大学院生の学位論文は英文誌であり、また、学位研究以外にも英文論文を発表していることから、十分に指導できていると考える。
産業医科大学	グローバル化を視野にいれ、平成 25 年度から、英語のみで講義や議論を行う「医学英語特別コース」を設置し、必修科目とした。また、アジアから留学生を受入れることで、英語と接する機会を増やしている。
福岡大学	指導中である。
福岡県立大学	英語で論議できるまでには指導できなかった。
佐賀大学	できていない。
長崎大学	国際学会での発表や質疑応答、英文論文作成などの指導を行っている。
熊本大学	実施なし。
大分大学	指導中である。
宮崎大学	ある程度の議論が出来るまで指導を行うことが出来た。
鹿児島大学	大学院生は学会発表程度の英語力までは到達しているが、十分な議論ができるレベルまでに至っておらず、今後もその養成が必要である。
琉球大学	英語でのプレゼンテーションの指導はおこない成果を得たが、議論のレベルには到達できなかった。

3. その他

その他の取組等

取組状況	
九州大学	<p>【高度先端臨床腫瘍学コース】</p> <p>以下、海外の雑誌 (journal) にて学生の論文発表</p> <p>①Sensitivity and kinase activity of epidermal growth factor receptor (EGFR) exon 19 and others to EGFR-tyrosine kinase inhibitors. Furuyama K, Harada T, Iwama E, Shiraishi Y, Okamura K, Ijichi K, Fujii A, Ota K, Wang S, Li H, Takayama K, Giaccone G, Nakanishi Y. Cancer Sci. 2013 May;104(5):584-9. doi: 10.1111/cas.12125. Epub 2013 Mar 28.</p> <p>②Yoshikawa M, Tsuchihashi K, Ishimoto T, Yae T, Motohara T, Sugihara E, Onishi N, Masuko T, Yoshizawa K, Kawashiri S, Mukai M, Asoda S, Kawana H, Nakagawa T, Saya H and Nagano O.xCT inhibition depletes CD44v-expressing tumor cells that are resistant EGFR-targeted therapy in head and neck squamous cell carcinoma. Cancer Research, 2013;71:1855-66</p> <p>③Wada T, Ishimoto T, Seishima R, Tsuchihashi K, Yoshikawa M, Oshima H, Oshima M, Masuko T, Wright NA, Furuhashi S, Hirashima K, Baba H, Kitagawa Y, Saya H, Nagano O.Functional role of CD44v-xCT system in the development of spasmodic polypeptide-expressing metaplasia. Cancer Science, 2013;104:1323-9</p> <p>【がん研究薬剤師コース】</p> <p>以下、海外の雑誌 (journal) にて学生の論文発表</p> <p>①Murakami Y, Watari K, Shibata T, Uba M, Ureshino H, Kawahara A, Abe H, Izumi H, Mukaida N, Kuwano M, Ono M. N-myc downstream-regulated gene 1 promotes tumor inflammatory angiogenesis through JNK activation and autocrine loop of interleukin-1α by human gastric cancer cells. J Biol Chem. 2013 Aug 30;288(35):25025-25037. doi: 10.1074/jbc.M113.472068. Epub 2013 Jul 11.</p> <p>②Shibata T, Kan H, Murakami Y, Ureshino H, Watari K, Kawahara A, Kage M, Hattori S, Ono M, Kuwano M.Y-box binding protein-1 contributes to both HER2/ErbB2 expression and lapatinib sensitivity in human gastric cancer cells. Mol Cancer Ther. 2013 May;12(5):737-46. doi: 10.1158/1535-7163.MCT-12-1125. Epub 2013 Feb 27.</p> <p>③Azuma K, Kawahara A, Hattori S, Taira T, Tsurutani J, Watari K, Shibata T, Murakami Y, Takamori S, Ono M, Izumi H, Kage M, Yanagawa T, Nakagawa K, Hoshino T, Kuwano M. NDRG1/Cap43/Drg-1 may predict tumor angiogenesis and poor outcome in patients with lung cancer. J Thorac Oncol. 2012 May;7(5):779-89. doi: 10.1097/JTO.0b013e31824c92b4.</p> <p>④Watari K, Nakamura M, Fukunaga Y, Furuno A, Shibata T, Kawahara A,</p>

	<p>Hosoi F, Kuwano T, Kuwano M, Ono M. The antitumor effect of a novel angiogenesis inhibitor (an octahydronaphthalene derivative) targeting both VEGF receptor and NF-κB pathway. <i>Int J Cancer</i>. 2012 Jul 15;131(2):310-21. doi: 10.1002/ijc.26356. Epub 2011 Sep 14.</p> <p>以下、学生の論文発表</p> <p>赤嶺孝祐、若松菜摘、横山絵里、松永直哉、小柳悟、大戸茂弘. ゲムシタビン注射用製剤 後発医薬品の溶解性に関する検討. <i>医療薬学</i> 39, 4, 220-224, 2013. 4月</p> <p>以下、学生の論文発表</p> <p>複製開始複合体形成におけるクロマチン制御の試験管内再構成系を用いた解析 會澤誠大 1、杉本のぞみ 1、渡邊心也 1、吉田和真 1、胡桃坂仁志 2、藤田雅俊 1 (九大・院薬・医薬細胞生化学 1、早稲田大・先進理工/理工研 2)</p> <p>第 22 回 DNA 複製・組換え・修復ワークショップ (2013 年 11 月 20 日～22 日、仙台市秋保温泉)</p>
--	---

(資料1)「九州がんブロー養成基盤推進プラン」各コース受入実績

区分	コースを開設している大学・研究科・専攻名	コース名	修業年限	養成する専門分野	入学者数等				在学者数													
					受入目標人数		受入実績 (※旧がんブローからの移行者を除く)		合計	1年次		2年次		3年次		4年次						
					H24	H25	H24	H25		計	うち旧がんブロー口移行者数	うち旧がんブロー口移行者数	計	うち旧がんブロー口移行者数	うち旧がんブロー口移行者数	計	うち旧がんブロー口移行者数	うち旧がんブロー口移行者数				
					計	H24	H25	H24	H25	計	うち旧がんブロー口移行者数	うち旧がんブロー口移行者数	計	うち旧がんブロー口移行者数	うち旧がんブロー口移行者数	計	うち旧がんブロー口移行者数	うち旧がんブロー口移行者数				
合計(インテンシブコースのぞく)																						
小計																						
	九州大学大学院医学系学府医学専攻	高度先端臨床腫瘍学コース	4	臨床腫瘍学	7	7	14	4	72	76	4	72	100	74	2	39	35	31	31	32	32	
	九州大学大学院医学系学府保健学専攻	医学物理士養成コース・博士後期課程	3	医学物理学	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	九州大学大学院医学系学府保健学専攻	がん専門臨床検査技師コース・博士後期課程	3	病理細胞学	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	久留米大学大学院医学研究科個別薬道医薬系専攻	博士課程先端癌治療学専攻腫瘍専門医養成ユニット ①「がん薬物治療」 ②「放射線治療」 ③「緩和医療」	4	①がん薬物治療 ②放射線治療 ③緩和医療	3	3	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
	産業医科科大学大学院医学研究科医学専攻	臨床腫瘍医養成コース	4	臨床腫瘍医	2	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	産業医科科大学大学院医学研究科医学専攻	放射線腫瘍医養成コース	4	放射線腫瘍医	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	福岡大学大学院医学研究科臨床腫瘍学専攻	がん専門医療人指導者コース	4	臨床腫瘍学	2	2	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	福岡県立大学大学院看護学研究科看護学専攻	地域がん看護人材養成コース	2	がん看護専門看護師 (長期研修制度あり:3年)	2	2	3	2	1	3	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医薬科学専攻、 新開院感染症制御学系専攻、 放射線医薬科学専攻	がん専門医師・薬剤師養成コース	4	がん専門医師 薬剤師	3	3	8	8	11	3	9	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻	がん専門看護師養成コース	2	がん専門看護師	1	1	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	熊本大学大学院医学教育研究科医学専攻	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	4	がん薬物治療 がん外科治療	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	熊本大学大学院保健学教育研究科保健学専攻	医学物理士養成コース 博士前期課程	2	医学物理学	2	2	8	8	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	琉球大学大学院医学研究科医科学専攻	腫瘍疼痛制御緩和ケアプログラム	4	緩和ケア専門医	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

区分	コースを開設している大学・研究科・専攻名	コース名	修業年限	養成する専門分野	入学者数等					在学者数											
					受入目標人数		受入実績 (※旧がんプロからの移行者を除く)		合計	1年次		2年次		3年次		4年次					
					H24	H25	H24	H25		うち旧がんプロ 在学者数	うち旧がんプロ 移行者数	うち旧がんプロ 在学者数	うち旧がんプロ 移行者数	うち旧がんプロ 在学者数	うち旧がんプロ 移行者数	うち旧がんプロ 在学者数	うち旧がんプロ 移行者数				
					計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計				
		小計			26	2	26	0	29	0	29	45	30	1	17	17	10	10	10	17	17
	久留米大学大学院医学研究科医科学専攻	修士課程「がん看護専門看護師教育課程」	2	がん看護専門看護師	2	2	2	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0
	福岡大学大学院医学研究科 先端医療科学系臨床腫瘍学専攻	地域がん医療専門医療人養成コース	4	臨床腫瘍学	2	2	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	佐賀大学大学院医学系研究科医科学専攻	がん地域診療医師養成特別コース	4	がん地域診療 緩和ケア医	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	佐賀大学大学院医学系研究科医科学専攻	がん地域医療人養成コース	2	がん地域医療に特化した各職種	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	長崎大学大学院医学部薬学総合研究科医療科学専攻、 新聞感染症制御制御学系専攻、 放射線医療科学専攻	がん地域貢献医師・薬剤師養成コース	4	がん地域貢献医師・薬剤師	3	3	7	7	0	0	3	10	8	1	1	1	1	1	1	1	0
	長崎大学大学院医学部薬学総合研究科保健学専攻	がん地域貢献看護師養成コース	2	がん地域貢献看護師	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	熊本大学大学院保健学教育部保健学専攻	がん看護専門看護師コース	2	がん看護専門看護師 博士前期課程 博士後期課程 3年	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大分大学大学院医学系研究科看護学専攻	地域貢献がん看護専門看護師コース	2	がん看護専門看護師	2	2	1	1	0	0	2	3	2	1	0	2	2	0	0	0	0
	大分大学大学院医学系研究科医科学専攻	地域貢献がん専門医療人養成コース	4	医師・看護師・薬剤師他	2	2	11	11	0	0	11	46	35	11	0	10	10	9	9	16	16
	宮崎大学大学院医学総合研究科 医学獣医学専攻	地域がん治療専門医療人養成コース	4	がん治療医	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	宮崎大学大学院医学系看護学研究科看護学専攻	地域医療に貢献するがん看護専門看護師養成コース	2	がん看護専門看護師	2	2	4	4	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鹿児島大学大学院医学総合研究科健康科学専攻、先 進治療科学専攻	僻地・離島医療専門医療人養成コース	4	がん臨床医	2	2	3	3	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	琉球大学大学院医学研究科医科学専攻	放射線腫瘍専門医療人養成プログラム	4	放射線治療医	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	琉球大学大学院医学研究科医科学専攻	がん薬物療法専門医療人養成プログラム	4	腫瘍内科医	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	琉球大学大学院医学研究科医科学専攻	医学物理学プログラム	2	医学物理士 放射線治療品質管理士	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	琉球大学大学院保健学教育部保健学専攻	がん看護専門看護師養成プログラム	2	がん看護専門看護師	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		小計	5		2	5	7	2	5	8	1	5	0	2	0	0	0	0	0	1	1
	九州大学大学院医学系学術府医学専攻	高度先端がん放射線治療医師養成コース	4	放射線治療医	1	1	1	1	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	九州大学大学院薬学府臨床薬学専攻	がん研究薬剤師コース博士課程	4	がん研究薬剤師	2	2	4	2	2	4	0	2	0	2	0	2	0	0	0	0	0
	九州大学大学院医学系学術府保健学専攻	がん看護研究者養成コース博士後期課程	3	がん看護専門看護師	2	2	2	2	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0

区分	コースを開設している 大学名	コース名	期間(時 間数等)	養成する専門分野	実施形態	入学者数(受入実績)						修了者数			
						合計		H24		H25		合計		H24	
						計	うち がんブ ロ移行 者数	入学者 数	うち がんブ ロ移行 者数	入学者 数	うち がんブ ロ移行 者数	計	うち がんブ ロ移行 者数	計	うち がんブ ロ移行 者数
		合計				593	2	201	2	392	0	135	0	135	0
インテ ンシ ブ コ ー ス	久留米大学大学院	先端癌治療学 悪性腫瘍専門医養成ユニット ①「化学薬物療法専門医養成コース(インテンシブ)」 ②「放射線療法専門医養成コース(インテンシブ)」 ③「緩和医療専門医養成コース(インテンシブ)」	1年	①がん薬物治療 ②放射線治療 ③緩和医療	科目等履修生等の制度利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	久留米大学大学院	修士課程「科目等履修制度」(インテンシブ)	1年	がん看護専門看護師	科目等履修生等の制度利用	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	福岡大学大学院	がん医療専門職業人コース(インテンシブ)	6カ月	がん医療	公開講座、研修等の制度利用	439	0	108	0	331	0	100	0	100	0
	福岡大学大学院	がん医療専門医コース(インテンシブ)	3カ月 ～1年	がん専門医	公開講座、研修等の制度利用	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	佐賀大学大学院	がん地域診療医師養成特別コース(インテンシブ)	1年以上	臨床腫瘍医 緩和ケア医	科目等履修生等の制度利用	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	佐賀大学大学院	がん地域医療人養成コース(インテンシブ)	6カ月 以上	がん医療に特化した各職種	科目等履修生等の制度利用	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	大分大学大学院	地域がん医療専門医療人養成コース (インテンシブ)	2年	看護師・医師・薬剤師他	公開講座、研修等の制度利用	29	0	27	0	2	0	0	0	0	0
	大分大学大学院	多職種連携教育コース(インテンシブ)	2年	医師・看護師・薬剤師	公開講座、研修等の制度利用	10	2	6	2	4	0	0	0	0	0
	大分大学大学院	がん研究者養成コース(インテンシブ)	4年	医師・看護師・薬剤師他	公開講座、研修等の制度利用	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0
	宮崎大学大学院	地域がん総合治療医育成コース(インテンシブ)	1年	がん臨床医	公開講座、研修等の制度利用	21	0	15	0	6	0	0	0	0	0
	宮崎大学大学院	成人T細胞白血病専門医療人養成コース (インテンシブ)	1年	がん臨床医	公開講座、研修等の制度利用	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	鹿児島大学大学院	がん専門薬剤師養成コース(インテンシブ)	6カ月	臨床薬剤師	公開講座、研修等の制度利用	21	0	9	0	12	0	9	0	9	0
	鹿児島大学大学院	消化器がん集学的治療専門医療人養成コース (インテンシブ)	2カ月	がん臨床医	公開講座、研修等の制度利用	45	0	21	0	24	0	18	0	18	0
	鹿児島大学大学院	緩和ケア専門医療人養成コース(インテンシブ)	3カ月	緩和医療	公開講座、研修等の制度利用	4	0	2	0	2	0	2	0	2	0
	鹿児島大学大学院	成人T細胞白血病専門医療人養成コース (インテンシブ)	5カ月	がん臨床医	公開講座、研修等の制度利用	3	0	2	0	1	0	0	0	0	0
琉球大学大学院	地域がん専門薬剤師養成コース(インテンシブ)	9カ月	がん治療、緩和医療薬剤師	公開講座、研修等の制度利用	2	0	1	0	1	0	1	0	1	0	
琉球大学大学院	がん看護エキスパートナー ス(インテンシブ)	1年	がん看護エキスパートナ ー	公開講座、研修等の制度利用	11	0	5	0	6	0	5	0	5	0	

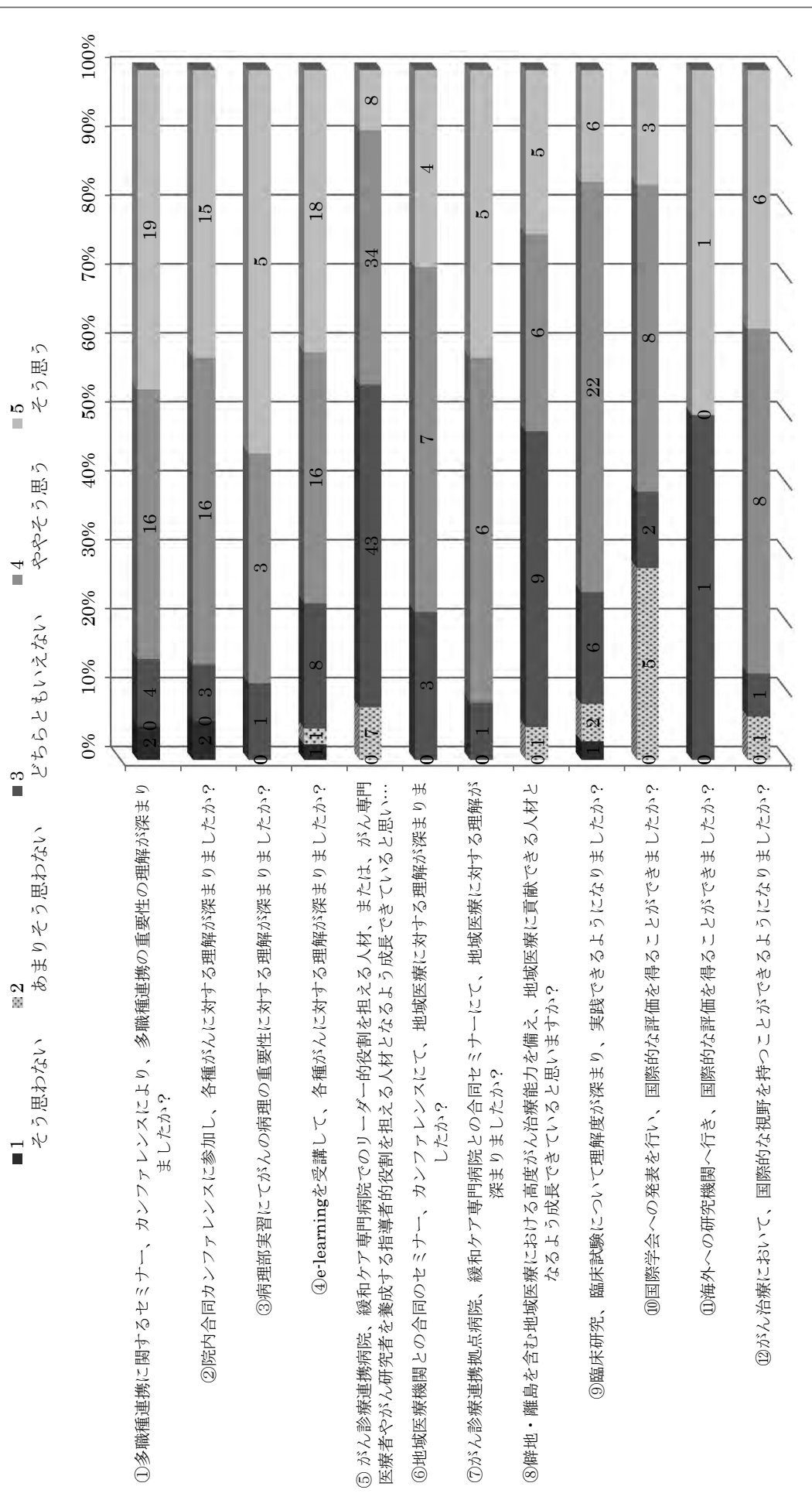
(資料 2)「九州がんプロ養成基盤推進プラン」 がんに関する専門資格の取得者数

コースを開設している 大学・研究科・専攻名	コース名	修業年限	養成する専門分野	取得が見込まれる各学会等認定 資格のうち平成24年度以降受験や 合格実績がある資格名	資格取得者数(のべ人数)							
					H24				H25			
					受験者数	うち旧 がんブ ロ受験 者数	合格者数	うち旧 がんブ ロ合格 者数	受験者数	うち旧 がんブ ロ受験 者数	合格者数	うち旧 がんブ ロ合格 者数
計					2	2	2	2	9	5	9	5
九州大学大学院医学系学府医学専攻	高度先端臨床腫瘍学コース	4	臨床腫瘍学	・がん薬物療法専門医(日本臨床腫瘍学会) ・がん治療認定医(日本がん治療認定医機構)	/	/	/	/	1	1	1	1
福岡大学大学院医学研究科 先端医療科学系臨床腫瘍学専攻	がん専門医療人指導者コース	4	臨床腫瘍学	・婦人科腫瘍専門医	/	/	/	/	1	0	1	0
大分大学大学院医学系研究科医学専攻	地域貢献がん専門医療人養成コース	4	医師・看護師・薬剤師他	・日本がん治療認定医機構 がん認定医 ・消化器外科専門医 ・消化器がん外科治療認定医 ・日本消化器内視鏡学会専門医	/	/	/	/	4	4	4	4
宮崎大学大学院医学看護学研究科看護学専攻	地域医療に貢献するがん看護専門看護師養成コース	2	がん看護専門看護師	・がん看護専門看護師	2	2	2	2	0	0	0	0
鹿児島大学大学院医学総合研究科 健康科学専攻、先進治療科学専攻	僻地・離島医療専門医療人養成コース	4	がん臨床医	・日本臨床腫瘍学会薬物療法専門医 ・日本がん治療認定医機構認定医 ・日本外科学会専門医	/	/	/	/	3	1	3	1
九州大学大学院医学系学府医学専攻	高度先端がん放射線治療医師養成コース	4	放射線治療医	・放射線治療専門医(日本医学放射線学会)	/	/	/	/	1	0	1	0

(資料3)「九州がんプロ養成基盤推進プラン」 学生アンケート結果

※熊本大学は、現在の履修生が在籍している医学物理士養成コースの取組と、アンケートの設問が合致していないため、実施していない。

※学生の回答があった大学のみ、次ページ以降に内訳を記載。



内訳1) 九州大学 (1/2)

回収数	配布数	回収率 (回収数÷配布数)
31	71	43.7%

設 問	アンケート評価ごとの回答数 (5段階評価)					回答数
	1 そう思わない	2 あまりそう思わない	3 どちらともいえない	4 ややそう思う	5 そう思う	
1. 「がん教育改革」に関する項目						
①多職種連携に関するセミナー、カンファレンスにより、多職種連携の重要性の理解が深まりましたか？	0	0	3	2	9	14
②院内合同カンファレンスに参加し、各種がんに対する理解が深まりましたか？	0	0	2	4	4	10
③病理部実習にてがんの病理の重要性に対する理解が深まりましたか？	0	0	1	3	3	7
④e-Learningを受講して、各種がんに対する理解が深まりましたか？	0	1	2	5	4	12
⑤ がん診療連携病院、緩和ケア専門病院でのリーダー的役割を担える人材、または、がん専門医療者やがん研究者を養成する指導者の役割を担える人材となるよう成長できていると思いませんか？	0	3	15	8	0	26
小 計	0	4	23	22	20	
2. 地域がん医療貢献に関する項目						
⑥地域医療機関との合同のセミナー、カンファレンスにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	3	1	0	4
⑦がん診療連携拠点病院、緩和ケア専門病院との合同セミナーにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	1	0	0	1
⑧僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備え、地域医療に貢献できる人材となるよう成長できていると思いませんか？	0	1	1	0	0	2
小 計	0	1	5	1	0	
3. がん研究に関する項目						
⑨臨床研究、臨床試験について理解度が深まり、実践できるようになりましたか？	1	0	2	10	1	14
⑩国際学会への発表を行い、国際的な評価を得ることができましたか？	0	1	2	1	2	6
⑪海外への研究機関へ行き、国際的な評価を得ることができましたか？	0	0	1	0	1	2
⑫がん治療において、国際的な視野を持つことができようになりましたか？	0	0	1	3	2	6
小 計	1	1	6	14	6	
合 計	1	6	34	37	26	

内訳1) 九州大学 (2/2)

【意見・要望】 がんプロへの意見・要望等ありましたら、自由に記載下さい。	回答
回答者 履修コース	
①教育改革	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の曜日が月曜や木曜なら業務の都合上参加しやすいです。
①教育改革	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週火曜日の講義は、手術や書類整理の為、出席が困難。
①教育改革	<ul style="list-style-type: none"> ・講義時間が短縮出来れば、もう少し受講しやすいです。2外科としては、火曜日の講義は時間的な余裕がないことがあります。実習等は参加が固定されている方が参加しやすいです。
①教育改革	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい試みに挑戦されているようで、学生としても楽しみです。
①教育改革	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院一年目は病棟、二年目より研究という環境が、がんプロで行われている講義や実習を行うには不適切だと思います。せつかくのプログラムを生かせず、とても残念です。
①教育改革	<ul style="list-style-type: none"> ・DVDで講義を受けられるのは非常に助かります。いいシステムだと思います。ただ、DVDの画質が悪い箇所があります。そこは改善点だと思います。
③研究	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の第1回全体研修会へ参加し、現在私の所属する臨床薬学専攻でも受講可能とのことでe-learningを受講中です。現在、臨床薬学専攻ではがんに関する研究テーマでがん研究に取り組むことが本分となっており、薬学府にはこのアンケートに記されているようなセミナー等に参加できる機会も少なく、またそれらの情報が積極的に配信されている様子がないように感じます。特に私自身は卒業、病院等で薬剤師として、それもがんを専門としてやっていきたいと考えているので、個人的なことかもしれませんが、薬剤師もより能動的に絡めるような情報やプランがあれば良いなと思っております。

内訳2) 産業医科大学

回収数	配布数	回収率 (回収数÷配布数)
2	2	100%

設 問	アンケート評価ごとの回答数 (5段階評価)					回答数
	1 そう わない	2 あまり 思わ ない	3 どちら とも いえ ない	4 やや そう 思 う	5 そう 思 う	
1. 「がん教育改革」に関する項目						
①多職種連携に関するセミナー、カンファレンスにより、多職種連携の重要性の理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
②院内合同カンファレンスに参加し、各種がんに対する理解が深まりましたか？	1	0	0	1	0	2
③病理部実習にてがんの病理の重要性に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
④e-learning を受講して、各種がんに対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑤ がん診療連携病院、緩和ケア専門病院でのリーダー的役割を担える人材、または、がん専門医療者やがん研究者を養成する指導者の役割を担える人材となるよう成長できていると思いますか？	0	0	2	0	0	2
小 計	1	0	2	1	0	
2. 地域がん医療貢献に関する項目						
⑥地域医療機関との合同のセミナー、カンファレンスにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑦がん診療連携拠点病院、緩和ケア専門病院との合同セミナーにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑧僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備え、地域医療に貢献できる人材となるよう成長できていると思いますか？	0	0	0	0	0	0
小 計	0	0	0	0	0	
3. がん研究に関する項目						
⑨臨床研究、臨床試験について理解度が深まり、実践できるようになりましたか？	0	1	0	0	0	1
⑩国際学会への発表を行い、国際的な評価を得ることができましたか？	0	0	0	0	0	0
⑪海外への研究機関へ行き、国際的な評価を得ることができましたか？	0	0	0	0	0	0
⑫がん治療において、国際的な視野を持つことができるようになりましたか？	0	0	0	0	0	0
小 計	0	1	0	0	0	
合 計	1	1	2	1	0	

内訳3) 福岡大学 (1/3)

回収数	配布数	回収率 (回収数÷配布数)
4	4	100%

※インテンシブコース生のぞく

設 問	アンケート評価ごとの回答数 (5段階評価)					回答数
	1 そう わない	2 あまり 思わ ない	3 どちら とも いえ ない	4 やや そう 思 う	5 そう 思 う	
1. 「がん教育改革」に関する項目						
①多職種連携に関するセミナー、カンファレンスにより、多職種連携の重要性の理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
②院内合同カンファレンスに参加し、各種がんに対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	1	1
③病理部実習にてがんの病理の重要性に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
④e-learning を受講して、各種がんに対する理解が深まりましたか？	0	0	0	2	1	3
⑤ がん診療連携病院、緩和ケア専門病院でのリーダー的役割を担える人材、または、がん専門医療者やがん研究者を養成する指導者の役割を担える人材となるよう成長できていると思いますか？	0	1	0	2	1	4
小 計	0	1	0	4	3	
2. 地域がん医療貢献に関する項目						
⑥地域医療機関との合同のセミナー、カンファレンスにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	1	1
⑦がん診療連携拠点病院、緩和ケア専門病院との合同セミナーにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	1	1	2
⑧僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備え、地域医療に貢献できる人材となるよう成長できていると思いますか？	0	0	0	0	1	1
小 計	0	0	0	1	3	
3. がん研究に関する項目						
⑨臨床研究、臨床試験について理解度が深まり、実践できるようになりましたか？	0	0	1	1	1	3
⑩国際学会への発表を行い、国際的な評価を得ることができましたか？	0	0	0	0	0	0
⑪海外への研究機関へ行き、国際的な評価を得ることができましたか？	0	0	0	0	0	0
⑫がん治療において、国際的な視野を持つことができるようになりましたか？	0	0	0	0	0	0
小 計	0	0	1	1	1	
合 計	0	1	1	6	7	

内訳3) 福岡大学 (2/3)

※インテンシブコース生のぞく

【意見・要望】 がんプロへの意見・要望等ありましたら、自由に記載下さい。	
回答者 履修コース	回 答
②地域貢献	・e-learning、長崎離島研修、志賀島での第1回九州がんプロ全体研修会とても勉強になります。がん医療人としての自覚もつきました。

内訳3) 福岡大学 (3/3)

回収数	配布数	回収率 (回収数÷配布数)
1	1	100%

※インテンシブコース生のみ

設 問	アンケート評価ごとの回答数 (5段階評価)					回答数
	1 そう思わない	2 あまりそう思わない	3 どちらともいえない	4 ややそう思う	5 そう思う	
1. 「がん教育改革」に関する項目						
①多職種連携に関するセミナー、カンファレンスにより、多職種連携の重要性の理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
②院内合同カンファレンスに参加し、各種がんに対する理解が深まりましたか？	0	0	1	0	0	1
③病理部実習にてがんの病理の重要性に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	1	1
④e-learning を受講して、各種がんに対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑤ がん診療連携病院、緩和ケア専門病院でのリーダー的役割を担える人材、または、がん専門医療者やがん研究者を養成する指導者的役割を担える人材となるよう成長できていると思いますか？	0	0	0	1	0	1
小 計	0	0	1	1	1	1
2. 地域がん医療貢献に関する項目						
⑥地域医療機関との合同のセミナー、カンファレンスにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑦がん診療連携拠点病院、緩和ケア専門病院との合同セミナーにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑧僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備え、地域医療に貢献できる人材となるよう成長できていると思いますか？	0	0	0	0	0	0
小 計	0	0	0	0	0	0
3. がん研究に関する項目						
⑨臨床研究、臨床試験について理解度が深まり、実践できるようになりましたか？	0	0	0	1	0	1
⑩国際学会への発表を行い、国際的な評価を得ることができましたか？	0	0	0	0	0	0
⑪海外への研究機関へ行き、国際的な評価を得ることができましたか？	0	0	0	0	0	0
⑫がん治療において、国際的な視野を持つことができるようになりましたか？	0	0	0	0	0	0
小 計	0	0	0	1	0	0
合 計	0	0	1	2	1	1

内訳 4) 福岡県立大学 (1/2)

回収数	配布数	回収率 (回収数÷配布数)
3	3	100%

設 問	アンケート評価ごとの回答数 (5段階評価)					回答数
	1 そう思わない	2 あまりそう思わない	3 どちらともいえない	4 ややそう思う	5 そう思う	
1. 「がん教育改革」に関する項目						
①多職種連携に関するセミナー、カンファレンスにより、多職種連携の重要性の理解が深まりましたか？	0	0	0	1	1	2
②院内合同カンファレンスに参加し、各種がんに対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
③病理部実習にてがんの病理の重要性に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
④e-learning を受講して、各種がんに対する理解が深まりましたか？	0	0	0	2	1	3
⑤ がん診療連携病院、緩和ケア専門病院でのリーダー的役割を担える人材、または、がん専門医療者やがん研究者を養成する指導者的役割を担える人材となるよう成長できていると思いますか？	0	0	0	2	1	3
小 計	0	0	0	5	3	
2. 地域がん医療貢献に関する項目						
⑥地域医療機関との合同のセミナー、カンファレンスにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑦がん診療連携拠点病院、緩和ケア専門病院との合同セミナーにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑧僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備え、地域医療に貢献できる人材となるよう成長できていると思いますか？	0	0	0	0	0	0
小 計	0	0	0	0	0	
3. がん研究に関する項目						
⑨臨床研究、臨床試験について理解度が深まり、実践できるようになりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑩国際学会への発表を行い、国際的な評価を得ることができましたか？	0	0	0	0	0	0
⑪海外への研究機関へ行き、国際的な評価を得ることができましたか？	0	0	0	0	0	0
⑫がん治療において、国際的な視野を持つことができるようになりましたか？	0	0	0	0	0	0
小 計	0	0	0	0	0	
合 計	0	0	0	5	3	

内訳 4) 福岡県立大学 (2/2)

【意見・要望】 がんプロへの意見・要望等ありましたら、自由に記載下さい。	
回答者 履修コース	回 答
②地域貢献	eラーニングの1回分の時間を短くして頂けると、より受講しやすと感じました。

内訳5) 佐賀大学 (1/3)

回収数	配布数	回収率 (回収数÷配布数)
1	1	100%

※インテンシブコース生のぞく

設 問	アンケート評価ごとの回答数 (5段階評価)					回答数
	1 そう思わない	2 あまりそう思わない	3 どちらともいえない	4 ややそう思う	5 そう思う	
1. 「がん教育改革」に関する項目						
①多職種連携に関するセミナー、カンファレンスにより、多職種連携の重要性の理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
②院内合同カンファレンスに参加し、各種がんに対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
③病理部実習にてがんの病理の重要性に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
④e-learning を受講して、各種がんに対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	1	1
⑤ がん診療連携病院、緩和ケア専門病院でのリーダー的役割を担える人材、または、がん専門医療者やがん研究者を養成する指導者的役割を担える人材となるよう成長できていると思いますか？	0	0	0	0	1	1
小 計	0	0	0	0	2	
2. 地域がん医療貢献に関する項目						
⑥地域医療機関との合同のセミナー、カンファレンスにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑦がん診療連携拠点病院、緩和ケア専門病院との合同セミナーにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑧僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備え、地域医療に貢献できる人材となるよう成長できていると思いますか？	0	0	0	0	0	0
小 計	0	0	0	0	0	
3. がん研究に関する項目						
⑨臨床研究、臨床試験について理解度が深まり、実践できるようになりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑩国際学会への発表を行い、国際的な評価を得ることができましたか？	0	0	0	0	1	1
⑪海外への研究機関へ行き、国際的な評価を得ることができましたか？	0	0	0	0	0	0
⑫がん治療において、国際的な視野を持つことができるようになりましたか？	0	0	0	0	1	1
小 計	0	0	0	0	2	
合 計	0	0	0	0	4	

内訳5) 佐賀大学 (2/3)

回収数	配布数	回収率 (回収数÷配布数)
2	2	100%

※インテンシブコース生のみ

設 問	アンケート評価ごとの回答数 (5段階評価)					回答数
	1 そう思わない	2 あまりそう思わない	3 どちらともいえない	4 ややそう思う	5 そう思う	
1. 「がん教育改革」に関する項目						
①多職種連携に関するセミナー、カンファレンスにより、多職種連携の重要性の理解が深まりましたか？	0	0	1	0	0	1
②院内合同カンファレンスに参加し、各種がんに対する理解が深まりましたか？	0	0	0	1	0	1
③病理部実習にてがんの病理の重要性に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
④e-learning を受講して、各種がんに対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑤ がん診療連携病院、緩和ケア専門病院でのリーダー的役割を担える人材、または、がん専門医療者やがん研究者を養成する指導者的役割を担える人材となるよう成長できていると思いますか？	0	0	1	1	0	2
小 計	0	0	2	2	0	4
2. 地域がん医療貢献に関する項目						
⑥地域医療機関との合同のセミナー、カンファレンスにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	1	0	1
⑦がん診療連携拠点病院、緩和ケア専門病院との合同セミナーにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	2	0	2
⑧僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備え、地域医療に貢献できる人材となるよう成長できていると思いますか？	0	0	0	0	0	0
小 計	0	0	0	3	0	3
3. がん研究に関する項目						
⑨臨床研究、臨床試験について理解度が深まり、実践できるようになりましたか？	0	0	0	1	1	2
⑩国際学会への発表を行い、国際的な評価を得ることができましたか？	0	0	0	1	0	1
⑪海外への研究機関へ行き、国際的な評価を得ることができましたか？	0	0	0	0	0	0
⑫がん治療において、国際的な視野を持つことができるようになりましたか？	0	1	0	0	0	1
小 計	0	1	0	2	1	4
合 計	0	1	2	7	1	11

内訳5) 佐賀大学 (3/3)

※インターネットコース生のみ

<p>【意見・要望】 がんプロへの意見・要望等ありましたら、自由に記載下さい。</p>	
<p>回答者 履修コース</p>	<p>回 答</p>
<p>②地域貢献</p>	<p>・急性期から緩和ケア期まで、様々な視点で取り組まなければならぬ疾患であり、専門職によるチームアプローチの重要性を再認識した。 他職種でのカンファレンスなどの機会が増えればより、医療者どうしの理解が可能となり、意見も求めやすいと感じた。 社会人の受講者では、時間と移動の問題で参加困難な場合が多いため、ネット中継がもっと容易に使用できれば、いいのではないかと感じました。</p>

内訳6) 長崎大学 (1/2)

回収数	配布数	回収率 (回収数÷配布数)
11	40	27.5%

設 問	アンケート評価ごとの回答数 (5段階評価)					回答数
	1 そう わない	2 あまり 思わ ない	3 どちら とも いえ ない	4 やや そう 思 う	5 そう 思 う	
1. 「がん教育改革」に関する項目						
①多職種連携に関するセミナー、カンファレンスにより、多職種連携の重要性の理解が深まりましたか？	1	0	0	1	2	4
②院内合同カンファレンスに参加し、各種がんに対する理解が深まりましたか？	1	0	0	3	2	6
③病理部実習にてがんの病理の重要性に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
④e-learning を受講して、各種がんに対する理解が深まりましたか？	0	0	4	2	1	7
⑤ がん診療連携病院、緩和ケア専門病院でのリーダー的役割を担える人材、または、がん専門医療者やがん研究者を養成する指導者の役割を担える人材となるよう成長できていると思いませんか？	0	0	4	4	1	9
小 計	2	0	8	10	6	
2. 地域がん医療貢献に関する項目						
⑥地域医療機関との合同のセミナー、カンファレンスにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	1	1	2
⑦がん診療連携拠点病院、緩和ケア専門病院との合同セミナーにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑧僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備え、地域医療に貢献できる人材となるよう成長できていると思いませんか？	0	0	1	1	1	2
小 計	0	0	1	2	1	
3. がん研究に関する項目						
⑨臨床研究、臨床試験について理解度が深まり、実践できるようになりましたか？	0	1	1	1	1	4
⑩国際学会への発表を行い、国際的な評価を得ることができましたか？	0	1	0	3	0	4
⑪海外への研究機関へ行き、国際的な評価を得ることができましたか？	0	0	0	0	0	0
⑫がん治療において、国際的な視野を持つことができるようになりましたか？	0	0	0	3	1	4
小 計	0	2	1	7	2	
合 計	2	2	10	19	9	

内訳6) 長崎大学 (2/2)

【意見・要望】 がんプロへの意見・要望等ありましたら、自由に記載下さい。	
回答者 履修コース	回答
①教育改革	がん全体的な話によりすぎず、それぞれの専門に即した実臨床や病理を見ることができ、カリキュラムになるとよりよいと思われました。
①教育改革	必要な単位取得が複数・またやや複雑であることが、がんプロを選択することに不安を覚えている人も少なからずいたという印象がある。取り組み自体は面白いと思うので、不安を解消するには、必要な単位を、簡潔な簡条書き等でコンパクトに記載してもらえらると良いと思う。年度ごとに履修項目の内容が変更されること・コースがある程度細分化することは止むを得ないとしても、その不安を解消するために丁寧な説明、わかりやすい情報提供など、事務方の積極的なサポートが必要だと思う。(説明する人によって説明内容が異なる場合もあつたので)
①教育改革	まだ社会人大学院で他施設勤務中につき、詳細については回答できません。来年度以降、回答できると思います。
①教育改革	長崎大学の他のがんプロ学生との交流や discussion などを行う場を設けていただければ、非常に刺激になると思います。腫瘍内科・腫瘍外科・放射線治療など様々な観点から垣根を越えて、建設的な discussion が出来れば、今後の研究や臨床にも応用出来ると思います。
②地域貢献	平戸市民病へのへき地研修に参加しました。実習前よりがんプロご担当者様には交通や宿舎、スケジュールにおきましても様々なサポートを頂き、また実習受け入れ先病院の先生方におかれましても事前に打合せなども行っていた頂き、とても安心して充実した自習が出来ました。E-learning につきまして少し不明点がございます。
①教育改革	e-learning の内容が看護師向けではないので、やや厳しい部分がありました。

内訳 7) 大分大学 (1/3)

回収数	配布数	回収率 (回収数÷配布数)
2	46	4.3%

※インテンシブコース生をのぞく

設 問	アンケート評価ごとの回答数 (5段階評価)					回答数
	1 そう思わない	2 あまりそう思わない	3 どちらともいえない	4 ややそう思う	5 そう思う	
1. 「がん教育改革」に関する項目						
①多職種連携に関するセミナー、カンファレンスにより、多職種連携の重要性の理解が深まりましたか？	0	0	0	1	0	1
②院内合同カンファレンスに参加し、各種がんに対する理解が深まりましたか？	0	0	0	1	0	1
③病理部実習にてがんの病理の重要性に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
④e-learning を受講して、各種がんに対する理解が深まりましたか？	0	0	1	0	0	1
⑤ がん診療連携病院、緩和ケア専門病院でのリーダー的役割を担える人材、または、がん専門医療者やがん研究者を養成する指導者的役割を担える人材となるよう成長できていると思いませんか？	0	0	0	1	0	1
小 計	0	0	1	3	0	
2. 地域がん医療貢献に関する項目						
⑥地域医療機関との合同のセミナー、カンファレンスにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑦がん診療連携拠点病院、緩和ケア専門病院との合同セミナーにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑧僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備え、地域医療に貢献できる人材となるよう成長できていると思いませんか？	0	0	0	0	0	0
小 計	0	0	0	0	0	
3. がん研究に関する項目						
⑨臨床研究、臨床試験について理解度が深まり、実践できるようになりましたか？	0	0	0	1	1	2
⑩国際学会への発表を行い、国際的な評価を得ることができましたか？	0	0	0	2	0	2
⑪海外への研究機関へ行き、国際的な評価を得ることができましたか？	0	0	0	0	0	0
⑫がん治療において、国際的な視野を持つことができるようになりましたか？	0	0	0	0	1	1
小 計	0	0	0	3	2	
合 計	0	0	1	6	2	

内訳 7) 大分大学 (2/3)

※インテンシブコース生のぞく

【意見・要望】 がんプロへの意見・要望等ありましたら、自由に記載下さい。	
回答者 履修コース	回 答
②地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・いまだにがん組織の全容が明確に理解できません。コース途中でも一度参加者を集めて経過報告会のようなものがあると良いと思います。 ・多職種連携に関するセミナー、カンファレンス、院内合同カンファレンスなどがいつあっているのかわからなかった（このアンケートで初めて知った）のでもっと周知する必要があると思う。海外研修や英語を用いた講義、研修を増やすことで国際的な視野が広がると思う。
②地域貢献	

内訳 7) 大分大学 (3/3)

回収数	配布数	回収率 (回収数÷配布数)
1	38	2.6%

※インテンシブコース生のみ

設 問	アンケート評価ごとの回答数 (5段階評価)					回答数
	1 そう思わない	2 あまりそう思わない	3 どちらともいえない	4 ややそう思う	5 そう思う	
1. 「がん教育改革」に関する項目						
①多職種連携に関するセミナー、カンファレンスにより、多職種連携の重要性の理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
②院内合同カンファレンスに参加し、各種がんに対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
③病理部実習にてがんの病理の重要性に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
④e-learning を受講して、各種がんに対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑤ がん診療連携病院、緩和ケア専門病院でのリーダー的役割を担える人材、または、がん専門医療者やがん研究者を養成する指導者的役割を担える人材となるよう成長できていると思いますか？	0	1	0	0	0	1
小 計	0	1	0	0	0	0
2. 地域がん医療貢献に関する項目						
⑥地域医療機関との合同のセミナー、カンファレンスにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑦がん診療連携拠点病院、緩和ケア専門病院との合同セミナーにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑧僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備え、地域医療に貢献できる人材となるよう成長できていると思いますか？	0	0	0	0	0	0
小 計	0	0	0	0	0	0
3. がん研究に関する項目						
⑨臨床研究、臨床試験について理解度が深まり、実践できるようになりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑩国際学会への発表を行い、国際的な評価を得ることができましたか？	0	0	0	0	0	0
⑪海外への研究機関へ行き、国際的な評価を得ることができましたか？	0	0	0	0	0	0
⑫がん治療において、国際的な視野を持つことができるようになりましたか？	0	0	0	0	0	0
小 計	0	0	0	0	0	0
合 計	0	1	0	0	0	0

内訳 8) 宮崎大学

回収数	配布数	回収率 (回収数÷配布数)
2	5	40%

※インテンシブコース生のみ

設 問	アンケート評価ごとの回答数 (5段階評価)					回答数
	1 そう思わない	2 あまりそう思わない	3 どちらともいえない	4 ややそう思う	5 そう思う	
1. 「がん教育改革」に関する項目						
①多職種連携に関するセミナー、カンファレンスにより、多職種連携の重要性の理解が深まりましたか？	0	0	0	2	0	2
②院内合同カンファレンスに参加し、各種がんに対する理解が深まりましたか？	0	0	0	1	1	2
③病理部実習にてがんの病理の重要性に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
④e-learning を受講して、各種がんに対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑤ がん診療連携病院、緩和ケア専門病院でのリーダー的役割を担える人材、または、がん専門医療者やがん研究者を養成する指導者的役割を担える人材となるよう成長できていると思いますか？	0	0	1	1	0	2
小 計	0	0	1	4	1	
2. 地域がん医療貢献に関する項目						
⑥地域医療機関との合同のセミナー、カンファレンスにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	1	0	1
⑦がん診療連携拠点病院、緩和ケア専門病院との合同セミナーにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑧僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備え、地域医療に貢献できる人材となるよう成長できていると思いますか？	0	0	0	0	0	0
小 計	0	0	0	1	0	
3. がん研究に関する項目						
⑨臨床研究、臨床試験について理解度が深まり、実践できるようになりましたか？	0	0	0	1	0	1
⑩国際学会への発表を行い、国際的な評価を得ることができましたか？	0	0	0	0	0	0
⑪海外への研究機関へ行き、国際的な評価を得ることができましたか？	0	0	0	0	0	0
⑫がん治療において、国際的な視野を持つことができるようになりましたか？	0	0	0	0	0	0
小 計	0	0	0	1	0	
合 計	0	0	1	6	1	

内訳9) 鹿児島大学 (1/3)

回収数	配布数	回収率 (回収数÷配布数)
3	3	100%

※インテンシブコース生のぞく

設 問	アンケート評価ごとの回答数 (5段階評価)					回答数
	1 そう思わない	2 あまりそう思わない	3 どちらともいえない	4 ややそう思う	5 そう思う	
1. 「がん教育改革」に関する項目						
①多職種連携に関するセミナー、カンファレンスにより、多職種連携の重要性の理解が深まりましたか？	0	0	0	0	3	3
②院内合同カンファレンスに参加し、各種がんに対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	3	3
③病理部実習にてがんの病理の重要性に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
④e-learning を受講して、各種がんに対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	1	1
⑤ がん診療連携病院、緩和ケア専門病院でのリーダー的役割を担える人材、または、がん専門医療者やがん研究者を養成する指導者的役割を担える人材となるよう成長できていると思いますか？	0	0	2	0	1	3
小 計	0	0	2	0	8	
2. 地域がん医療貢献に関する項目						
⑥地域医療機関との合同のセミナー、カンファレンスにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	1	1
⑦がん診療連携拠点病院、緩和ケア専門病院との合同セミナーにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	2	2
⑧僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備え、地域医療に貢献できる人材となるよう成長できていると思いますか？	0	0	1	0	1	2
小 計	0	0	1	0	4	
3. がん研究に関する項目						
⑨臨床研究、臨床試験について理解度が深まり、実践できるようになりましたか？	0	0	0	2	0	2
⑩国際学会への発表を行い、国際的な評価を得ることができましたか？	0	1	0	0	0	1
⑪海外への研究機関へ行き、国際的な評価を得ることができましたか？	0	0	0	0	0	0
⑫がん治療において、国際的な視野を持つことができるようになりましたか？	0	0	0	1	0	1
小 計	0	1	0	3	0	
合 計	0	1	3	3	12	

内訳9) 鹿児島大学 (2/3)

回収数	配布数	回収率 (回収数÷配布数)
32	39	82.1%

※インテンシブコース生のみ

設 問	アンケート評価ごとの回答数 (5段階評価)					回答数
	1 そう わない	2 あまり 思わ ない	3 どちら とも いえ ない	4 やや そう 思 う	5 そう 思 う	
1. 「がん教育改革」に関する項目						
①多職種連携に関するセミナー、カンファレンスにより、多職種連携の重要性の理解が深まりましたか？	1	0	0	7	4	12
②院内合同カンファレンスに参加し、各種がんに対する理解が深まりましたか？	0	0	0	3	4	7
③病理部実習にてがんの病理の重要性に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	1	1
④e-learning を受講して、各種がんに対する理解が深まりましたか？	1	0	1	4	8	14
⑤ がん診療連携病院、緩和ケア専門病院でのリーダー的役割を担える人材、または、がん専門医療者やがん研究者を養成する指導者の役割を担える人材となるよう成長できていると思いますか？	0	2	16	8	2	28
小 計	2	2	17	22	19	
2. 地域がん医療貢献に関する項目						
⑥地域医療機関との合同のセミナー、カンファレンスにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	3	1	4
⑦がん診療連携拠点病院、緩和ケア専門病院との合同セミナーにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	3	2	5
⑧僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備え、地域医療に貢献できる人材となるよう成長できていると思いますか？	0	0	6	5	3	14
小 計	0	0	6	11	6	
3. がん研究に関する項目						
⑨臨床研究、臨床試験について理解度が深まり、実践できるようになりましたか？	0	0	1	3	1	5
⑩国際学会への発表を行い、国際的な評価を得ることができましたか？	0	2	0	0	0	2
⑪海外への研究機関へ行き、国際的な評価を得ることができましたか？	0	0	0	0	0	0
⑫がん治療において、国際的な視野を持つことができるようになりましたか？	0	0	0	1	0	1
小 計	0	2	1	4	1	
合 計	2	4	24	37	26	

内訳9) 鹿児島大学 (3/3)

※インテンシブコース生のみ

回答者 履修コース	回 答
②地域貢献	<p>【意見・要望】 がんプロへの意見・要望等ありましたら、自由に記載下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者さんとのコミュニケーションに関する内容も学んでいきたいです。
②地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・ノイズ（環境音）がひどく、聞き取れない。ポイントがどこを指しているのか分からない講座があります。ほとんど、趣旨が伝わらなく、もったいないです。手元にテキストでもあれば、良いのですが・・・
②地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・受信側の設定が悪いのかもかもしれませんが、操作性が悪く、思うように受講できません。専門的なことはわかりませんが、もう少し操作性のよいものにしていただきたい。
②地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少しeラーニングの受講方法を簡便化してもいいかと思えます。
②地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンのセキュリティなどによりなかなか見れませんでした。
②地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・ipad で閲覧できるようにしてほしい。
②地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回とても勉強になります。普段お話しする機会のない先生方のお話が聞けてありがたいです。最後まで参加して、有意義な時間にしたたいと考えています。講師の先生方に感謝いたします。
②地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島県内で著名な先生方の講義を直接拝聴することができ、たいへんありがたいと思います。また、受講者数も少人数であるので、質問をしやすいです。90分というのもちょうどよいと思います。短時間で盛りだくさんの内容で、講師の先生方は大変かと思いますが、がんに関する他のテキストよりもわかりやすく、資料も大事にしたいと思います。また、日頃勉強する機会のなかった介護保険のことや放射線について学ぶことができ、よかったです。せっかくなので、たくさんの方が受けられたらよいと思います。このような機会をいただき、ありがとうございます。

回収数	配布数	回収率 (回収数÷配布数)
2	2	100%

※インテンシブコース生のぞく

設 問	アンケート評価ごとの回答数 (5段階評価)					回答数
	1 そう思わない	2 あまりそう思わない	3 どちらともいえない	4 ややそう思う	5 そう思う	
1. 「がん教育改革」に関する項目						
①多職種連携に関するセミナー、カンファレンスにより、多職種連携の重要性の理解が深まりましたか？	0	0	0	2	0	2
②院内合同カンファレンスに参加し、各種がんに対する理解が深まりましたか？	0	0	0	2	0	2
③病理部実習にてがんの病理の重要性に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
④e-learning を受講して、各種がんに対する理解が深まりましたか？	0	0	0	1	1	2
⑤ がん診療連携病院、緩和ケア専門病院でのリーダー的役割を担える人材、または、がん専門医療者やがん研究者を養成する指導者的役割を担える人材となるよう成長できていると思いませんか？	0	0	1	1	0	2
小 計	0	0	1	6	1	
2. 地域がん医療貢献に関する項目						
⑥地域医療機関との合同のセミナー、カンファレンスにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑦がん診療連携拠点病院、緩和ケア専門病院との合同セミナーにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑧僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備え、地域医療に貢献できる人材となるよう成長できていると思いませんか？	0	0	0	0	0	0
小 計	0	0	0	0	0	
3. がん研究に関する項目						
⑨臨床研究、臨床試験について理解度が深まり、実践できるようになりましたか？	0	0	1	1	0	2
⑩国際学会への発表を行い、国際的な評価を得ることができましたか？	0	0	0	1	0	1
⑪海外への研究機関へ行き、国際的な評価を得ることができましたか？	0	0	0	0	0	0
⑫がん治療において、国際的な視野を持つことができようになりましたか？	0	0	0	0	1	1
小 計	0	0	1	2	1	
合 計	0	0	2	8	2	

内訳 10) 琉球大学 (2/4)

※インテンシブコース生のぞく

回答者 履修コース	回 答
②地域貢献	<p>【意見・要望】 がんプロへの意見・要望等ありましたら、自由に記載下さい。</p> <p>・e-learning は非常に勉強になります。収録環境の問題だとおもいますが、音声が多くなり取りづらいため、改善してもらいたいです。また、個人的な不注意かもしれませんが、各講義の最後にある小テストについては「正しいものを選び」と「誤っているものを選び」を勘違いしてしまい、やり直しがきかないため、非常に低得点になってしまったことが何度もあり、残念な思いをしました。回答方式については統一していただけないかと思えます。"</p>

回収数	配布数	回収率 (回収数÷配布数)
7	7	100%

※インテンシブコース生のみ

設 問	アンケート評価ごとの回答数 (5段階評価)					回答数
	1 そう思わない	2 あまりそう思わない	3 どちらともいえない	4 ややそう思う	5 そう思う	
1. 「がん教育改革」に関する項目						
①多職種連携に関するセミナー、カンファレンスにより、多職種連携の重要性の理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
②院内合同カンファレンスに参加し、各種がんに対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
③病理部実習にてがんの病理の重要性に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
④e-learning を受講して、各種がんに対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑤ がん診療連携病院、緩和ケア専門病院でのリーダー的役割を担える人材、または、がん専門医療者やがん研究者を養成する指導者的役割を担える人材となるよう成長できていると思いますか？	0	0	1	5	1	7
小 計	0	0	1	5	1	
2. 地域がん医療貢献に関する項目						
⑥地域医療機関との合同のセミナー、カンファレンスにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑦がん診療連携拠点病院、緩和ケア専門病院との合同セミナーにて、地域医療に対する理解が深まりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑧僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備え、地域医療に貢献できる人材となるよう成長できていると思いますか？	0	0	0	0	0	0
小 計	0	0	0	0	0	
3. がん研究に関する項目						
⑨臨床研究、臨床試験について理解度が深まり、実践できるようになりましたか？	0	0	0	0	0	0
⑩国際学会への発表を行い、国際的な評価を得ることができましたか？	0	0	0	0	0	0
⑪海外への研究機関へ行き、国際的な評価を得ることができましたか？	0	0	0	0	0	0
⑫がん治療において、国際的な視野を持つことができるようになりましたか？	0	0	0	0	0	0
小 計	0	0	0	0	0	
合 計	0	0	1	5	1	

内訳 10) 琉球大学 (4/4)

※インターネットシゴコース生のみ

【意見・要望】 がんプロへの意見・要望等ありましたら、自由に記載下さい。	
回答者 履修コース	回 答
②地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・人数も 7 名でいろいろな症例を話し合いとても勉強になった。グループワーク形式みたいな講義で、とてもおもしろい環境だったので良かったです。また、病院のスタッフへもこのがんプロの研修会を紹介したいと思います！また、がん性疼痛の学校に合格今回の研修を活かしていきたいと思えます。 ・今回の講義を受け、エンドオブライフに対するケアの知識が高まり自分自身のスキルアップは向上できたと思う。すごく受講して良かったと感じます。ただもっと時間があればくわしく事例など聞きたい。 ・病棟で普段悩んでいることが学習できると、また、他病院で働いている同じ看護師とディスカッションができたり、情報交換の場となり緩和ケアへの興味が一層深くなりました。この様な学習の場をもっと増やしてほしいと思います。
②地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・参加しやすいよう施設へも研修として有給をとりながらできるようにすると参加者の意欲が上がるなど施設へ協力依頼をお願いしていただけたらと思います。
②地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・内容も深くケースカンファも多くて大変学びになった。多くの看護職者が参加できるようになるとよい。1 クラスは少人数 (5~8 名) だと意見交換もしやすい。
②地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・これからますます、がんの患者さんが増えエンドオブライフケアはさらに質を求められてくる時代だと思えます。だからこそ、このようなプログラムがあり、参加する人とまたそれを広める人々によってより良い看護ケアが行えるのだと実感しています。
②地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・この講義に参加して、実際に臨床で行っている事を情報共有できたので自分の実践に活かせる事を強く感じました。他病院で行っていることを知ることの良い部分もそうでない部分もよりよい医療を提供するうえで不可欠だと思えます。とても良い学びになりました。

(資料4)「九州がんプロ養成基盤推進プラン」におけるがんに特化した講座の設置状況

名称	目的	体制	総計	専任				設置年月
				教授	准教授	講師	助教	
九州大学大学院医学 研究院九州連携臨床 腫瘍学講座	プログラムの実務運営及び九州大学ならびに連携大学の講座等を担当し、他拠点や海外医療機関等と連携を行いながら、がん医療に関する指導者を養成し、継続的な人材養成基盤を構築する。	教授1名(専任)、准教授1名(専任)、講師1名(専任)、助教2名(専任)	5	1	1	1	2	平成24年10月
長崎大学大学院医歯 薬学総合研究科展開 医療科学講座臨床腫 瘍学分野	新講座設置は、本事業における大学院教育コースの運営のための基盤となるものであり、地域に貢献するがん診療における高度の能力を兼ね備えた専門医療人を育成する。	教授1名(専任)、助教1名(専任)	2	1			1	平成24年10月
鹿児島大学大学院医 歯学総合研究科臨床 腫瘍学講座	地域貢献を目指し、卓越したがん研究遂行能力とともに、本県特有の離島を含む地域医療における高度がん治療能力を兼ね備えた医療人を養成する。	教授1名(専任)、助教1名(専任)	2	1			1	平成24年10月

九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価結果

表中の各大学内部評価結果は、事前に各大学にて実施した内部評価結果です。

【回答項目】 a～dは全ての項目において、以下の通り。

a:十分に目標を達成できている b:目標を達成できている

c:あと少しで目標を達成できる d:目標を達成できていない

※各項目について目標を設定していない大学は、回答していません。

1.「がん対策基本法」「がん対策推進基本計画」に従い全グループに共通する達成目標に対する達成度

1.1「達成目標1」について

1) 各コースの受入状況

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	b	内部評価担当者 【九州大学大学院医学研究院九州連携臨床腫瘍学講座教授 馬場】 半数の大学では目標を達成しており、他も目標達成に迫っている 状況であるので、今後も各コース受入数を増してゆける様、継続 的な努力が必要である。
久留米大学	b	
産業医科大学	c	
福岡大学	a	
福岡県立大学	c	
佐賀大学	c	
長崎大学	a	
熊本大学	c	
大分大学	a	
宮崎大学	c	
鹿児島大学	a	
琉球大学	c	

2) コース履修者のがんに関する専門資格の取得者数

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	b	<p>内部評価担当者</p> <p>【九州大学大学院医学研究院九州連携臨床腫瘍学講座教授 馬場】</p> <p>コース履修者のがんに関する専門資格の取得は、九州がんプロ養成基盤推進プランの主要な目標であるため、その達成が強く望まれる。ただし本プラン履修生が専門資格の受験ができるのは、本プランの後半の時期に当たるので、今後成果があがる事が期待される。</p>
久留米大学	d	
産業医科大学	d	
福岡大学	b	
福岡県立大学	-	
佐賀大学	d	
長崎大学	d	
熊本大学	c	
大分大学	b	
宮崎大学	d	
鹿児島大学	b	
琉球大学	c	

3) コース履修者、修了者の満足度

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	b	<p>内部評価担当者</p> <p>【九州大学大学院医学研究院九州連携臨床腫瘍学講座教授 馬場】</p> <p>がんプロコースの講義や実習により、履修者の多職種連携や地域がん医療連携、基礎的・臨床的ながん研究の理解は深まっていると考えられる。国際的な視野を持ち、連携活動ができる力を身につける様、より多くの研修機会を準備する必要がある。</p>
久留米大学	b	
産業医科大学	d	
福岡大学	b	
福岡県立大学	b	
佐賀大学	c	
長崎大学	c	
熊本大学	c	
大分大学	d	
宮崎大学	b	
鹿児島大学	a	
琉球大学	c	

4) がんの特化した臓器横断的な講座の活動状況

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	a	内部評価担当者 【九州大学大学院医学研究院九州連携臨床腫瘍学講座教授 馬場】 臓器横断的な講座として、各大学内では複数の診療分野と連携したがん医療教育を行っており、本プランの中では参加大学合同の事業を企画・実施している。これらの活動の更なる発展が望まれる。一方、講座としてがんに関わる独自の研究成果も求められる。
長崎大学	b	
鹿児島大学	b	

5) 教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの実施状況

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	a	内部評価担当者 【九州大学大学院医学研究院九州連携臨床腫瘍学講座教授 馬場】 ファカルティ・ディベロップメントはまだ実施されていない大学もあり、今後積極的に機会を増やす必要があると考えられる。
久留米大学	d	
産業医科大学	a	
福岡大学	c	
福岡県立大学	b	
佐賀大学	d	
長崎大学	c	
熊本大学	b	
大分大学	d	
宮崎大学	d	
鹿児島大学	a	
琉球大学	c	

6) 今後の課題・改善点

九州がんプロ養成 基盤推進協議会	内部評価担当者 【九州大学大学院医学研究院九州連携臨床腫瘍学講座教授 馬場】 現在の履修者の継続的な教育と、今後の新たな履修者の受入れに継続的に努めてゆく事が必要と考えられる。
九州大学	概ね目標を達成しており、今後はこれまでの取組を発展・拡充させていく。
久留米大学	各コースの履修者数が少ないのが現状であり、今後、履修者の数の増加に取り組みたい。そのためには、各コースの特徴やがん診療への有用性をアピールしていく必要があると考える。また、資格の取得と教員の指導能力向上にも力を入れたい。
産業医科大学	本学のコース履修者は1年目であり、今後の教育が重要である。
福岡大学	特になし
福岡県立大学	コースの受け入れに関して、さらにPR方法などを検討
佐賀大学	今後さらに連携病院との協議を進め、履修者の受け入れを促進する。
長崎大学	大学院生は専門資格を取得するための準備段階にあり、今後、取得することが期待される。履修者は、e-learningによる単位認定の申請などで聴講の準備に時間がかかったことや、離島・僻地実習の開始が遅れたことなどが原因で、十分な満足度が得られていない。今後、在宅実習の開始を含めて、より迅速な準備と周知を行って行く。FDに関しては、九州全体のものだけでなく、自大学での開催を検討していく。
熊本大学	特になし
大分大学	コース履修者の受入れは良好である。一部では各種カンファレンスなど積極的に参加している。しかし、講演会、報告会への出席、eラーニングへのアクセスがないコース履修者も多く、今後事務局でメールなどを通じて、さらに周知していきたい。
宮崎大学	現在資格を取得するために準備を行っているコース履修者が順調に資格を取得すること。
鹿児島大学	新規大学院生3名に対して、化学療法に関する専門医資格の取得を促進させる。
琉球大学	各コース入学者の増加（特に腫瘍内科医、緩和ケア医）。

1.2「達成目標2」について

1) 医療チーム（放射線チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等）の整備数

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	c	<p>内部評価担当者</p> <p>【長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座臨床腫瘍学分野教授 芦澤】</p> <p>整備されているチーム数と各大学内部評価にギャップがみられるが、緩和ケアチームは概ね整備されている。化学療法チーム and/or 放射線療法チームが整備されていない大学が7大学ある。入院患者に対する化学療法のチーム医療や、放射線治療専門の診療放射線技師・放射線認定看護師の配置などのマンパワーが、今後の課題と考えられる。</p> <p>(取組状況の記載が異なる産業医科大学と臨床がなく該当しない福岡県立大学を外して評価)</p>
久留米大学	b	
産業医科大学	a	
福岡大学	b	
福岡県立大学	-	
佐賀大学	b	
長崎大学	c	
熊本大学	b	
大分大学	c	
宮崎大学	b	
鹿児島大学	a	
琉球大学	c	

2) キャンサーボードの新たな導入数

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	d	<p>内部評価担当者</p> <p>【長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座臨床腫瘍学分野教授 芦澤】</p> <p>キャンサーボードの整備が、がん診療連携拠点病院の指定要件であることもあり、すでに整備されており新たな導入がなされた施設はない。ただし、臓器別キャンサーボードと別に、臓器横断的キャンサーボードが開催されている施設は、数大学と推測される。</p>
久留米大学	b	
産業医科大学	b	
福岡大学	d	
福岡県立大学	-	
佐賀大学	d	
長崎大学	b	
熊本大学	c	
大分大学	c	
宮崎大学	b	
鹿児島大学	a	
琉球大学	b	

3) 医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組状況

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	a	<p>内部評価担当者</p> <p>【長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座臨床腫瘍学分野教授 芦澤】</p> <p>医療チームの質の向上のために、研修会やセミナー・症例検討会などが積極的に開催されている。また、カンサーボードに関しては、多職種参加型の開催であり、情報の共有及び診療の質の向上に取り組んでいる。各大学の内部評価の結果も高く、取組は良好と思われる。</p>
久留米大学	b	
産業医科大学	a	
福岡大学	b	
福岡県立大学	-	
佐賀大学	b	
長崎大学	c	
熊本大学	b	
大分大学	c	
宮崎大学	b	
鹿児島大学	a	
琉球大学	c	

4) コース履修者の医療チーム、カンサーボードへの参加状況

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	c	<p>内部評価担当者</p> <p>【長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座臨床腫瘍学分野教授 芦澤】</p> <p>コース履修者の参加を必修としている大学もあるようで、医療チーム（緩和ケアチーム、外来化学療法室）やカンサーボードへ積極的に参加しており、目標は比較的達成されていると思われる。</p>
久留米大学	b	
産業医科大学	b	
福岡大学	c	
福岡県立大学	-	
佐賀大学	a	
長崎大学	b	
熊本大学	c	
大分大学	d	
宮崎大学	c	
鹿児島大学	b	
琉球大学	c	

5) 院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	b	<p>内部評価担当者</p> <p>【長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座臨床腫瘍学分野教授 芦澤】</p> <p>院内がん登録は、がん診療連携拠点病院の指定要件であるため既に整備されており、各大学1,000件～4,000件弱の登録がされている。地域がん登録との連携もなされており、データ提供されている大学が多い。ただ、院内がん登録の二次利用に関しては記載のない大学もみられ、十分活用されていない可能性がある。登録のみでなく、積極的な二次利用が期待される。</p>
久留米大学	b	
産業医科大学	b	
福岡大学	b	
福岡県立大学	-	
佐賀大学	d	
長崎大学	a	
熊本大学	b	
大分大学	b	
宮崎大学	b	
鹿児島大学	c	
琉球大学	b	

6) 社会への情報発信の取組状況

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	b	<p>内部評価担当者</p> <p>【長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座臨床腫瘍学分野教授 芦澤】</p> <p>一部の大学を除いて、一般向けの講演会が最低1回は開催されており、複数回開催されている大学もみられる。本事業ホームページの更新頻度・アクセス数等に関しては、5大学で記載がみられず不詳である。社会への情報発信の取組状況としては、大学間で格差があるようで、全ての大学の積極的な取組が必要である。</p>
久留米大学	c	
産業医科大学	b	
福岡大学	b	
福岡県立大学	b	
佐賀大学	d	
長崎大学	b	
熊本大学	a	
大分大学	b	
宮崎大学	b	
鹿児島大学	b	
琉球大学	d	

7) 今後の課題・改善点

九州がんプロ養成 基盤推進協議会	内部評価担当者 【長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座臨床腫瘍学分野教授 芦澤】 各項目の内部評価欄に記載のとおり。
九州大学	コース履修者のカンサーボードへの参加が不十分であり、学生の参加を促す必要がある。
久留米大学	久留米大学には腫瘍センターが設立され、カンサーボードに関して整備がなされている状況である。今後、カンサーボードの新たな導入やさらなる質の向上に努めたい。社会への情報発信に関しては、腫瘍センターのホームページが開設されたことにより、徐々に浸透していくものと考えられる。
産業医科大学	目標を達成できている。
福岡大学	特になし
福岡県立大学	臨床がないので1)～6)の取り組みは難しい。社会への情報発信の方法を工夫していきたい。
佐賀大学	地域連携病院との間でがんプロについての情報交換を推進し、連携病院における教育とカンサーボードの拡充を図る。
長崎大学	チーム医療、特に入院患者に対する化学療法のチーム医療の実践が課題であり、今後積極的に取り組んで行く必要がある。
熊本大学	特になし
大分大学	カンサーボードは全体で14領域に分かれて実施中である。医師（履修者）のカンサーボードへの出席は良好である。しかし、医師以外の出席が不良である。今後、開催時間などを検討し、多くの医師以外の履修者が出席しやすいようにしたい。
宮崎大学	現在、院内がん登録のデータを取りまとめていることから、来年度以降そのデータを活用できるように準備して行きたい。
鹿児島大学	院内がん登録の活用を促進させる。
琉球大学	がんプロとして市民公開講座等を積極的に行う。院内がんセンターとの連携。

2.個性や特色、得意分野等に応じた「九州がんプロ養成基盤推進プラン」固有の達成目標に対する達成度

2.1「がん教育改革」について

1) 多職種連携に関するセミナーの取組

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	c	<p>内部評価担当者</p> <p>【長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座臨床腫瘍学分野教授 芦澤】</p> <p>各大学ともに多職種連携に関するセミナーを積極的に開催しており、九州がんプロ全体としての開催回数、参加者数の実績は目標を上回っている。ただ、参加大学院生数は、九州がんプロ全体では実績と目標が同数であるが、目標を下回っている大学が半数ある。今後、大学院生の参加を促すことで、多職種連携に対する意識の向上をはかる必要がある。</p>
久留米大学	-	
産業医科大学	b	
福岡大学	c	
福岡県立大学	b	
佐賀大学	d	
長崎大学	b	
熊本大学	a	
大分大学	c	
宮崎大学	b	
鹿児島大学	a	
琉球大学	d	

2) 院内合同カンファレンスの取組

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	c	<p>内部評価担当者</p> <p>【長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座臨床腫瘍学分野教授 芦澤】</p> <p>「院内合同カンファレンス」を、各臓器別がんサーボード and/or 臓器横断的がんサーボードと捉えて報告している大学が多いが、九州がんプロ全体としての開催回数、参加者数の実績は目標を大幅に上回っている。ただ、参加大学院生数は、目標を下回っている大学が4施設ある。今後、大学院生の参加を促すことが重要と考える。</p>
久留米大学	b	
産業医科大学	b	
福岡大学	a	
福岡県立大学	-	
佐賀大学	-	
長崎大学	b	
熊本大学	a	
大分大学	b	
宮崎大学	b	
鹿児島大学	a	
琉球大学	c	

3) 病理部実習の取組

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	b	<p>内部評価担当者</p> <p>【長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座臨床腫瘍学分野教授 芦澤】</p> <p>病理部実習の実施回数、参加者数に関しては、コース履修者のみの数を申告している大学とそうでない大学があるようで、評価が難しい。病理部に特化した実習を行った大学では、概ね目標が達成されていると思われる。また、「当該項目に対する目標を設定していないため、該当せず」とした大学でも、コース履修者はキャンサーボード等で病理医のコメントなどを聞いており、がん診療における病理診断の重要性の意識は向上していると推察される。</p>
久留米大学	-	
産業医科大学	c	
福岡大学	b	
福岡県立大学	-	
佐賀大学	-	
長崎大学	-	
熊本大学	-	
大分大学	b	
宮崎大学	-	
鹿児島大学	b	
琉球大学	d	

4) e-learning 講義の受講回数

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	a	<p>内部評価担当者</p> <p>【長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座臨床腫瘍学分野教授 芦澤】</p> <p>受講回数実績が目標を大きく上回った大学からゼロの大学まで認められる。e-learning 講義に関しては、単位認定や受講対象者などが大学間で異なるため、一律には評価困難であるが、e-learning の推進が九州がんプロの重要課題の一つであり、今後各大学でのさらなる推進が期待される。</p>
久留米大学	c	
産業医科大学	d	
福岡大学	c	
福岡県立大学	c	
佐賀大学	d	
長崎大学	c	
熊本大学	c	
大分大学	b	
宮崎大学	d	
鹿児島大学	b	
琉球大学	c	

5) 単位互換制度利用した大学院生数

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	-	<p>内部評価担当者</p> <p>【長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座臨床腫瘍学分野教授 芦澤】</p> <p>目標を設定した5大学全てで、実績なしの結果であった。履修大学院生の大学間交流や他大学での実習参加などが予定されているようで、大学間で締結されている単位互換制度の利用が望まれる。</p>
久留米大学	c	
産業医科大学	-	
福岡大学	-	
福岡県立大学	-	
佐賀大学	d	
長崎大学	d	
熊本大学	-	
大分大学	d	
宮崎大学	-	
鹿児島大学	-	
琉球大学	d	

6) がん診療拠点、緩和ケア専門病院との合同セミナーの取組

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	c	<p>内部評価担当者</p> <p>【長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座臨床腫瘍学分野教授 芦澤】</p> <p>各大学とものがん診療連携拠点病院との合同セミナーを積極的に開催しており、九州がんプロ全体としての開催回数、参加者数の実績は目標を上回っている。緩和ケア専門病院との合同セミナーに関しては、九州がんプロ全体の参加者数は目標を達成しているが、開催できていない大学がみられ、参加大学院生数も目標を下回っている。今後、緩和ケア専門病院との合同セミナーの開催、さらに大学院生の参加を促すことが必要と考えられる。</p>
久留米大学	b	
産業医科大学	c	
福岡大学	b	
福岡県立大学	-	
佐賀大学	c	
長崎大学	b	
熊本大学	b	
大分大学	b	
宮崎大学	a	
鹿児島大学	b	
琉球大学	d	

7) 大学院生をがん診療連携病院、緩和ケア専門病院でのリーダー的役割を担える人材として養成できているか

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	b	内部評価担当者 【長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座臨床腫瘍学分野教授 芦澤】 旧がんプロから移行した履修生がいる大学をあるが、コース履修者の多くは1年目であり、実習や研修会に参加することで、多くの知識や技術を習得し、リーダー的役割を担える人材として養成中である。今後のスタッフの指導が重要と思われる。
久留米大学	c	
産業医科大学	c	
福岡大学	b	
福岡県立大学	a	
佐賀大学	c	
長崎大学	c	
熊本大学	c	
大分大学	c	
宮崎大学	a	
鹿児島大学	b	
琉球大学	d	

8) 大学院生に対して将来の指導者としての教育が実施できているか

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	b	内部評価担当者 【長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座臨床腫瘍学分野教授 芦澤】 旧がんプロから移行した履修生がいる大学をあるが、コース履修者の多くは1年目であり、実習や研修会に参加することで、多くの知識や技術を習得し、将来の指導者となれるように養成中である。
久留米大学	c	
産業医科大学	c	
福岡大学	b	
福岡県立大学	a	
佐賀大学	c	
長崎大学	c	
熊本大学	c	
大分大学	d	
宮崎大学	b	
鹿児島大学	c	
琉球大学	c	

9) 今後の課題・改善点

九州がんプロ養成 基盤推進協議会	内部評価担当者 【長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座臨床腫瘍学分野教授 芦澤】 各項目の内部評価欄に記載のとおり。
九州大学	多職種連携に関するセミナーや、院内合同カンファレンスの大学院生の参加については、目標に対し取組が不十分であり、参加を促す必要がある。次年度以降は、特に今年度実施できていない緩和ケア専門病院との合同のセミナーの開催を模索していく。
久留米大学	院内合同カンファや緩和ケアの合同セミナーは開催されているが、将来の指導者としての教育は今後の課題と考える。
産業医科大学	キャンサーボードで病理診断に接していることを、大学院生は病理実習していると認識していないが、病理診断の重要性については理解している。 e-learning については、著作権を問題視されることが今後の課題である。
福岡大学	特になし。
福岡県立大学	e - ラーニングの受講を促す。
佐賀大学	E-Learning による講義の受講を促進するために、受講講義を指定した、単位化の取り組みを行う。多職種連携セミナーについては今年度から実施の予定であるが、予定が次週であるため、実績としては未としている。
長崎大学	e-learning 講義の受講回数が少なく、大学院生に再度周知し、聴講を促す必要がある。当大学には離島・僻地実習や在宅実習（予定）があり、他大学の大学院生を受け入れているので、単位互換制度利用していきたい。
熊本大学	特になし。
大分大学	多職種連携に関するセミナーは、「チーム医療」、「若手育成」などを行い、多くの履修生が参加した。今後、セミナー数を増やしていくことが必要と思われた。e ラーニング受講が少ないため、現在受講をうながすメールを定期的に発信している。
宮崎大学	e-learning については十分に活用できていないことから、今後学生に対して、積極的に視聴するよう薦めていきたい。
鹿児島大学	新規大学院生が1年目であり、将来の指導者としての教育が不十分である。
琉球大学	九州大学との高精度放射線治療専門研修に関する教育連携を継続発展する。

2.2「地域がん医療貢献」について

1) 地域医療機関へのがんプロ大学院生の派遣

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	-	内部評価担当者 【鹿児島大学大学院医歯学総合研究科臨床腫瘍学講座特任教授 上野】 目標20、実績13 やや目標を下回り、かつ大学間での差がみられる。 それぞれの大学で、地域医療機関への派遣が異なるカリキュラム (例：長崎大学は大学院初期より実施、鹿児島大学は4年目に半年以上赴任し経験など)であり、派遣状況には差異が生じることが は予想されてもいた。最終的な実績で判断することも必要である。
久留米大学	-	
産業医科大学	-	
福岡大学	c	
福岡県立大学	-	
佐賀大学	a	
長崎大学	b	
熊本大学	-	
大分大学	d	
宮崎大学	a	
鹿児島大学	b	
琉球大学	d	

2) 地域がん医療に関する研究論文発表数

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	-	内部評価担当者 【鹿児島大学大学院医歯学総合研究科臨床腫瘍学講座特任教授 上野】 目標10、実績9 目標に達成していない大学が多く、一層の取り組み強化が求められる。
久留米大学	d	
産業医科大学	-	
福岡大学	c	
福岡県立大学	-	
佐賀大学	d	
長崎大学	d	
熊本大学	-	
大分大学	c	
宮崎大学	d	
鹿児島大学	c	
琉球大学	d	

3) 地域医療機関、医師会、調剤薬局、薬剤師会、看護団体、患者団体等と連携した取り組み

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	-	<p>内部評価担当者 【鹿児島大学大学院医歯学総合研究科臨床腫瘍学講座特任教授 上野】 目標30、実績30 結果は目標に到達しているが、大学間のバラつきが大きい。 がん地域医療連携、パスの使用、多職種との連携等について教育のみならず、関係団体との実質的な協調も重要であることから、既存の色々な取り組み等も活用しながら、がんプロとしても関わりを促進する必要がある。</p>
久留米大学	d	
産業医科大学	-	
福岡大学	d	
福岡県立大学	-	
佐賀大学	a	
長崎大学	c	
熊本大学	b	
大分大学	b	
宮崎大学	c	
鹿児島大学	-	
琉球大学	c	

4) 地域医療機関又は患者から、がんプロ大学院生に対して、高い満足度、評価を得ることができているか

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	-	<p>内部評価担当者 【鹿児島大学大学院医歯学総合研究科臨床腫瘍学講座特任教授 上野】 項目2.2 1)とも関係するが、基本的カリキュラムの中で、地域実習として地域医療機関へのがんプロ大学院生派遣が始まっていない施設もあるので、その評価が十分にはなされない可能性がある。すでに派遣経験のある佐賀、長崎、宮崎大学などではその貢献度が高く評価されている。</p>
久留米大学	d	
産業医科大学	-	
福岡大学	-	
福岡県立大学	-	
佐賀大学	a	
長崎大学	b	
熊本大学	c	
大分大学	b	
宮崎大学	b	
鹿児島大学	-	
琉球大学	d	

5) 地域医療機関との合同のセミナーの取組

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	-	内部評価担当者 【鹿児島大学大学院医歯学総合研究科臨床腫瘍学講座特任教授 上野】 各大学ともに目標値に対して、セミナー回数や参加者数では十分な取り組み状況にあると考えられる。 一方、全体的に大学院生参加が不十分な施設があり、がんプロ全体の目標値には到達していない。大学院生参加に関して、久留米、佐賀大学は取り組み強化が求められ、また熊本大学は実績はあるものの目標値より大きく下回っており、目標設定の再考も必要かもしれない。
久留米大学	b	
産業医科大学	-	
福岡大学	b	
福岡県立大学	-	
佐賀大学	d	
長崎大学	c	
熊本大学	b	
大分大学	a	
宮崎大学	a	
鹿児島大学	a	
琉球大学	d	

6) 大学院生を僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備えた医療人として養成できているか

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	-	内部評価担当者 【鹿児島大学大学院医歯学総合研究科臨床腫瘍学講座特任教授 上野】 参加大学の多くの大学院コースは1年目であり、しかも開始1~6ヶ月の施設もあることから、十分な評価期間が得られていないと思われる。次年度以降の評価が重要である。
久留米大学	d	
産業医科大学	-	
福岡大学	a	
福岡県立大学	-	
佐賀大学	a	
長崎大学	c	
熊本大学	c	
大分大学	d	
宮崎大学	d	
鹿児島大学	b	
琉球大学	d	

7) 地域医療機関との合同のカンファレンスの取組

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	-	内部評価担当者 【鹿児島大学大学院医歯学総合研究科臨床腫瘍学講座特任教授 上野】 目標値よりも非常に多くの合同カンファレンスの取り組みが伺える。参加大学院生数も目標値を大幅に上回った施設が多い。一部の大学では大学院生参加の取り組み強化が必要である。
久留米大学	b	
産業医科大学	-	
福岡大学	c	
福岡県立大学	-	
佐賀大学	a	
長崎大学	b	
熊本大学	-	
大分大学	a	
宮崎大学	a	
鹿児島大学	b	
琉球大学	d	

8) 地域卒業生のがんプロ大学院入学生数

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	-	内部評価担当者 【鹿児島大学大学院医歯学総合研究科臨床腫瘍学講座特任教授 上野】 目標10、実績0 本項目は目標値を下回り、かつ実績が得られなかった。しかしながら、各大学の地域卒業生1期目は本年度やっど後期研修に入る場合が多く、かつ人数も少ない（数年後に大幅増加）。また勤務義務年限との関係もあるので、全期間を通しての入学者数確保を図るべきと考えられる。
久留米大学	d	
産業医科大学	-	
福岡大学	d	
福岡県立大学	-	
佐賀大学	-	
長崎大学	d	
熊本大学	-	
大分大学	d	
宮崎大学	-	
鹿児島大学	d	
琉球大学	d	

9) 今後の課題・改善点

九州がんプロ養成 基盤推進協議会	<p>内部評価担当者</p> <p>【鹿児島大学大学院医歯学総合研究科臨床腫瘍学講座特任教授 上野】</p> <p>地域とのカンファレンスやセミナーの実施状況は目標値を大幅に上回り、地域貢献が図られたことは評価できる。一方、がんプロ大学院コースとしては、実質開設1年目の場合が多く、大学院生の地域派遣状況や地域からの評価は十分ではなかった。今後、①地域とのセミナー等に積極的に大学院生を参加させる。②地域がん医療に関する論文作成、③徐々に大学院生の地域実習の機会や貢献度を増やし、その評価を得ることが望まれる。</p>
九州大学	※「地域がん医療貢献」に対する目標を設定していないため、該当せず。
久留米大学	地域がん医療に関する連携や業績は今後の課題である。
産業医科大学	※「地域がん医療貢献」に対する目標を設定していないため、該当せず。
福岡大学	特になし
福岡県立大学	※「地域がん医療貢献」に対する目標を設定していないため、該当せず。
佐賀大学	まずは受講学生のリクルートによる、事業規模の拡大が重要である。
長崎大学	"地域医療機関へのがんプロ大学院生の派遣は、離島・僻地実習を含めて行われているが、在宅実習も開始予定である。地域医療機関等との合同のセミナーを含めて、さらなる取り組みを行う必要がある。地域がん医療に関する研究論文発表を行うよう努力する。
熊本大学	特になし
大分大学	看護系は、学内・学外ともセミナー、カンファレンスのほとんど目標を達成している。一方医系での活動が一部に限られており、今後さらに広げていきたい。
宮崎大学	現在、大学院生1名が研究論文の準備中である。また、がん看護を履修している学生4名が来年修了年度を迎えることから、本コース履修生の研究成果の取りまとめや発表に向けて、指導していきたい。
鹿児島大学	<p>地域がん医療に関する論文発表を行うよう努力する。</p> <p>地域卒学生の1回生が研修医を終了したばかりであり、がんプロ大学院への入学者はなかった。今後、この大学院コースへの入学を啓発する。</p>
琉球大学	県医師会総会での学生の研究成果発表

2.3「がん研究」について

1) 大学院生の臨床研究、臨床試験の取組

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	c	内部評価担当者 【九州大学大学院医学研究院九州連携臨床腫瘍学講座教授 馬場】 各大学で履修生が臨床研究、臨床試験に取り組んでおり、おおむね目標が達成できている。今後これらの成果を学会、論文等で報告することが期待される。
久留米大学	b	
産業医科大学	-	
福岡大学	b	
福岡県立大学	-	
佐賀大学	b	
長崎大学	c	
熊本大学	-	
大分大学	b	
宮崎大学	a	
鹿児島大学	a	
琉球大学	b	

2) 大学院生による国際学会での発表

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	c	内部評価担当者 【九州大学大学院医学研究院九州連携臨床腫瘍学講座教授 馬場】 現時点での国際学会での発表数は目標を下回っているが、履修生の臨床・基礎研究は継続中であり、今後発表の機会は増すと予想される。研究成果を国内学会のみならず、積極的に国際学会で報告する事が望まれる。
久留米大学	d	
産業医科大学	-	
福岡大学	-	
福岡県立大学	-	
佐賀大学	-	
長崎大学	b	
熊本大学	d	
大分大学	c	
宮崎大学	d	
鹿児島大学	b	
琉球大学	b	

3) 海外の研究機関への研修派遣

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	a	内部評価担当者 【九州大学大学院医学研究院九州連携臨床腫瘍学講座教授 馬場】 九州がんプロとしての履修生の海外研修の機会は本年度までで1回のみであり、全体としても目標数に達していない。今後も様々な形で、海外研修が可能となるよう努める必要がある。
久留米大学	d	
産業医科大学	-	
福岡大学	-	
福岡県立大学	-	
佐賀大学	-	
長崎大学	b	
熊本大学	-	
大分大学	d	
宮崎大学	d	
鹿児島大学	c	
琉球大学	d	

4) 大学院生を英語で議論できるまでに指導できたか

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	b	内部評価担当者 【九州大学大学院医学研究院九州連携臨床腫瘍学講座教授 馬場】 多くの大学において、英語での講義、国際学会発表と質疑応答、海外派遣研修、論文作成などを通じて英語でのコミュニケーション能力の向上に努めており、一定の成果が上がっている。
久留米大学	b	
産業医科大学	c	
福岡大学	d	
福岡県立大学	d	
佐賀大学	d	
長崎大学	c	
熊本大学	c	
大分大学	b	
宮崎大学	c	
鹿児島大学	c	
琉球大学	d	

5) 今後の課題・改善点

九州がんプロ養成 基盤推進協議会	内部評価担当者 【九州大学大学院医学研究院九州連携臨床腫瘍学講座教授 馬場】 履修生の臨床・基礎研究は各大学で推進されている。これらの成果を国際学会などで報告し、議論してゆく機会を積極的に増やすことが望まれる。
九州大学	目標には達していない項目もあるが、国際学会の発表や海外の医療機関への訪問研修の参加等、大学院生が国際的な経験を積めるよう促しており、一定の成果があった。今後はさらにこれらの機会を大学院生に提供していく必要がある。
久留米大学	現在、在籍している大学院生は英文論文を発表しているが、国際学会や国外への研修に関しては今後の課題と考える。
産業医科大学	コース履修者は1年目であり、研究テーマを指導教員と検討しているところである。
福岡大学	特になし
福岡県立大学	海外の情報等を積極的にリサーチしていきたい。
佐賀大学	がん研究への取り組みについては臨床教育とのバランスを取りながら推進する。
長崎大学	今後、大学院生の臨床研究、臨床試験の取組が課題である。また、英語で議論できるように語学力アップの努力が必要である。
熊本大学	特になし
大分大学	今後研究成果をまとめ、国際学会で発表を行いたい。その後、海外への派遣も考えたい。
宮崎大学	本コース履修生が積極的に海外の学会で発表を行ったり、海外研究機関における研修希望があった際に、サポートができるようにしていきたい。
鹿児島大学	大学院生は学会発表程度の英語力までは到達しているが、議論できるまでに指導する必要がある。
琉球大学	海外の研究機関への研修派遣にかかる本事業からの予算措置は困難である。

3.本年度の目標に対する達成度

大学名	各大学 内部評価結果	九州がんプロ養成基盤推進協議会 内部評価
九州大学	c	内部評価担当者 【九州大学大学院医学研究院九州連携臨床腫瘍学講座教授 馬場】 各大学とも一部に目標が達成できていない項目があるため、概して厳しい内部評価結果となった。個別の問題点に対応してゆく事で、本プランの目指す人材育成がより充実することが望まれる。
久留米大学	c	
産業医科大学	c	
福岡大学	b	
福岡県立大学	c	
佐賀大学	c	
長崎大学	c	
熊本大学	c	
大分大学	c	
宮崎大学	b	
鹿児島大学	b	
琉球大学	c	

4.総括

九州がんプロ養成 基盤推進協議会	<p>内部評価担当者</p> <p>【九州大学大学院医学研究院九州連携臨床腫瘍学講座教授 馬場】</p> <p>平成 24 年度からの九州がんプロ養成基盤推進プラン全体の活動を振り返ると、履修生の確保と、九州がんプロ独自の研修の実施、の 2 点について難しさがあった。将来のがん医療のリーダーとなる九州がんプロの履修生を多く得るには、魅力的なコースを実施し、それを広く周知する必要がある。また九州がんプロ独自の研修として、地域連携、多職種連携や国際連携の知識と経験を得るための講義、実習が計画されたが、新たな取組であるため円滑な運営には至っていない。この 2 点を改善してゆくことで、九州がんプロプランが掲げる人材育成の目標に近づいてゆけると考える。九州がんプロ協議会としても、各大学の活動の助けとなる事業をこれまで以上に実施することが望まれる。</p>
九州大学	<p>取組が不十分なものもあるが、成果があがってきているものもある。次年度以降は、今年度取組が不十分であったものについては、改善し、成果があったものについては、目標を達成できるように発展・拡充させていく。また、各大学とも連携をさらに強化し、取組が不十分なものについて相互に補完し合えるように検討していく。</p>
久留米大学	<p>平成 25 年度はがんプロの新規入学がなかったため、大学院生の数が少なく、積極的な活動ができなかったのが実状である。平成 26 年度には 2 名の博士課程希望者があり、今後、さらに大学院生の入学者数を増やし、目標達成のために努力していきたい。</p>
産業医科大学	<p>キャンサーボードは充実しており、教員の知識向上や指導力向上には効果があるが、研究テーマを模索している 1 年目のコース履修者には活用できていない。しかし、今後、研究テーマが決まり、目標を持って経験を積むことで、指導力やリーダー的役割を担えるようになると考えている。</p>
福岡大学	<p>特になし。</p>
福岡県立大学	<p>大学組織内の連携を強化する。文書等を入念にチェックすると共に情報交換を密に行い、効率的かつ効果的な事業の実施につなげていく。</p>
佐賀大学	<p>リハビリセミナーなどの取り組みが準備の関係で 2 月末にずれている。今後、地域の連携病院との協議による取り組み強化が重要である。</p>
長崎大学	<p>本事業が開始されて 2 年目、準備期間を除くと実質 1 年目であるため、十分に目標を達成できていない項目もみられるが、全般的にはすでに目標を達成できている項目も少なくない。今後は、目標を達成できている項目は継続し、未達成の項目に焦点をおいてさらなる取組を行っていく必要がある。</p>
熊本大学	<p>特になし。</p>

大分大学	来年度は、今回の評価で c, d と評価した項目を重点的に改善していきたい。
宮崎大学	本学のがんプロフェッショナル養成基盤推進プランにおける取り組み状況としては、全体的にはおおむね達成できていると思うが、個々の部分についてはまだ不十分な点があることから、今後、目標が達成できるよう努力して行きたい。
鹿児島大学	おおむね各コースの取組状況は良好であり、またセミナーの実施、院内・院外との合同カンファレンスなども予定以上に実施された。今後も、大学院生のがん診療におけるリーダーとしての教育や国際的視野に関する教育を促進する必要がある。
琉球大学	<p>達成目標 1 に関してはまだ十分ではないが一定の成果をあげる事ができた。</p> <p>達成目標 2 に関しては、今後更に学生の臨床現場への参加を促す必要がある。</p> <p>また、院内がんセンターとの教育における連携を更に強化する必要がある。</p> <p>教育に関しては、九州大学の高度先端放射線治療医養成コースとの大学間連携教育プログラムを 2 回実施することができた。次年度も継続発展させたい。</p> <p>地域がん医療貢献に関しては、余十分な成果をあげる事ができなかった。</p> <p>今後可能な領域から進めていく必要がある。がん研究に関しては、大学院生の学会発表、論文発表が行われ一定の成果をあげる事ができた。</p> <p>多施設臨床試験にも関与させることができた。</p> <p>今後は海外への出張の可否を検討していく。</p>

九州がんプロ養成基盤推進プラン 外部評価結果

表中の外部評価結果は、「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン達成目標・評価指標」に対する「九州がんプロ養成基盤推進プラン」の取組状況等の資料を参考に、外部評価委員が実施した外部評価結果です。

【外部評価委員】・南 博信 教授（神戸大学大学院医学研究科 腫瘍内科学分野）

・千堂 年昭 教授（岡山大学病院 薬剤部）

・鈴木 志津枝 教授（神戸市看護大学 学長）

【回答項目】 a～e は全ての項目において、以下の通り

a:優れている b:やや優れている c:普通 d:やや劣っている e:劣っている

1.「がん対策基本法」「がん対策推進基本計画」に従い全グループに共通する達成目標に対する達成度

1.1「達成目標1」について

設問	南教授	千堂教授	鈴木教授
1) 各コースの受入状況	b	b	b
2) コース履修者のがんに関する専門資格の取得者数	c	c	c
3) コース履修者、修了者の満足度	b	b	b
4) がんに特化した臓器横断的な講座の活動状況	b	b	a
5) 教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの実施状況	b	c	c

ご意見・ご提案があれば自由にご記入下さい。

南教授	<p>大学院生の数や、とりくみに大学により差があるようである。本プロジェクトに参加するすべての大学が積極的に取り組むことを期待したい。また、医師の専門資格としては、がん薬物療法専門医、放射線治療専門医の取得数で評価すべきであるが、本プロジェクトの大学院生によるこれらの資格取得を評価するには次期尚早である。旧プロジェクトの成果と合わせて総合的に評価していきたい。</p> <p>がんに特化した臓器横断的な講座が3大学に設置されたことは評価できるが、がんの治療医を育成するすべての大学に設置されるべきである。大学の規模などから困難な大学もあると思われるが、今後の努力に期待したい。</p>
-----	---

千堂教授	概ね、目標は達成されていると思われます。今後、本養成プランの実績アピール（国内外のがんの教育・研究をリードする指導者養成）を通して大学院生の入学者数が増えていくことを期待します。専門資格の取得者数は次回の評価の際、ポイントになるかと思います。
鈴木教授	<p>1) 大学間で受け入れ状況に差があるので、目標達成できなかった大学は、目標達成に向けて努力していただきたい。</p> <p>2) 今回のがんプロ養成基盤推進プランが始まって2年間なので、今後の成果を期待しています。</p> <p>3) コース履修者が概ね、満足度に関して「ややそう思う」「そう思う」と回答していますが、⑤⑧⑩⑪の項目に関して、今後の改善を望みます。各大学の配布数が少ない大学や回収率の悪い大学もあります。効果的な評価に向けて、方法の工夫していただきたいと思います。</p> <p>4) 3大学にがんに特化した臓器横断的な講座を設置され、目標達成に向けて積極的に活動されていると思います。</p> <p>5) 各大学で実施状況に差が大きいため、改善策を検討していただきたいと思います。</p>

1.2「達成目標2」について

設問	南教授	千堂教授	鈴木教授
1) 医療チーム（放射線チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等）の整備数	c	c	b
2) キャンサーボードの新たな導入数	a	d	c
3) 医療チーム、キャンサーボードの質の向上のための取組状況	b	c	a
4) コース履修者の医療チーム、キャンサーボードへの参加状況	b	c	b
5) 院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績	a	b	b
6) 社会への情報発信の取組状況	b	c	b

ご意見・ご提案があれば自由にご記入下さい。

南教授	<p>がんセンターボードはすでに設置しているはずであり、新たな導入の評価は難しい。外科治療、薬物療法、放射線治療を専門とする各診療科の合同カンファレンスを開催し、その質を向上させることが重要である。恐らく臓器別のカンファレンスが中心と思われるが、がんを扱うすべての診療科によるカンファレンスにより相互評価を行うなど、質の向上のための具体的な取り組みが重要と思われる。</p>
千堂教授	<p>がんセンターボードでは全施設において多職種による包括的な議論ができる環境整備が望まれる。</p>
鈴木教授	<p>1) 緩和ケアチームは概ね整備されていますが、整備されていない大学に関しては、化学療法チームや放射線療法チームの整備も進めていただきたいと 思います。 2) 新たながんセンターボードの導入がない大学は、十分に導入されているため導入がなかったのか、導入が必要にもかかわらず導入されなかったのかが不明確なため、評価が難しい。 3) 各大学の医療チームやがんセンターボードが質向上のために様々な取り組みをされている状況は理解できます。今後、質向上の成果の可視化を期待します。 6) 情報発信の取り組みに関して、実績のない大学は次年度に向けて改善していただきたい。</p>

2.個性や特色、得意分野等に応じた「九州がんプロ養成基盤推進プラン」固有の達成目標に対する達成度

2.1「がん教育改革」について

設問	南教授	千堂教授	鈴木教授
1) 多職種連携に関するセミナーの取組	b	b	a
2) 院内合同カンファレンスの取組	b	b	b
3) 病理部実習の取組	b	c	b
4) e-learning 講義の受講回数	b	c	c
5) 単位互換制度利用した大学院生数	c	d	d
6) がん診療拠点、緩和ケア専門病院との合同セミナーの取組	a	c	b
7) 大学院生をがん診療連携病院、緩和ケア専門病院でのリーダー的役割を担える人材として養成できているか	b	c	c
8) 大学院生に対して将来の指導者としての教育が実施できているか	b	c	b

ご意見・ご提案があれば自由にご記入下さい。

南教授	まだ大学院生を受け入れたばかりのためもあり単位互換制度の実績はないが、地理的に離れた大学において単位互換制度をどのように行うのか、そのメリット・デメリットをよく考慮して、具体的な方策がみえないため、評価困難である。
千堂教授	多職種連携によるセミナーは開催回数、参加者数とも目標を上回っていることは評価できる。今後、大学院生の参加しやすい開催日時の配慮が望まれる。第1回九州がんプロ全体研修会は将来を担う人材育成や九州内のがん医療連携の推進に向けての素晴らしい企画である。定期的な開催を是非とも期待したい。eラーニングシステムの普及にはクリアすべき課題等もあるが九州全域一律で高度な教育を実践する上でさらに努力していただきたい。
鈴木教授	1) 2) がんプロ全体として積極的に取り組まれていると思います。しかし、目標設定していない大学もありますが、重要な取り組みだと思しますので、目標設定を検討していただきたい。 3) 大学によって目標の設定が異なっていますが、設定されている大学は概ね目標を達ししています。 4) e-learning は九州がんプロとして積極的に取り組まれていますので、受講回数の実績がゼロの大学は受講を進めていくような工夫をしていただきたい。 5) 単位互換制度を利用した院生がゼロなので、今後、どのように活用していくかを検討していただきたい。 6) 緩和ケア専門病院との合同セミナーの開催に関して、さらに努力をしていただきたい。 7) 8) 人材育成に努力されていることは理解できますが、現時点で評価することは難しい。

2.2「地域がん医療貢献」について

設問	南教授	千堂教授	鈴木教授
1) 地域医療機関へのがんプロ大学院生の派遣	b	c	c
2) 地域がん医療に関する研究論文発表数	c	d	c
3) 地域医療機関、医師会、調剤薬局、薬剤師会、看護団体、患者団体等と連携した取り組み	b	c	c
4) 地域医療機関又は患者から、がんプロ大学院生に対して、高い満足度、評価を得ることができているか	b	c	b

5) 地域医療機関との合同のセミナーの取組	b	c	c
6) 大学院生を僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備えた	c	c	b
7) 地域医療機関との合同のカンファレンスの取組	a	b	b
8) 地域卒業生のがんプロ大学院入学生数	c	e	d

ご意見・ご提案があれば自由にご記入下さい。

南教授	<p>地域医療機関への派遣は実務をさせるために派遣しているのか、実習であるのかが分からない。本来は実習であるべきであるが、地域の医療機関で何を学ばせ、どのように評価するかを明確にすることが望まれる。また、地域がん医療に関する研究論文を評価指標としているが、論文のリストがないと地域がん医療に関するものかどうか評価できない。必ずしも地域医療に関するものでなくてもがんに関する論文であれば評価して良いように思われ、指標を再考することも検討したらいかがか。また、研究業績を評価するには時期尚早である。</p>
千堂教授	<p>「地域がん医療貢献」は長期的な視野での取り組みが必要であるが、各大学での特徴を生かして可能などころから推進して欲しい。</p>
鈴木教授	<p>1) 4) 目標設定している大学が少ないので、継続することで成果を上げていただきたいと思います。</p> <p>2) 目標を達成できなかった大学が8校ありますので、研究成果をあげるための工夫と努力を行っていただきたい。</p> <p>3) 5) 成果を上げている大学もありますが、目標を達成できていない大学は、次年度に向けて成果を上げていただきたいと思います。</p> <p>6) 人材育成に努力されていることは理解できますが、現時点で評価することは難しいと思います。</p> <p>7) 地道に地域医療機関との合同カンファレンスをされていると思います。</p> <p>8) 今後に期待します。</p>

2.3「がん研究」について

設問	南教授	千堂教授	鈴木教授
1) 大学院生の臨床研究、臨床試験の取組	b	b	b
2) 大学院生による国際学会での発表	c	c	c
3) 海外の研究機関への研修派遣	c	d	c
4) 大学院生を英語で議論できるまでに指導できたか	b	c	c

ご意見・ご提案があれば自由にご記入下さい。

南教授	大学院生の研究業績を評価する時期ではないが、臨床研究への参加実績はあがっているようで、今後の成果を期待したい。
千堂教授	臨床研究・臨床試験はがん専門医療人やがん研究者には必須であり、積極的に取り組んでいることは評価できる。研究成果の国内外への情報発信は継続中のものが多いと思われるので次回に期待したい。
鈴木教授	1) 実施回数に関しては、大学間で実績に差がありますが概ね目標は達成できていると思います。しかし、大学院生の参加件数に関しては検討が必要と思います。 2) ～4) 成果が上がってきている大学もありますが、実績を上げる工夫をしてください。

3.総合評価

設問	南教授	千堂教授	鈴木教授
総合評価	b	c	b

4.総括

南教授	<p>研究に主眼を置いた大学、がん医療に携わる医療人を育成することを目指す大学など、それぞれの大学の特徴がでているプロジェクトである。一定の成果はあがっていると判断できるが、大学によって活動のレベルに差がみられるようである。</p> <p>がんの薬物療法、放射線治療は臓器別に行われるべきではなく、臓器横断的に行われるべきである。その意味で、がんの特化した臓器横断的な講座が3大学に設置されたことは評価できる。今後のがん医療における薬物療法および放射線療法の役割はますます大きくなるため、がんの治療医を育成する意思のあるすべての大学にがんの特化した臓器横断的な講座が設置されるべきであり、容易なことではないが努力を期待したい。</p> <p>本年度から大学院生を受け入れた大学がほとんどで、大学院生の研究報告や専門資格の取得数などを評価する段階ではない。大学院生が臨床研究へ参画しており、今後の研究業績を待ちたい。医師の専門資格は、がん薬物療法専門医、放射線治療専門医の取得数で評価すべきであり、本プロジェクト終了時にはこれらの資格を取得した医師が地域で活躍することを期待したい。</p> <p>教員と学生が海外研修に行くなど、Faculty development とともに国際的な視野をもつ人材を育成しようとしている点は高く評価できる。</p> <p>全体としては順調に活動していると思われる。今後は大学による差をなくし、いずれの大学でもがん医療人を育成できる体制を整備することが望まれる。</p>
-----	---

千堂教授	<p>九州大学大学院に新設された「九州連携臨床腫瘍学講座」を中心に九州 12 大学が参加している広域養成プランですが、国際的な視野を持った指導者や優れたがん専門医療人の養成に向けて、充実した計画に基づいて着実に運営されていることに敬意を表します。また、九州内に地域貢献を目的として九州北部・南部に拠点を設置し、医師不足地域での研修ならびにがん在宅医療研修等の実践は今後全国モデルとなる取り組みだと思います。養成事業の基盤は九州全域一律で高度な教育を受講することができる e-learning システムの開発と推進であると考えます。今後、最重点事項として継続的な推進を望みたい。また、養成プランは履修生を募る活動も重要であり、魅力的なコースの企画、参加しやすい開催日時、そして広報等の強化等の取り組みを図って欲しい。第 1 回九州がんプロ全体研修会は将来を担う人材育成や九州内のがん医療連携の推進に向けての素晴らしい企画だと思います。定期的な開催を望みます。</p> <p>「がんプロ養成基盤推進プラン」はメディカル、コメディカルを含む多職種のがん専門職養成のためのコースワークであります。各大学において「チーム医療の実践」を旗印に教育効果を上げていることは他地区の参考になるところです。将来的には、がんに関わる多職種専門職がキャンサーボード等をおして有機的に連携し、チームとしてがん診療ならびに研究にあたることのできるような教育体制の継続を望みます。</p> <p>本事業により構築された養成教育システムの継続的発展を祈念いたします。</p>
------	---

鈴木教授	<p>各評価項目に関して、九州がんプロ全体として熱心に取り組まれ、成果をあげてこられていると思います。特に、「がんの特化した臓器横断的な講座の活動」や「医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組」、「他職種連携に関するセミナーの取組」は業績をあげられていると思います。</p> <p>一方、「教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの実施状況」や「e-learning 講義の受講回数」、「地域医療貢献」、「がん研究」に関しては、目標達成のためにさらに力を発揮していただきたいと思います。</p> <p>がん看護専門看護師の人材育成のコースを設置している大学は7大学ですが、2014年1月現在、九州・沖縄で勤務する「がん看護専門看護師」は46名と増えてきていますが、県別のがん看護専門看護師数に地域格差があるため、地域格差を少なくしていけるように尽力していただきたいと思います。</p>
------	---

(参考資料) 教育コースの特色等

大学名等	九州大学大学院医学系学府医学専攻		
コースの名称	高度先端臨床腫瘍学コース		
コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	臨床腫瘍学
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限(期間)	4年
コースの履修対象者	医学系学府医学専攻 大学院生		
養成する人材像	がん医療におけるアジアを中心とした海外との連携を推進し、国内のがんの教育・研究をリードする指導者又は九州内のがん医療の均てん化を推進するリーダー。		
当該人材養成により期待される成果や効果(アウトカム)	<ul style="list-style-type: none"> ・がん専門医やがん研究者を養成する指導者の養成。 ・国際的視野を持つ専門医によるがんの新しい治療方法の開発。 ・がん医療に関するアジアとの連携体制の構築。 		
教育内容の特色等	アジアと隣接する地域の特色を生かして、アジアを中心とした海外の大学、学会へ学生を派遣し、国際的な視野を持った指導者を養成する。また、海外の学生を含めた多職種・連携大学合同カンファレンスをカリキュラムに組み込み、臨床現場等におけるリーダーを養成する。		

大学名等	九州大学大学院医学系学府医学専攻		
コースの名称	高度先端がん放射線治療医師養成コース		
コースの重点区分	③研究者	養成する専門分野	放射線治療医
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限(期間)	4年
コースの履修対象者	医学系学府医学専攻 大学院生		
養成する人材像	がん専門医としての基本的な素養を持ち、高精度放射線治療や重粒子線治療といった最先端の放射線治療の知識や経験をも兼ね備えがん放射線治療の教育・研究をリードする指導者として国際的にも活躍できる放射線治療医師。		
当該人材養成により期待される成果や効果(アウトカム)	単に放射線治療専門医の資格を持った人材の育成ではなく、高精度放射線治療(定位照射・強度変調放射線治療等)及び重粒子線治療といった高度先端的な放射線治療をも習得し、放射線腫瘍学領域の更なる発展にも寄与できる指導的立場の専門医の養成が可能。		
教育内容の特色等	系統的・標準的な放射線治療の講義や実習だけでなく、高精度X線治療や重粒子線治療といった先端放射線治療分野の実習及び研究を大学・専門医療機関との連携や国際学会派遣を通じて実施する。		

大学名等	九州大学大学院薬学府臨床薬学専攻博士課程		
コースの名称	がん研究薬剤師コース博士課程		
コースの重点区分	③研究者	養成する専門分野	がん研究薬剤師
コースの開始時期	平成24年4月	修業年限(期間)	4年
コースの履修対象者	薬学府臨床薬学専攻博士課程 大学院生		

養成する人材像	がん領域における創薬から育薬までを担う研究者及び指導者を養成する。
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	医療現場・企業のがん領域で即戦力となる研究者及び指導者を養成できる。それによりがん領域における医療の質の向上や産業・経済の発展に貢献できる。
教育内容の特色等	平成24年度設置の薬学府臨床薬学専攻博士課程（4年間）においてがんの基礎・臨床に関する研究，講義，演習及び実習を行う。

大学名等	九州大学大学院医学系学府保健学専攻		
コースの名称	がん看護研究者養成コース博士後期課程		
コースの重点区分	③研究者	養成する専門分野	がん看護研究分野
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	3年
コースの履修対象者	九州大学大学院医学系学府保健学専攻 大学院生		
養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・がん看護の国際的な研究を推進できる研究者 ・先端医療に対応できるがん看護の研究者 ・臨床で高度ながん看護を実践する人材育成のための教育研究者 		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的研究の取り組みによるがん看護に関する最新のケアや情報の提供。 ・グローバルな視点からがん治療に伴う問題や課題をとらえ，起こりうる問題に迅速かつ適切に対応する新しい看護ケア法の開発。 ・高度な知識技術を備えた指導的ながん看護実践家の育成。 		
教育内容の特色等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際研修や派遣を基盤として国際基準の測定尺度を活用した研究を行い，がん看護ケア研究のグローバル化と一般化を図る研究方法を身につける。 ・がん専門看護師修士課程での教育を基盤にし，がん看護の研究を通して，高度な知識技術を身につける。 		

大学名等	九州大学大学院医学系学府保健学専攻		
コースの名称	医学物理士養成コース博士後期課程		
コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	医学物理学
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	3年
コースの履修対象者	医学系学府保健学専攻 大学院生		
養成する人材像	臨床現場で指導的役割を果たす医学物理士を養成する。また，医学物理の研究者として，自立し独創的研究活動を行い，かつ高度に専門的な業務に従事するために必要な柔軟な問題解決能力及びその基礎となる豊かな学識とグローバルな視野を持つ人材を養成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	<ul style="list-style-type: none"> ・放射線治療，診断，核医学において高度な理工学的知識を有し医学物理士として指導的立場で臨床業務に従事することができる。 ・医学物理における多様な知識創造活動が進み，先進的な医学物理学の学問体系の構築に寄与できる。 ・放射線治療と診断に関する医学物理領域において国際競争力のある最先端 <ul style="list-style-type: none"> ・次世代の医療機器の開発が期待される。 ・アジアを中心として，世界レベルで活躍できる国際感覚にすぐれた医学物理士，及び医学物理研究者を養成できる。 		

教育内容の特色等	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床における医学物理に関する問題を実践的に研究する。医学物理士認定に必要とされる2年間の臨床研修を必修とする。 ・保健学系に限らず工学・理学系出身者にも医学物理教育を提供する。 ・がんプロ全国e-learningクラウドによりコンテンツの相互利用ならびに単位認定を行う。 ・留学生も積極的に受け入れ、英語による医学物理教育を行う。
----------	---

大学名等	九州大学大学院医学系学府保健学専攻		
コースの名称	がん専門臨床検査技師コース博士後期課程		
コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	病理細胞学
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	3年
コースの履修対象者	大学院医学系学府保健学専攻 大学院生		
養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床現場での指導者及び研究教育者。 ・国際的に活躍できる人材の育成。 		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	<ul style="list-style-type: none"> ・がん研究に対する形態検査領域における新しい方法の開発。 ・がんの早期発見に有用な検査法の開発。 		
教育内容の特色等	・修士課程での教育を基礎として、がん細胞に対する実践的な研究を行っていく。		

大学名等	久留米大学大学院医学研究科個別最適医療系専攻博士課程		
コースの名称	博士課程先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット ①「化学薬物療法専門医養成コース」 ②「放射線療法専門医養成コース」 ③「緩和医療専門医養成コース」		
コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	① がん薬物治療 ② 放射線治療 ③ 緩和医療
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年
コースの履修対象者	医学研究科博士課程個別最適医療系専攻 大学院生		
養成する人材像	がん医療の各専門分野において、治療・研究のプロフェッショナルとして社会に貢献できる人材を養成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	<ul style="list-style-type: none"> ・日々進展する医学やがん治療のニーズに対応できるがん治療専門医師の輩出。 ・がんプロ全国e-learningクラウドなどを利用することによる学習の効率化。 		
教育内容の特色等	がんプロ全国e-learningクラウドによる単位認定や連携大学間での単位互換などを教育手法として導入するとともに、重粒子線治療、肝癌治療及び癌ワクチン療法に関する教育に取り組む。		

大学名等	久留米大学大学院医学研究科医科学専攻修士課程		
コースの名称	修士課程「がん看護専門看護師教育課程」		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん看護専門看護師
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	2年
コースの履修対象者	医学研究科修士課程医科学専攻 大学院生		
養成する人材像	地域及び施設におけるがんの予防から終末期の緩和ケアまでの過程で、患者とその家族のニーズに応えられる高度実践能力を備えた看護師。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	従来の看護ケアに加え、高度な知識や技術に基づいた治療を行い、チーム医療の一役を担って協働することができる看護師の輩出。		
教育内容の特色等	地域医療機関及び施設と連携し、がんの在宅療養者及び家族への訪問看護演習を行うなかで看護援助及びがん看護専門看護師が果たす役割について探求する。		

大学名等	久留米大学大学院医学研究科個別最適医療系専攻博士課程		
コースの名称	先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット ①「化学薬物療法専門医養成コース（インテンシブ）」 ②「放射線療法専門医養成コース（インテンシブ）」 ③「緩和医療専門医養成コース（インテンシブ）」		
コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	①がん薬物治療 ②放射線治療 ③緩和医療
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	1年
コースの履修対象者	医学研究科博士課程個別最適医療系専攻 科目等履修生		
養成する人材像	がん医療における各専門分野において、がんのプロフェッショナルとして地域社会に貢献できる人材を養成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	大学院での履修に伴いスキルアップした人材を地域へ還元することができ、地域病院などでのがん専門医療の質を保証する。 がんプロ全国e-learningクラウドなどを利用することにより、時間的・空間的制限を解消し効率的な知識習得ができる。		
教育内容の特色等	がんプロ全国e-learningクラウドによる単位認定や連携大学間での単位互換などを教育手法として導入する。		

大学名等	久留米大学大学院医学研究科医科学専攻修士課程		
コースの名称	修士課程「科目等履修制度」（インテンシブ）		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん看護専門看護師
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	1年
コースの履修対象者	医学研究科医科学専攻修士課程 科目等履修生		
養成する人材像	地域及び施設におけるがんの予防から終末期の緩和ケアまでの過程で、患者とその家族のニーズに応えられる高度実践能力を備えた看護師。		

当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	大学院での履修に伴いスキルアップした人材を地域へ還元することができ、地域医療機関や施設などでのがん看護の質を保証する。
教育内容の特色等	在宅療養者への看護実践を学ぶとともに、がんプロ全国e-learningクラウドについても有効に活用する。

大学名等	産業医科大学大学院医学研究科医学専攻		
コースの名称	臨床腫瘍医養成コース		
コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	臨床腫瘍医
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年
コースの履修対象者	産業医科大学大学院医学研究科 大学院生（医学専攻）		
養成する人材像	臨床腫瘍専門医養成を基本とした上で、高度な研究能力も有することに加え、チーム医療のリード、がん患者の社会生活面での支援等の能力を有し、将来的にはがんセンター等の病院のがん診療体制にも参画しうる人材を養成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	複数大学が連携した継続的な養成システムの構築により、教育や医療における知見、技術等の高度化、共有・均質化が期待される。また、患者の職場復帰や就労支援といった側面からのがん患者支援の向上が期待される。		
教育内容の特色等	<p>既存の臨床腫瘍専門医の養成カリキュラムに、以下の教育手法・教育内容を取り入れることで発展的変化を行い、より実践的な臨床能力と先進的な研究能力の獲得を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他大学と連携しての多職種との合同カンファレンスの実施。 ・院生を他の大学病院のカンファレンス等に参加させ、相互に学生教員の交流を促す。 ・学内の実施体制を整備した上で、講義を補完するものとしてがんプロ全国e-learningクラウドを取り入れる。 ・工学系大学と共同で医療情報工学を用いたGenome Wide Association Studyによる研究を院生も参加させて推進する。 ・本学の特色を生かし、がん患者の職場復帰支援等の知見を授業として組み込むとともに九州がんプロでも依頼があれば知見を提供する。 		

大学名等	産業医科大学大学院医学研究科医学専攻		
コースの名称	放射線腫瘍医養成コース		
コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	放射線腫瘍医
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年
コースの履修対象者	産業医科大学大学院医学研究科 大学院生（医学専攻）		
養成する人材像	放射線腫瘍専門医養成を基本とした上で、高度な研究能力も有することに加え、チーム医療のリード、がん患者の社会生活面での支援等の能力を有し、将来的にはがんセンター等の病院のがん診療体制にも参画しうる人材を養成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	複数大学が連携した継続的な養成システムの構築により、教育や医療における知見、技術等の高度化、共有・均質化が期待される。また、患者の職場復帰や就労支援といった側面からのがん患者支援の向上が期待される。		

教育内容の特色等	<p>既存の放射線腫瘍専門医の養成カリキュラムに、以下の教育手法・教育内容を取り入れることで発展的改変を行い、より実践的な臨床能力と先進的な研究能力の獲得を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他大学と連携しての多職種との合同カンファレンスの実施 ・院生を他の大学病院のカンファレンス等に参加させ、相互に学生教員の交流を促す。 ・学内の実施体制を整備した上で、講義を補完するものとしてがんプロ全国e-learningクラウドを取り入れる。 ・工学系大学と共同で医療情報工学を用いたGenome Wide Association Studyによる研究を院生も参加させて推進する。 ・本学の特色を生かし、がん患者の職場復帰支援等の知見を授業として組み込むとともに九州がんプロでも依頼があれば知見を提供する。
----------	--

大学名等	福岡大学医学研究科先端医療科学系臨床腫瘍学専攻		
コースの名称	がん専門医療人指導者コース		
コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	臨床腫瘍学
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年間
コースの履修対象者	医学研究科先端医療科学系臨床腫瘍学専攻 大学院生		
養成する人材像	がん専門医療人を指導できる人材。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	がん専門医療人を育成できる指導者が輩出される。		
教育内容の特色等	がんプロ全国e-learningクラウドを利用して大学病院ばかりでなく地域の医療機関で働いている医療人が社会人大学院生として入学できる。Web会議システムを使ってケースカンファレンスや講義を受講できる。		

大学名等	福岡大学医学研究科先端医療科学系臨床腫瘍学専攻		
コースの名称	地域がん医療専門医療人養成コース		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	臨床腫瘍学
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年
コースの履修対象者	医学研究科先端医療科学系臨床腫瘍学専攻 大学院生		
養成する人材像	地域がん医療を理解し、実践ができる専門医療人。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	がん医療の均てん化に寄与できる人材が輩出される。		
教育内容の特色等	がんプロ全国e-learningクラウドにより基礎的な知識・技術を学び単位を取得する。 また、地域の医療機関とネットワークを作って大学院生を教育する。		

大学名等	福岡大学医学研究科先端医療科学系臨床腫瘍学専攻		
コースの名称	がん医療専門職業人コース（インテンシブ）		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん医療
コースの開始時期	平成24年10月	修業年限（期間）	6ヶ月
コースの履修対象者	がん医療に対する基礎的な知識・技術を持った看護師，薬剤師，医師		
養成する人材像	一般看護師，薬剤師，医師を指導できるがん医療人。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	各地域の病院でがん医療について，一般看護師，薬剤師，医師を指導・教育できる人材が確保できる。		
教育内容の特色等	がんに関する基礎的な知識・技術とがん医療の各論が研修できる。		

大学名等	福岡大学医学研究科先端医療科学系臨床腫瘍学専攻		
コースの名称	がん医療専門医コース（インテンシブ）		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん専門医
コースの開始時期	平成25年1月	修業年限（期間）	3ヶ月～1年
コースの履修対象者	がん医療に対する基礎的な知識・技術を持った医師		
養成する人材像	一般看護師、薬剤師、医師を指導できるがん専門医。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	各地域の病院でがん医療について，一般看護師，薬剤師，医師を指導・教育しチームリーダーとなる人材が確保できる。		
教育内容の特色等	がんに関する基礎的な知識・技術とがん医療の各論が研修できる。集学的治療、チーム医療を実践する。		

大学名等	福岡県立大学看護学研究科		
コースの名称	地域がん看護人材養成コース		
コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	がん看護専門看護師
コースの開始時期	平成24年4月	修業年限（期間）	2年（長期履修制度あり：3年）
コースの履修対象者	看護学研究科　がん看護専門看護師コース　大学院生		
養成する人材像	病院などの施設だけでなく，地域で生活するがん患者（サバイバー）とそれを支える訪問看護師や多職種と連携して，施設から在宅/地域へのシームレスなケアプラン作成/支援ができる人材。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	がん患者とその家族に対して，医療機関と在宅/地域を繋ぐシームレスなケアやケアのプランニングを行うことが可能になる。		
教育内容の特色等	がんプロ全国e-learningクラウドを効果的に活用する。在宅領域の看護職者とのディスカッションや地域の訪問看護ステーションの協力を得て在宅看護実習を導入し，医療機関から地域/在宅へのシームレスなケアプランニングについて学ぶ。 スピリチュアルケアやヒーリングに関する教育を充実し，ケアプランに生か		

	せる理論と具体的な援助技術に関する学びを深める。
--	--------------------------

大学名等	佐賀大学大学院医学系研究科医科学専攻博士課程		
コースの名称	がん地域診療医師養成特別コース		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	臨床腫瘍医 緩和ケア医
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年
コースの履修対象者	医学系研究科博士課程医科学専攻 大学院生		
養成する人材像	地域基幹病院など中心とする地域がん医療のネットワーク形成にあたり、中核的役割を果たすことができる医師を養成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	養成した人材が中心となって、がん患者の管理に施設・職種横断的に取り組む、地域ネットワークを形成する。このことにより、地域の医療資源を有効に活用し、一部の医療機関への人的負担などの集中を回避しつつ、地域のがん診療の質を向上することができる。		
教育内容の特色等	各地域の基幹病院などでがん診療の実務を行いながら履修ができる様に1)がんプロ全国e-learningクラウドの活用、2)がん薬物療法専門医、緩和ケア専門医による巡回指導を行う。		

大学名等	佐賀大学大学院医学系研究科医科学専攻修士課程		
コースの名称	がん地域医療人養成コース		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん医療に特化した各職種
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	2年
コースの履修対象者	医学系研究科修士課程医科学専攻 大学院生		
養成する人材像	地域基幹病院など中心とする地域がん医療のネットワーク形成にあたり、中核的医師のサポートをする看護師、医療ソーシャルワーカーなど医療スタッフを養成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	養成した人材が中心となって、がん患者の管理に施設・職種横断的に取り組む、地域ネットワークを形成する。このことにより、地域の医療資源を有効に活用し、一部の医療機関への人的負担などの集中を回避しつつ、地域のがん診療の質を向上することができる。		
教育内容の特色等	各地域の基幹病院などでがん診療の実務を行いながら履修ができる様に1)がんプロ全国e-learningクラウドの活用、2)がん薬物療法専門医、緩和ケア専門医による巡回指導を行う。		

大学名等	佐賀大学大学院医学系研究科医科学専攻博士課程		
コースの名称	がん地域診療医師養成特別コース（インテンシブ）		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	臨床腫瘍医 緩和ケア医
コースの開始時期	平成24年10月	修業年限（期間）	1年以上
コースの履修対象者	医学系研究科博士課程医科学専攻 科目等履修生		

養成する人材像	地域基幹病院など中心とする地域がん医療のネットワーク形成にあたり、中核的役割を果たすことができる医師を養成する。
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	養成した人材が中心となって、がん患者の管理に施設・職種横断的に取り組む、地域ネットワークを形成する。このことにより、地域の医療資源を有効に活用し、一部の医療機関への人的負担などの集中を回避しつつ、地域のがん診療の質を向上することができる。
教育内容の特色等	各地域の基幹病院などでがん診療の実務を行いながら履修ができる様に1)がんプロ全国e-learningクラウドの活用、2)がん薬物療法専門医、緩和ケア専門医による巡回指導を行う。

大学名等	佐賀大学大学院医学系研究科医科学専攻修士課程		
コースの名称	がん地域医療人養成コース（インテンシブ）		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん医療に特化した各職種
コースの開始時期	平成24年10月	修業年限（期間）	6か月以上
コースの履修対象者	医学系研究科修士課程医科学専攻 科目等履修生		
養成する人材像	地域基幹病院など中心とする地域がん医療のネットワーク形成にあたり、中核的医師のサポートをする看護師、医療ソーシャルワーカーなど医療スタッフを養成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	養成した人材が中心となって、がん患者の管理に施設・職種横断的に取り組む、地域ネットワークを形成する。このことにより、地域の医療資源を有効に活用し、一部の医療機関への人的負担などの集中を回避しつつ、地域のがん診療の質を向上することができる。		
教育内容の特色等	各地域の基幹病院などでがん診療の実務を行いながら履修ができる様に1)がんプロ全国e-learningクラウドの活用、2)がん薬物療法専門医、緩和ケア専門医による巡回指導を行う。		

大学名等	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻、新興感染症病態制御学系専攻、放射線医療科学専攻（博士課程）		
コースの名称	がん専門医師・薬剤師養成コース		
コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	がん専門医師・薬剤師
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年（博士課程）
コースの履修対象者	医歯薬学総合研究科医療科学専攻、新興感染症病態制御学系専攻、放射線医療科学専攻 大学院生		
養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・がんに関する高度な知識と国際的な視野をもった専門医療人。 ・チーム医療を意識したがん専門医療人。 		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	<ul style="list-style-type: none"> ・がんに関する高度な知識と国際的な視野をもった指導医等が養成可能となる。 ・多職種間の連携によりチーム医療を意識したがん専門医療人の養成が期待される。 		

教育内容の特色等	<p>がんプロ全国e-learningクラウドの推進や学生の大学間交流により、各大学の個性、得意分野の相互連携・補完が可能である。</p> <p>また、国際学会での発表や国際研修派遣を積極的に行うことで、国際的な感覚と視野を涵養できる。</p>
----------	--

大学名等	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻修士課程		
コースの名称	がん専門看護師養成コース		
コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	がん専門看護師
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	2年（修士課程）
コースの履修対象者	医歯薬学総合研究科保健学専攻 大学院生		
養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・がんに関する高度な知識と国際的な視野をもった専門医療人。 ・チーム医療を意識したがん専門医療人。 		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	<ul style="list-style-type: none"> ・がんに関する高度な知識と国際的な視野をもった看護師が養成可能となる。 ・多職種間の連携によりチーム医療を意識したがん専門医療人の養成が期待される。 		
教育内容の特色等	<p>がんプロ全国e-learningクラウドの推進や学生の大学間交流により、各大学の個性、得意分野の相互連携・補完が可能である。</p> <p>また、国際学会での発表や国際研修派遣を積極的に行うことで、国際的な感覚と視野を涵養できる。</p>		

大学名等	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻，新興感染症病態制御学系専攻，放射線医療科学専攻（博士課程）		
コースの名称	がん地域貢献医師・薬剤師養成コース		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん地域貢献医師・薬剤師
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年（博士課程）
コースの履修対象者	医歯薬学総合研究科医療科学専攻，新興感染症病態制御学系専攻，放射線医療科学専攻 大学院生		
養成する人材像	離島や僻地でのがん医療の質向上や医療人の育成など，地域がん医療に貢献する優れた，かつ即戦力として活躍できるがん専門医療人。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	<ul style="list-style-type: none"> ・医師等不足によるがん医療の地域間格差の解消 ・がん在宅医療やがん地域連携パスに対応できる医療人の養成 		
教育内容の特色等	在宅医療で先進的取り組みを行っている長崎市医師会のDrネット及び離島や僻地での地域医療機関との連携を行う。		

大学名等	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻（修士課程）		
コースの名称	がん地域貢献看護師養成コース		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん地域貢献看護師
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	2年（修士課程）
コースの履修対象者	医歯薬学総合研究科保健学専攻 大学院生		

養成する人材像	離島や僻地でのがん医療の質向上や医療人の育成など、地域がん医療に貢献する優れた、かつ即戦力として活躍できるがん専門医療人。
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	<ul style="list-style-type: none"> ・医師等不足によるがん医療の地域間格差の解消。 ・がん在宅医療やがん地域連携パスに対応できる医療人の養成。
教育内容の特色等	在宅医療で先進的取り組みを行っている長崎市医師会のDr ネット及び離島や僻地での地域医療機関との連携を行う。

大学名等	熊本大学大学院医学教育部医学専攻		
コースの名称	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース		
コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	がん薬物治療 がん外科治療 放射線治療 緩和医療
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年
コースの履修対象者	医学教育部博士課程 大学院生		
養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・研修医からシームレスで大学院に進学でき、リサーチ・マインドを持ち、かつ国際的な視野を持ったがん専門医療人を養成。 ・多職種間の連携により、より高度ながん診療が実践でき、また地域がん診療レベルの向上に貢献できる医療人。 		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修をする一方で、大学院生として研究に従事する事が可能であり、大学院学生の期間が短縮できる。 ・別に新設した「がん看護専門看護師コース」との連携により、医師・看護師などの多職種間でのより一層レベルの高いチーム医療の実践。 ・地域におけるがん医療の一層のレベルアップと活性化を図る事で地域間格差をなくす。 		
教育内容の特色等	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度から大学院へ進学する事でシームレスな教育。 ・医師・看護コース合同セミナーの開催。 ・熊本大学独自のシステムとがんプロ全国e-learningクラウドを利用することでいつでも・どこでもがんに関する最新の知識が学習できる。 ・学内の地域医療関連の寄付講座との連携により、がん専門医療職への派遣・ローテーションを行う。 ・がんの特化した内容の大学院セミナーを開催。 		

大学名等	熊本大学大学院保健学教育部保健学専攻		
コースの名称	がん看護専門看護師コース		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん看護研究分野
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	博士前期課程 2年 博士後期課程 3年
コースの履修対象者	保健学教育部博士課程（前期・後期） 大学院生		
養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・がん専門看護師の育成・促進，精神専門看護師，在宅専門看護師との連携。 ・がん看護を担う人材の育成。 		

当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	<ul style="list-style-type: none"> ・がん看護専門看護師の育成・促進による高度看護実践者の排出・精神看護・在宅看護の専門看護師との連携による地域との連携拡充・発展並びに対応困難な患者に対応できる高度な知識・技術・見識を備えた看護職の人材育成，地域における看護実践能力向上。 ・チーム医療の確立による医療体制の充実とともに，診断期から終末期までのケアの提供による患者・家族の生活の質の保証。
教育内容の特色等	<ul style="list-style-type: none"> ・がん専門看護師として高度看護実践できる人材育成。 ・がん看護専門看護師と精神看護・在宅看護の専門看護師との連携による地域がん医療への貢献及びがん患者・家族へのこころのケアの充実。 ・がん看護に関する研究手法，看護ケア開発。

大学名等	熊本大学大学院保健学教育部保健学専攻		
コースの名称	医学物理士養成コース 博士前期課程		
コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	医学物理学
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	2年
コースの履修対象者	保健学教育部医用放射線科学分野 大学院生		
養成する人材像	臨床現場で指導的役割を果たす医学物理士を養成する。また，医学物理の研究者として，自立し独創的研究活動を行い，かつ高度に専門的な業務に従事するために必要な柔軟な問題解決能力及びその基礎となる豊かな学識とグローバルな視野を持つ人材を養成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	<ul style="list-style-type: none"> ・放射線治療，診断，核医学において高度な理工学的知識を有し，医学物理士として指導的立場で臨床業務に従事することができる。 ・医学物理における多様な知識創造活動が進み，先進的な医学物理学の学問体系の構築に寄与できる。 ・放射線治療と診断に関する医学物理領域において国際的競争力のある最先端・次世代の医療機器の開発が期待される。 ・アジアを中心として，世界レベルで活躍できる国際感覚にすぐれた医学物理士，及び医学物理研究者を養成できる。 		
教育内容の特色等	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床における医学物理に関する問題を実践的に研究する。医学物理士認定試験受験に必要とされる医学物理教育を必修とする。 ・保健学系出身者に医学物理教育を提供する。 ・がんプロ全国e-learningクラウドによりコンテンツの相互利用ならびに単位認定を行う。 		

大学名等	大分大学大学院医学系研究科 修士課程 看護学専攻		
コースの名称	地域貢献がん看護専門看護師コース		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん看護専門看護師
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	修士課程2年
コースの履修対象者	医学系研究科看護学専攻修士課程 大学院生		
養成する人材像	地域全体を視野に入れたがん看護の質の向上に向けて，中核的役割を果たし，開発的役割がとれるチェンジ・エイジェントとして機能できる人材を育成する。		

当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	養成した人材が、がん診療連携拠点病院と在宅医療を含む地域の医療機関の多職種と横断的に連携して、地域ネットワークを構築しながら、地域のがん看護の質を向上することができる。
教育内容の特色等	これまでのがん看護専門看護師の教育課程に、がんプロ全国 e-learning クラウドを取り入れ、在宅医療や地域連携における現状と課題について分析し、地域・他職連携による課題解決の方法論を開発していく科目・実習を改変・拡充して発展させる。

大学名等	大分大学大学院医学系研究科 医学専攻 博士課程		
コースの名称	地域貢献がん専門医療人養成コース		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	医師，看護師，薬剤師他
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	博士課程4年
コースの履修対象者	医学系研究科 医学専攻 博士課程 大学院生		
養成する人材像	がん専門医療者としての高い技能・知識を身につけた地域医療人を育成する。地域病院において病院全体のがん医療の質を向上させることができる医療人を育成する。また、将来に渡って地域病院における若手育成に貢献できる指導者を養成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	地域病院のがん医療の質の向上が期待される。将来に渡って、地域で優秀な若手医療者を養成することができるようになる。		
教育内容の特色等	地域病院へ出向いての研修，在宅医療の実践研修，地域医療学講座・腫瘍内科学講座での診療・カンファレンスを通じた研修など実践型学習とがんプロ全国 e-learning クラウドなどを使用した自己学習を組み合わせたカリキュラムを実践する。		

大学名等	大分大学大学院医学系研究科		
コースの名称	地域がん医療専門医療人養成コース（インテンシブ）		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	看護師，医師，薬剤師他
コースの開始時期	平成24年9月	修業年限（期間）	2年
コースの履修対象者	博士・修士課程卒業後のプレがん専門看護師，医師，薬剤師または地域医療機関の看護師，医師，薬剤師他		
養成する人材像	地域病院だけでなく、地域全体のがん医療の質を向上させることができる医療人を育成する。特に在宅医療やパス連携に関わる人材を育成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	地域全体の看護をはじめとしたがん医療の質の向上が期待される在宅医療，パス連携を通じた地域全体のネットワークをつくることにより、将来のさらなるがん医療の充実を目指すことが可能となる。		
教育内容の特色等	地域病院へ出向いての研修，在宅医療の実践研修，地域医療学講座での診療・カンファレンスを通じた研修など実践型学習とe-learningを使用した自己学習を組み合わせ、無理なく効率よく職業人が受講できる。看護師に関しては、がん看護専門看護師としての役割獲得・拡大や実践能力向上のための事例検討や講義，一般看護師へのがん看護に関する教育の実践なども行う。		

大学名等	大分大学大学院医学系研究科		
コースの名称	多職種連携教育コース（インテンシブ）		
コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	医師，看護師，薬剤師他
コースの開始時期	平成24年9月	修業年限（期間）	2年
コースの履修対象者	医師，看護師，薬剤師他		
養成する人材像	がんを専門とする病棟（腫瘍センター，血液病棟など）において中心的存在となって診療に携わることができる医師，看護師，薬剤師のチームをつくる。具体的にはそれぞれの分野で日常がん診療のリーダーとなり得る人材，院内全体のカンファレンスの運営，若手がん医療人育成のための学習プログラム作成などが積極的に指揮できる人材の育成を目指す。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	各職種に優秀な人材が揃うことにより高度な総合的がん診療の提供が可能となる。また，これら医師，看護師，薬剤師によるチームにより，「患者中心のがんチーム医療」の具体化が可能となる。また，職種毎にリーダーとなり，次世代の若手育成に貢献できる。		
教育内容の特色等	症例検討会，病棟回診，カンサーボードなどにチームとして参加し，チームとして行うべき役割を実行に移してゆく。加えて，e-learning，当大学で独自に開発中である自主運営型自主学習システム（チーム医療コース及び指導者育成コース）などを利用することにより，多忙な職業人の参加を可能にする。		

大学名等	大分大学大学院医学系研究科		
コースの名称	がん研究者養成コース（インテンシブ）		
コースの重点区分	③研究者	養成する専門分野	医師，看護師，薬剤師他
コースの開始時期	平成24年9月	修業年限（期間）	4年
コースの履修対象者	医師，看護師，薬剤師他		
養成する人材像	基礎研究及び臨床研究の両方を経験しながら，がんに関する基礎的知識と臨床知識の両者を兼ね備えた総合的能力をもつ優秀な研究者を育成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	基礎及び臨床の知識を兼ね備えた優秀な研究者の育成により，新治療や優秀な医薬品の開発が期待できる。さらに，現在大学で個々に行われている基礎研究と臨床研究の橋渡し役を担う存在になることによって，大学のそれぞれの研究が有機的に結び付き，より臨床に直結した成果が期待できる。		
教育内容の特色等	基礎研究とそれに関連する臨床研究の両者に同時に研究者として参加する。両者を経験することにより，研究全体の流れを学ぶことが可能となり，今後の新治療開発，新医薬品開発に必要な包括的教育が受けられる。		

大学名等	宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科 博士課程 医学獣医学専攻		
コースの名称	地域がん治療専門医育成コース		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん治療医
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年
コースの履修対象者	医学獣医学専攻 大学院生		

養成する人材像	がんを総合的に全人格のなかで捉え、生活の質をも考慮したがんの総合的治療が行える専門性と、将来のがん臨床研究を遂行できる高度な専門知識を備え、地域に定着し、地域がん医療に貢献できる医療人を育成する。
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	地域がん医療の質の向上が期待でき、地域医療に貢献できる。
教育内容の特色等	大学附属病院内に加え、医師不足地域での実地研修を行う。地域医療機関における研修期間は、本学の教員が遠隔会議システムを用いた指導を行う。

大学名等	宮崎大学大学院医科学看護学研究科 修士課程 看護学専攻		
コースの名称	地域医療に貢献するがん看護専門看護師養成コース		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん看護専門看護師
コースの開始時期	平成24年10月	修業年限（期間）	2年
コースの履修対象者	3年以上の看護実務経験を有する看護師（がん看護の実務経験2年以上）で、コース修了後、地域のがん医療に貢献する意思のある者		
養成する人材像	地域がん医療の充実・向上、地域連携を目指し、ジェネラリストの教育のみならず、地域のがん看護専門看護師間の情報共有、自己研鑽に努め、地域に根ざした活動ができるがん看護専門看護師。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	県内のがん拠点病院だけでなくがん医療に積極的な施設に、がん看護専門看護師を配置し、地域がん医療の質向上に貢献できる。施設間の連携が強化でき、がん患者の在宅医療へのスムーズな移行が可能になる。		
教育内容の特色等	地域で活躍しているがん看護専門看護師による講義を積極的に導入し、地域のがん医療の現状・問題点、連携のあり方などについて教育を行う。特に「緩和ケア論」「ターミナルケア論」では、地域データ等を活用した講義を行う。地域への定着、看護の質の向上のためのフィジカルアセスメント、抄読会を開催し、院生と地域のがん看護専門看護師のフォローアップを兼ねた研修を行う。		

大学名等	宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科 博士課程 医学獣医学専攻		
コースの名称	地域がん総合治療医育成コース（インテンシブ）		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん臨床医
コースの開始時期	平成24年9月	修業年限（期間）	1年
コースの履修対象者	医学獣医学専攻大学院生及び地域の医療機関において実際のがん診療に従事している医師		
養成する人材像	各臓器の専門がん治療医が充足していない地域医療機関において、がんの標準治療から終末期の緩和ケアまでトータルに診療できる、地域がん医療を中心的に担う医療人。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	各臓器の専門がん治療医が充足していない地域において、患者は標準治療から終末期の緩和ケアまでトータルながん診療を受けることができる。患者や家族を含む地域住民の不安解消にも寄与できる。		
教育内容の特色等	がんの標準治療から終末期の緩和ケアまで、トータルにがん患者を診療できるように集中講義を行う。		

大学名等	宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科 博士課程 医学獣医学専攻		
コースの名称	成人T細胞白血病専門医療人養成コース（インテンシブ）		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん臨床医
コースの開始時期	平成24年10月	修業年限（期間）	1年
コースの履修対象者	医学獣医学専攻大学院生及び地域の医療機関においてがん診療に従事している医師		
養成する人材像	成人T細胞性白血病(ATL)を、疫学、感染症学、産科学、皮膚科学、血液学、腫瘍学などの多方面から理解でき、ATL感染の予防、患者・家族教育、治療ができる医師を養成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	本県を含む西日本、南九州に多いATL患者の治療成績の向上に寄与できることに加え、ATLキャリアの相談、教育、感染予防を行える人材育成により、ATL患者や家族の不安解消、ATLの撲滅に寄与する。		
教育内容の特色等	短期間(12回)のATLに特化した集中講義、ATL診療の実習など実践的なコースである。受講生が実際に担当している症例をもとに、 <u>鹿児島大学と連携し</u> 、年4回の遠隔会議や相互訪問による合同での症例検討や発表を行う。		

大学名等	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科		
コースの名称	僻地・離島医療専門医療人養成コース		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん臨床医
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年
コースの履修対象者	医歯学総合研究科博士課程 大学院生		
養成する人材像	僻地・離島でのがん医療を総合的に行える人材の育成を目的とする。医師、薬剤師、看護師、放射線技師等と協調してチーム医療の核となる指導的がん専門医を養成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	僻地・離島で施行が困難な高度ながん治療を実践することが可能になり、がん治療の均てん化に貢献できる。また、特に離島でのメディカルスタッフの育成にも貢献する。		
教育内容の特色等	がんの特化した大学院教育の中で高度な研究遂行能力、診療能力を育成する。特に離島で問題となるがん救急やがんの全般的治療について各診療科や救急部等で経験的学習を実践することに新規性がある。		

大学名等	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科		
コースの名称	がん専門薬剤師養成コース（インテンシブ）		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	臨床薬剤師
コースの開始時期	平成24年11月	修業年限（期間）	6ヵ月
コースの履修対象者	離島・僻地の病院・調剤薬局に勤務する薬剤師		
養成する人材像	効能効果及び副作用モニタリングができ、質の高い化学療法管理を実施できる薬剤師。		

当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	離島・僻地に在住する患者に安全で質の高い化学療法を実施できる体制を確立できると共に、拠点病院と離島・僻地との連携構築によるシームレスな医療の提供が可能となる。
教育内容の特色等	離島や僻地に在住する患者にも、地域の病院のみならず在宅においても質の高い化学療法を安全に実施できる体制を確立することが重要となる。具体的には、これまで展開してきたがん専門薬剤師養成インテンシブコースを更に発展させ、e-learningを用い医師養成ならびに緩和医療専門医療人養成インテンシブコースと相互受講できる体制を確立する。

大学名等	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科		
コースの名称	消化器がん集学的治療専門医療人養成コース（インテンシブ）		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん臨床医
コースの開始時期	平成25年1月	修業年限（期間）	2ヶ月
コースの履修対象者	消化器がん専門医		
養成する人材像	消化器がん（食道、胃、大腸、肝臓、胆・膵）に関して、手術、化学療法、放射線治療を含めた集学的治療を全般的に深く理解できる高度医療人を育成し、僻地や離島でがん治療を実践する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	僻地や離島で消化器がん患者の高度医療に携わることが可能になり、地域のがん治療の均てん化に貢献できる。		
教育内容の特色等	消化器がんの集学的治療に関する各大学間の発表や、講演会を通じ最新の消化器がん治療の動向を学ぶ。特に化学療法に関しては新しいプロトコールに参加し、経験的学習を実践することが特色である。		

大学名等	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科		
コースの名称	緩和ケア専門医療人養成コース（インテンシブ）		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	緩和医療
コースの開始時期	平成25年1月	修業年限（期間）	3ヶ月
コースの履修対象者	がん専門医，看護師，薬剤師		
養成する人材像	がん治療を終末期の緩和ケアまでをトータルに理解し、特に終末期の緩和診療に関して対処できる医療人を育成する。特に僻地や離島における緩和医療の担い手を育成する。緩和医療学会の専門医，がん専門及び緩和ケア専門看護師，緩和ケア専門薬剤師等の養成。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	がん患者のニーズに対応でき、本県に特有の離島や郡部などを含む地域でも活躍できる、高度がん医療人の育成。 国家的課題である、がん診療の均てん化を遂行し、がん患者や家族の不安解消に寄与する。		
教育内容の特色等	緩和ケアの系統的講義を行い、職種間の相互理解を進め、患者にとって、より効率的な緩和ケアの実践を可能とする教育を行う。 既にある本学離島医療学講座とも協力体制をとり、本県に特有の離島医療に対処できる教育体制が特色である。		

大学名等	鹿児島大学大学院歯学総合研究科		
コースの名称	成人T細胞白血病専門医療人養成コース（インテンシブ）		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん臨床医
コースの開始時期	平成24年11月	修業年限（期間）	5ヶ月
コースの履修対象者	歯学総合研究科博士課程大学院生及び地域医療機関で勤務する血液専門医		
養成する人材像	ATLに関する高度な研究遂行能力とともに、造血器腫瘍一般とともにATLに対して診断から治療、終末期の緩和ケアまで、トータルに診療できる高度医療人を育成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	本県を始めとする南九州に多発しているATL患者の治療成績を向上させると同時に、ATLキャリアの相談に対応できる医療人を育成することにより、国家的課題である、がん診療の均てん化をATLという特殊ながんに於いて成し遂げ、がん患者や家族の不安解消に寄与する。		
教育内容の特色等	短期間のATLに特化した集中講義、ATL診療の実習などを行う実践的なコース。宮崎大学との連携で、受講生が実際に担当している症例などを基にして、年4回の遠隔会議や相互訪問による合同での症例検討や発表をおこなう。日本で最も多発している2県による連携の教育体制が特色である。		

大学名等	琉球大学大学院医学研究科医科学専攻		
コースの名称	腫瘍疼痛制御緩和ケアプログラム		
コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	ペインクリニック専門医 緩和ケア専門医
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年
コースの履修対象者	医学研究科医科学専攻大学院生		
養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的に活躍できる緩和ケア、ペインクリニック専門医。 ・地域医療の特性を理解し、地元貢献する緩和ケア、ペインクリニック専門医。 		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	<ul style="list-style-type: none"> ・がん患者の全人的苦痛を理解し、緩和する知識と技能を有する緩和ケアチームのシステムを構築し、マネジメントする。 ・緩和ケアチームの中で身体的苦痛、疼痛緩和を特に専門として、各種神経ブロックや薬物療法に関する専門知識と手技を実行できる。 		
教育内容の特色等	大学病院と地域がん拠点病院の緊密な連携のもと実習を行う。特に離島特有のがん患者の問題を経験し、検討する機会を持てる。		

大学名等	琉球大学大学院医学研究科医科学専攻		
コースの名称	放射線腫瘍専門医養成プログラム		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	放射線治療医
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年
コースの履修対象者	医学研究科医科学専攻大学院生		

<p>養成する人材像</p>	<p>島嶼県沖縄では県内でがん治療を完結する必要がある。しかしがん治療に重要な役割を果たす放射線治療の専門医は、沖縄県において著しく不足している（4人/県…2012年1月現在）。県内での養成が必須かつ急務であり、以下の人材を養成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県内のがん患者に安定して標準的放射線治療を行い高精度放射線治療（IMRT, IGBT等）の実施可能な放射線治療専門医。 ・沖縄県内の放射線治療医を育成し、放射線治療に関わるスタッフ（診療放射線技師, 医学物理士, 品質管理士, 看護師等）の指導的立場を務めることができる放射線治療指導医。 ・当大学の医学生・研修医, 県内医療機関の医師に放射線治療の基礎と臨床的重要性を教育指導し、放射線治療医としてリクルートすることのできる医師。 ・各臓器がん専門医・腫瘍内科医らと、診療科横断的に腫瘍学の観点から放射線治療の適応判断（根治適応, 緩和適応）も含めた専門的なディスカッションが可能な医師。 ・先進的治療技術の開発とともに、臨床試験などの臨床研究を通じて質の高いグローバルなエビデンスを構築し発信できる医師。
<p>当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）</p>	<p>当該人材が育成されることにより、更に安定した放射線治療を県内の癌患者に提供することが可能となる。これまで人材の不足により県内での適用が十分でなかった高精度放射線治療も広く提供可能となることが期待される。診療科横断的な知識を有するメリット, 他診療科とのコネクションを活かし、地域のがん診療におけるリーダー, コーディネーター的役割を果たす人材像が期待される。がん医療における放射線治療の重要性が医療関係者に十分認識されるようになり、当該人材を始めとした放射線治療に関わるスタッフ増加が加速することが期待される。以上により、適切な放射線治療の適用が推進され、島嶼県沖縄におけるがん診療の均てん化が達成される。</p>
<p>教育内容の特色等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・放射線腫瘍学の基本となる放射線物理学・放射線生物学を学ぶとともに、臨床現場での On the job training を重視した教育を行う。 ・県内放射線治療施設での実地研修を通じ多くの治療症例を経験する。 ・地域での安定した治療の提供に十分な放射線治療医の充足が重要であり、学生や研修医のリクルートの重要性を教育する。 ・高精度放射線治療の治療技術に関しては、当大学のみならず九州がんプロ内の他機関と連携し実地研修を行う。特に、IMRT, SRT 等の高精度外部照射技術については、九州大学大学院の高度先端がん放射線治療医師養成コース, 医学物理士養成コース博士後期課程との連携により教育内容の強化をはかる。 ・積極的に診療科横断的カンファレンス等に参加しディスカッションを経験することにより、治療技術的な「放射線治療学」にとどまらない、「放射線腫瘍学」の習得をめざす。 ・根治的治療のみならず、緩和的治療における放射線治療の適応, 方法を習得させる。 ・全国レベルの学会, 班会議, 研究会への参加を推進する。 ・全国レベルの多施設臨床試験に積極的に関与し、がん治療におけるエビデンス構築の重要性を認識するとともに、自ら臨床試験のコンセプトを立案することができる臨床的問題意識を持った腫瘍医を目指す。

大学名等	琉球大学大学院医学研究科医科学専攻		
コースの名称	がん薬物療法専門医プログラム		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	腫瘍内科医
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年
コースの履修対象者	医学研究科医科学専攻大学院生		
養成する人材像	臨床腫瘍学の進歩に即するがん薬物治療に精通し、十分な学識と経験を有する優れた医師。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	沖縄県に現在は2名しかいないがん薬物療法専門医が増えることにより、専門家不足の沖縄県のがん化学療法のレベルアップが確実に図れる。		
教育内容の特色等	医学部附属病院がんセンターが中心となり、外来化学療法室やがんセンターが運営され、診療科横断的な診療体制が整いつつあり、診療科の協力が得られやすい。		

大学名等	琉球大学大学院医学研究科医科学専攻		
コースの名称	医学物理学プログラム		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	医学物理士，放射線治療品質管理士
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	2年
コースの履修対象者	医学研究科医科学専攻修士課程大学院生		
養成する人材像	近年の放射線治療技術や装置の高精度化にともない、治療関連機器の品質管理や情報処理等の面で理工系出身者の必要性も増加している。本コースでは、理工系出身学生を中心に高精度放射線治療に必要とされる人材を養成する。今後は粒子線治療の増大が予想されるので、粒子線治療への対応も視野に含んだ人材養成を行う。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	沖縄県でも放射線治療施設が増加しつつあるが現在、沖縄県では放射線治療に従事している理工系出身者は皆無であり、当該養成コースによる人材が、地域の高精度放射線治療の拡充及び品質向上に貢献する。将来的に粒子線治療施設が設置された場合でも、対応可能である。		
教育内容の特色等	放射線治療では、CTやMR画像等は必要不可欠であり、また治療機器の進歩に伴い、情報処理技術等、広範な知識が必要である。本コースでは放射線治療のみでなく医用画像及び情報処理の技能も養成する。なお、当該コースのみで教育体制を整えることは不可能であるので、筑波大学主催のがんプロ全国e-learningクラウドに積極的に参加・利用することで教育体制を整える。		

大学名等	琉球大学大学院保健学研究科保健学専攻博士前期課程		
コースの名称	がん看護専門看護師養成プログラム		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん看護専門看護師
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	2年
コースの履修対象者	保健学研究科保健学専攻博士前期課程大学院生		

養成する人材像	がん医療の現場において、複雑な問題を抱えるがん患者・家族に対して、卓越した看護実践・相談・倫理調整・教育・研究等の役割が遂行できる高度実践看護師。特に、地域に特化した実践・教育活動ができる人材の育成。
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動を基盤とし、高度な知識技術を備えた看護実践家の育成。 ・地域で活動する看護師への教育的支援等の役割開発。 ・島嶼地域を抱える沖縄県のがん地域医療の均てん化に貢献できる。
教育内容の特色等	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年より学内に開設されるシミュレーション研修センターの活用し、多職種（医師、薬剤師、放射線技師）連携教育やフィジカルアセスメント、事例検討会等を開催し、地域で複雑な問題を抱えるがん患者・家族の問題解決のための高度な実践教育を行う。 ・地域で活動しているがん看護専門看護師による講義を導入し、地域におけるがん医療の現状、問題点、連携のあり方等について多方面から教育を行う。 ・地域で療養するがん患者の患者会やがんサロン等の運営に参画し、相談支援の役割機能を習得する。

大学名等	琉球大学大学院医学研究科医科学専攻		
コースの名称	地域がん専門薬剤師養成コース（インテンシブ）		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん治療、緩和医療薬剤師
コースの開始時期	平成24年4月	修業年限（期間）	9か月間
コースの履修対象者	沖縄県全域の薬剤師、対象者の募集方法は、公開授業とする。		
養成する人材像	地域がん治療に関与する、がん治療専門薬剤師、さらに緩和医療専門薬剤師養成を目的とする。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	沖縄県でのがん、または緩和医療にかかわる人材の能力均等化とそれらに関わる地域チーム医療の強化に繋がることが予測される。		
教育内容の特色等	複数科に渡るがん治療の講義、実習やチームへの参加、またがん治療と緩和医療を同時に受講、実習を行い、これらに精通する薬剤師の養成、またe-learningを用いた講義や受講。		

大学名等	琉球大学大学院保健学研究科保健学専攻		
コースの名称	がん看護エキスパートナース養成コース（インテンシブ）		
コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん看護エキスパートナース
コースの開始時期	平成24年10月	修業年限（期間）	1年
コースの履修対象者	沖縄県内（離島含む）で従事する看護師（がん看護分野3年以上の勤務を有する者）を対象とする。		
養成する人材像	離島地域を含む沖縄県内のがん医療水準の向上を目指して、がん診療連携拠点病院や基幹病院などで、将来的にがん看護における認定看護師及び専門看護師となる人材の育成。		

<p>当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・がん医療の分野において卓越した看護実践を発揮することにより、がん患者・家族のケア向上に貢献できる。 ・島しょ地域を抱える沖縄県のがん医療の均てん化に貢献できる。 ・地域がん医療における多職種チームのコーディネーターとしての役割拡大。
<p>教育内容の特色等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年より学内に開設されるシミュレーションセンターの活用により、がん看護に特化した高度な知識、技術の習得を、多職種連携（医師、薬剤師、放射線技師）のもと、現場で活躍するがん看護専門看護師、認定看護師による講義演習指導も取り入れる。 ・特に本島北部地域や宮古・八重山などの離島地域で勤務する看護師には、e-learningによる実践教育を実施し、後方支援なども行う。



九州がんプロ養成基盤推進協議会 事務局

〒812-8582 福岡県福岡市東区馬出3-1-1
TEL: 092-642-6240 FAX: 092-642-6246
E-mail: ijsganpro@jimu.kyushu-u.ac.jp
HP: <http://www.k-ganpro.com/>